

障害者歯科医療の推進に向けた調査結果について

1 調査の目的

平成 30 年 3 月策定の「東京都歯科保健推進計画」に基づき、地域で支える障害者歯科医療を推進するため、地域の歯科診療所での受診に関する課題等を明らかにすることを目的として実施。

2 調査対象

以下の事業所及び事業所へ通う利用者に対して調査を実施（併設を除く 2,114 か所（うち、入所施設 108 か所）へ送付）

(1) 障害児サービス事業所

児童発達支援事業所（383）、福祉型児童発達支援センター（27）、医療型児童発達支援センター（5）、居宅訪問型児童発達支援事業所（1）、福祉型障害児入所施設（9）、医療型障害児入所施設（12）

(2) 障害者サービス事業所

施設入所支援（87）、生活介護（546）、自立訓練（機能訓練）（30）、自立訓練（生活訓練）（80）、宿泊型自立訓練（12）、就労継続支援 A 型（104）、就労継続支援 B 型（811）、就労移行支援（317）、地域活動支援センター（165）、グループホーム（入所施設併設等の事業所のみ）

3 調査方法

(1) 上記「1 調査対象」の事業所へアンケートを依頼（郵送）（平成 31 年 1 月）

(2) 事業所が、事業所用回答用紙及び利用者用回答用紙をとりまとめ、返信用封筒にて送付（平成 31 年 2 月末㍻）

4 回収総数

事業所 972 か所（うち、入所施設 55 か所）、利用者 21,819 名

5 調査解析

東京歯科大学社会歯科学講座 平田 創一郎 教授へ依頼（解析結果は、別紙のとおり。）

【調査結果の概要】

歯科にかかっている方は、約7割であり、通院先としては、「地域の歯科診療所」が、約6割という結果であった。

なお、歯科医療機関を選ぶ理由としては、「優しく丁寧だから（約6割）」、歯科医療機関に望むこととしては、「障害に配慮した丁寧な対応（約3割）」が、多数を占めた。

また、事業所が利用者へ紹介する歯科医療機関は、「地域の歯科診療所」が約6割であり、一方で、「どこを紹介すれば良いか分からない」が約2割を占めた。歯科医療機関の情報入手元としては、自由記載である「利用者・家族からのクチコミ」が、約1割を占めた。

今回の調査においては、障害者歯科を行う地域の歯科診療所の対応力や情報提供が求められていること、歯科受診に関する普及啓発の必要性等が明らかとなった。

<障害者ご本人に対する調査>

- 「歯科医療機関へ通っている方・訪問歯科診療を受けている方」は、約7割。
（歯科医療機関へ通っていない方（約3割）の通っていない理由としては、「必要ないから」が、約5割。）
- 「歯科健診を受診している方」は、約6割。
- 歯科医療機関に通っている理由（複数回答可）として、「歯の清掃」・「定期的に通っている」・「歯石取り」が、それぞれ約6割～4割。
むし歯治療は、約3割であり、予防処置が高い傾向。
- 通っている歯科医療機関は、「地域の歯科診療所」が、約6割。「都・区市の口腔保健センター」が、約2割。
- 「かかりつけ歯科医を決めている方」は、約8割。（このうち、定期的な歯科受診につながっていない方は、約1割。）
- 歯科医療機関を選ぶ理由として、「スタッフが優しく丁寧」が、約6割。
- 歯科治療を受ける上で、困っていることとして、「治療が怖い・治療の説明が分からない」が、約3割。
- 歯科医療機関に望むこととして、「障害に配慮した丁寧な対応」が、約3割。

<事業所に対する調査>

- 「歯科健診を実施している」は、約3割。入所施設の実施率は、約8割。
- 歯科健診を実施していない場合の理由として、「利用者に任せている」が、約8割。
- 現在、歯科健診を実施していないが、「今後実施予定・検討している」は、約1割。
- 利用者へ紹介する歯科医療機関として、「地域の歯科診療所」が、約6割。「どこを紹介すれば良いか分からない」が、約2割。
- 紹介する歯科医療機関の情報入手元として、「区市町村からの紹介」が、約2割。
その他の自由記載の「利用者・家族からのクチコミ」が、約1割。

<事業所調査結果の概要>

○ 回答事業所の概要

- ・ 入所施設：5.7%、通所のみ施設：92.0%
- ・ 主な利用者 身体障害の方：29.1%、知的障害の方：62.7%、精神障害の方：37.3%、発達障害の方：27.2%、難病等の方：6.0%
- ・ 平均利用者数 23.4名（入所施設：60.9名、通所のみ施設：21.6名）

○ 事業所内における職員配置（歯科医師・歯科衛生士）

- ・ 歯科医師の配置あり：5.8%（常勤：1.3%、非常勤：5.7%）
- ・ 歯科衛生士の配置あり：2.3%（常勤：1.2%、非常勤：1.9%）
- ・ 入所施設や、難病等の方が利用されている施設が、歯科職の配置割合が高い傾向

○ 事業所内の歯科診療所の有無

- ・ 事業所内に歯科診療所あり：1.7%
- ・ 入所施設や、難病等の方が利用されている施設が、歯科診療所ありの割合が高い傾向

○ 事業所における歯科健診の実施

- ・ 歯科健診を実施している：29.5%
- ・ 入所施設や、知的障害・難病等・身体障害の方が利用されている施設、歯科職の配置がある場合で、実施率が高い傾向

○ 歯科健診を実施している場合の頻度・場所・実施者・対象者

- ・ 歯科健診の実施頻度（中央値）：年1回
- ・ 歯科健診を施設内で実施：86.8%
- ・ 歯科健診の実施者 地域の歯科診療所：38.3%、地区歯科医師会：34.5%
地域の歯科診療所の割合 入所施設：61.9%、通所のみ施設：34.0%
地区歯科医師会の割合 入所施設：11.9%、通所のみ施設：38.6%
- ・ 歯科健診の対象者 利用者全員：59.6%、希望者のみ：29.3%、必要と感じた利用者のみ：6.3%

○ 歯科健診を実施していない場合の理由

- ・ 利用者に任せている：81.6%、協力歯科医がない：14.8%、依頼先が分からない：7.9%
- ・ 自由記載：かかりつけ歯科医で実施、訪問歯科で対応、行政の健診を受診、学校等で実施

- 歯科健診を実施するに当たり望むこと（歯科健診を実施していない場合）
 - ・ 個人で健診へ行くようにしてほしい：40.7%、適切な医療機関を紹介してほしい：21.7%、健診実施の手順を教えてください：13.0%
- 今後の歯科健診の実施予定・検討状況（歯科健診を実施していない場合）
 - ・ 実施予定及び検討している：5.5%
 - ・ 歯科健診を実施していない場合の理由として、依頼先が分からない、協力歯科医がない、と回答した施設は、他の回答をした施設に比べて、実施を検討している割合が高い傾向
- 歯科に関する相談を受ける頻度・内容・対応者
 - ・ 頻度 あまり相談を受けない：68.7%（入所施設：34.5%、通所のみ施設：71.4%）
精神障害・発達障害・知的障害・身体障害・難病等施設の順に、あまり相談を受けない割合が高い傾向
 - ・ 内容 歯が痛い：18.8%（入所施設、精神障害の施設が、割合が高い傾向）、
咀嚼：10.7%（通所のみ施設、発達障害・身体障害・知的障害の施設の割合が高い傾向）、
義歯：10.1%（入所施設、身体障害・難病等・精神障害の施設の割合が高い傾向）
 - ・ 対応者 事業所職員：79.6%（生活支援員、看護師、サービス管理責任者が多く挙げた）、訪問歯科に来る歯科医師：7.5%
- 紹介する歯科医療機関
 - ・ 地域の歯科診療所：63.1%、地区口腔保健センター：19.4%、都立口腔保健センター：15.5%、どこを紹介すれば良いか分からない：14.7%
 - ・ 施設の規模が大きい方が、専門歯科医療機関への受診を勧める割合が高い傾向
 - ・ 精神障害の方が利用されている施設は、専門歯科医療機関でなく、地域の歯科診療所を紹介する割合が高い傾向
- 紹介先の歯科医療機関の情報入手元
 - ・ 区市町村からの紹介：18.5%（通所のみ施設、精神障害の施設が、割合が高い傾向）、
訪問に来る歯科医師の紹介：10.2%、（入所施設、身体障害・難病等・知的障害の施設が、割合が高い傾向）、
関連のある医科の先生の紹介：9.5%（入所施設、難病等・身体障害・知的障害の施設が、割合が高い傾向）
 - ・ その他の自由記載 他の利用者やその家族等からのクチコミ：10.6%、インターネット検索・ホームページ等：7.3%
- 歯科医療に関する自由意見
 - ・ 障害者に対応することのできる、歯科診療所の普及
 - ・ 費用の問題
 - ・ 訪問歯科診療の増加
 - ・ 交通手段の確保
 - ・ 職員の口腔ケアの研修実施

<利用者調査結果の概要>

○ 回答者の概要

- ・ 10代以下：14.7%、20～40代：57.8%、50代以上：22.1%
- ・ 男性：58.0%、女性36.0%
- ・ 知的障害の方：58.2%、身体障害の方：22.9%、精神障害の方：19.5%、発達障害の方：9.1%、難病等の方：0.9%
- ・ 利用している施設 入所施設：8.1%、通所のみ施設 83.9%、利用していない：0.5%
- ・ 一般就労している：3.2%、一般就労していない：85.1%
- ・ 一人で回答している：31.7%、施設職員や家族等に手伝ってもらい回答している：61.5%

○ 現在、歯や口に関して困っていること

- ・ 特にない：42.5%、歯並び・口臭・噛み合わせ・歯周病：15%～10%弱、歯が痛い：4.2%
- ・ 女性の方が、男性より、困っていることの割合が高い傾向
- ・ 10代以下で歯並びの割合が、20～40代で口臭・歯周病の割合が高い傾向
- ・ 難病等の方で歯並び・物がうまく噛めない・うまく飲み込めないの割合が、精神障害の方で口臭の割合が高い傾向

○ 歯科医療機関へ通っているか・通っている回数

- ・ 通っている：67.7%、訪問歯科診療を受けている：10.6%、通っていない：26.8%
- ・ 女性の方が、男性より、通っている割合が高い傾向
- ・ 年代が上がるにつれて、通っている割合が減少し、訪問歯科診療・通っていない割合が増加する傾向
- ・ 精神障害の方は、他の障害区分に比べて、通っている割合が低い傾向
- ・ 一般就労している人の方が、していない人よりも、通っている割合が低い傾向
- ・ 通っている回数 月に1回以上：24.3%、年に1回以上：61.5%、数年に1回：9.7%

○ 歯科診療所へ通っている理由

- ・ 歯の清掃：55.8%、定期的に：52.9%、歯石取り：41.4%、むし歯治療：27.1%（治療よりも予防処置の方の割合が高い傾向）
- ・ 10代以下で定期的に・歯磨き指導の割合が高く、20～40代で歯石取り・むし歯治療の割合が高く、50代以上で入れ歯の作製等以外の割合が低い傾向
- ・ 精神障害の方は、予防処置の割合が低く、むし歯治療の割合が高い傾向
- ・ 入所施設、通所のみ施設、利用していないの順に、予防処置の割合が低くなり、むし歯治療はその逆の傾向

- ・ 一般就労している人の方が、していない人よりも、予防処置の割合が低く、むし歯の治療の割合が高い傾向

○ 通っている歯科医療機関

- ・ 地域の歯科診療所：60.1%（うち、家の近くの歯科診療所：49.6%）、
地域の歯科診療所以外の歯科医療機関：37.2%（うち、地区口腔保健センター：11.8%）
- ・ 10代以下で、家の近くの歯科診療所の割合が高く、50代以上で、歯科診療所以外の歯科医療機関の割合が低い傾向
- ・ 精神障害・発達障害の方は、家の近くの歯科診療所の割合が高く、身体障害・知的障害・難病等の方は、歯科診療所以外の歯科医療機関の割合が高い傾向
- ・ 利用していない、通所のみ施設、入所施設の順に、家の近くの歯科診療所の割合が高く、歯科診療所以外の歯科医療機関は、その逆の傾向
- ・ 一般就労している人で、歯科診療所の割合が高く、していない人で、歯科診療所以外の歯科医療機関の割合が高い傾向

○ その歯科医療機関に通っている理由

- ・ スタッフが優しく丁寧：63.5%、家や施設から近い：27.9%、設備が整っている：27.2%
- ・ 多くの項目で、50代以上より40代以下の割合が高いが、家や施設から近いは、50代以上の割合が高い
- ・ 身体障害・難病等の方で、バリアフリーの割合が高い傾向であり、すべての障害種別で、スタッフが優しく丁寧の割合が一番高い傾向
- ・ 入所施設は、バリアフリー・施設職員からの紹介が高い傾向
- ・ 一般就労している人の方が、家族が通っている・施設職員からの紹介・家や施設から近いの割合が高く、していない人の方が、スタッフが優しく丁寧・バリアフリー・設備が整っているの割合が高い傾向
- ・ 地域の歯科診療所に通院していると回答した人の方が、家や施設から近い、家族が通っている、の割合が高い傾向であり、歯科診療所以外に通院していると回答した人の方が、スタッフについて（優しく丁寧・多くいる）、歯科医療機関について（バリアフリー・設備が整っている）、の割合が高い傾向

○ 歯科医療機関に通う際の付き添いについて

- ・ 家族：61.6%、1人で通っている：29.0%、施設職員：7.5%
- ・ 精神障害の方は、1人で通っている割合が高い傾向
- ・ 入所施設は、施設職員の付き添いの割合が高く、通所のみ施設は、家族の付き添いの割合が高く、利用していない人は、1人で通っている割合が高い傾向

○ 歯科医療機関に通う手段

- ・ 歩き：40.5%、車：31.2%、公共交通機関（電車：15.2%、バス：12.1%、タクシー：6.9%）、自転車 15.0%
- ・ 10代以下で自転車の割合が多く、年代が上がるにつれて、車の割合が減少し、歩き・バスの割合が増加する傾向
- ・ 歯科診療所に通院していると回答した人の方が、歩き・自転車の割合が高く、それ以外の歯科医療機関は、公共交通機関の割合が高い傾向

○ 訪問歯科診療に来てくれる歯科医をどのように知ったか（訪問歯科を受診している場合）

- ・ 施設に来ているため：48.2%、自分や家族が探した：29.6%、施設から紹介：15.0%

○ 歯科医療機関に通っていない理由

- ・ 必要ないから：45.2%、めんどうだから：13.3%、1人で行けないから：11.2%
- ・ 年代が上がるにつれ、必要ないからの割合が高くなる傾向
- ・ 精神障害の方は、必要ないから・めんどうだからの割合が高く、1人で行けないからの割合が低い傾向
- ・ 一般就労している人の方が、していない人よりも、必要ないから・めんどうだからの割合が高く、1人で行けないからの割合が低い傾向

○ 歯科健診の受診状況

- ・ 受診している：60.9%、受診していない：26.3%
- ・ 年代が若いほど受診割合が高い傾向
- ・ 精神障害の方は、受診割合が低い傾向
- ・ 一般就労している人の方が、していない人よりも、受診割合が低い傾向
- ・ 受診している人のうち、月に1回以上の通院：16.0%、年に1回以上の通院：71.5%、数年に1回の通院：7.5%

○ 歯科健診を受診している理由

- ・ 個人的に受診している：41.3%、利用している施設で実施：39.3%、区市町村からの案内：6.3%
- ・ 20～40代は、個人的に受診の割合が高く、10代以下は、区市町村からの案内の割合が高い傾向

○ 歯科健診を受診していない理由

- ・ 概ね、上記「歯科診療所に通っていない理由」と同様の傾向

○ かかりつけ歯科医を決めているか

- ・ 決めている：75.5%、決めていない：16.3%
- ・ 男性より女性の方が、決めている割合が高い傾向
- ・ 50代以上で、決めている割合が低い傾向
- ・ 知的障害、身体障害、発達障害、難病等、精神障害の方の順で、決めている割合が高い傾向
- ・ 通所のみ施設、利用していない、入所施設の順で、決めている割合が高い傾向
- ・ 一般就労している人の方が、していない人よりも、決めている割合が低い傾向
- ・ 歯科医療機関に通院していると回答した人は、決めている割合が91.8%であるが、訪問歯科診療を受診している人は74.8%で、通っていない人は36.9%

○ かかりつけ歯科医を決めていると回答したが、歯科受診・訪問歯科診療・歯科健診のいずれも受けていない人の状況

- ・ かかりつけ歯科医を決めているが、歯科受診等していない：7.5%
- ・ 年代が上がるにつれ、歯科受診等していない割合が高くなる傾向
- ・ 精神障害の方は、歯科受診等していない割合が高い傾向
- ・ 一般就労している人の方が、していない人よりも、歯科受診等していない割合が高い傾向

○ かかりつけ歯科医を決めている場合の通院先

- ・ 家の近くの歯科診療所：52.0%、地区口腔保健センター：10.6%、その他の民間病院：9.2%、施設の近くの歯科診療所：8.1%
- ・ 20～40代で、地区口腔保健センターや都立心身障害者口腔保健センターの割合が高くなる傾向で、50代以上で、歯科診療所の割合が高くなる傾向
- ・ 精神障害・発達障害の方は、家の近くの歯科診療所の割合が高い傾向で、身体障害・知的障害の方は、地区口腔保健センター・都立心身障害者口腔保健センター・都立病院の割合が高い傾向で、難病等の方は、都立病院と大学病院の割合が高い傾向

○ かかりつけ歯科医を決めている場合の理由

- ・ 概ね、上記「その歯科医療機関に通っている理由」と同様の傾向

○ かかりつけ歯科医を決めていない理由

- ・ 概ね、上記「歯科医療機関に通っていない理由」と同様の傾向

○ 歯や口のことで困ったことがある場合の相談相手

- ・ 歯科医療機関の歯科医師：58.6%、家族：27.6%、施設職員：17.5%

○ 歯科医療機関に通う上で、大変だと感じること

- ・ 1人で行くことができない：33.3%、付き添いの手配が必要：11.6%、遠くて時間がかかる：8.8%
- ・ 40代以下で、1人で行くことができない・遠くて時間がかかるの割合が高い傾向
- ・ 精神障害の方は、すべての項目が、他の障害と比して低い傾向で、身体障害・難病等の方は、すべての項目の割合が高い傾向
- ・ 一般就労していない人の方が、している人よりも、すべての項目の割合が高い傾向

○ 歯科治療を受ける上で、困っていること

- ・ 治療が怖い：20.1%、口を開けることが困難：19.5%、治療の説明が分からない：13.9%、じっと座ってられない：12.8%
- ・ 10代以下で、じっと座ってられない、口を開けることが困難、治療が怖い、の割合が高い傾向
- ・ 発達障害の方で、治療が怖い、じっと座ってられない、の割合が、精神障害の方で、歯科医療機関で嫌な気分になったことがあるの割合が高い傾向
- ・ 入所施設の方は、ほとんどの項目の割合が、通所のみ施設・利用していない人より高い傾向
- ・ 一般就労していない人は、ほとんどの項目の割合が、一般就労している人より高い傾向

○ 歯科医療機関に望むこと

- ・ 障害に配慮した丁寧な対応：27.4%、治療を受ける場所を個室に：10.2%、他の歯科医療機関の情報を教えてほしい：7.3%
- ・ 年代が若いほど、項目の割合が高い傾向
- ・ 発達障害の方は、個室の要望の割合が高く、精神障害の方は、ほとんどの項目の割合が低い傾向
- ・ 入所施設の方は、ほとんどの項目の割合が、通所のみ施設・施設を利用していない人より高い傾向
他の医療機関の情報を教えてほしいは、利用していない・通所のみ施設・入所施設の人の順に高い傾向
- ・ 一般就労していない人の方が、している人よりも、障害に配慮した丁寧な対応の割合が高い傾向

本調査は、東京都歯科保健推進計画に基づき、障害者歯科の取組が進むよう、地域の歯科診療所での受診に関する課題等を抽出するために、障害者支援施設等（以下「障害者施設」という。）や、その利用者等に対して実施した。対象となる障害者には、東京都内の障害者施設等を通じてアンケート調査を依頼し、回答総数は21,819件であった。アンケート用紙を末尾に別添する。

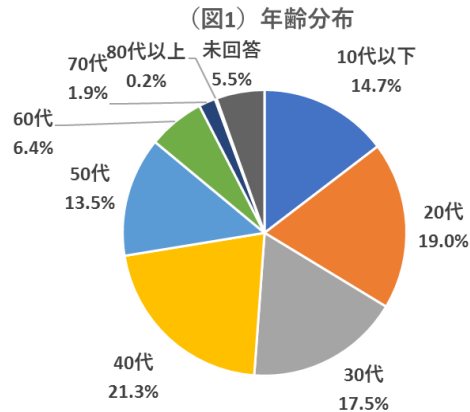
●回答者の概要

○年齢分布

表1に回答者の年齢分布を示す。10代から50代まで概ね均等に回答を得られた。10代以下は14.7%、20～40代は57.8%、50代以上は22.1%であった。70代で415件（1.9%）、80代以上で44件（0.2%）の回答があり、高齢の障害者への対応も考慮しなければならないだろう。（図1）

(表1) 回答者の年齢分布

総 数(n=21,819)		
10代以下	3,200	(14.7%)
20代	4,138	(19.0%)
30代	3,825	(17.5%)
40代	4,641	(21.3%)
20～40代	12,604	(57.8%)
50代	2,953	(13.5%)
60代	1,405	(6.4%)
70代	415	(1.9%)
80代以上	44	(0.2%)
50代以上	4,817	(22.1%)
未回答	1,198	(5.5%)

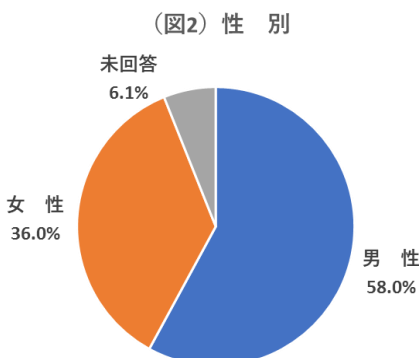


○性別

表2に回答者の性別と年齢区分を示す。男性が58.0%と女性36.0%の1.6倍を占めた。（図2）年齢区分別では、10代以下で男性の比率が他の年齢区分より高かった。（図2-1）

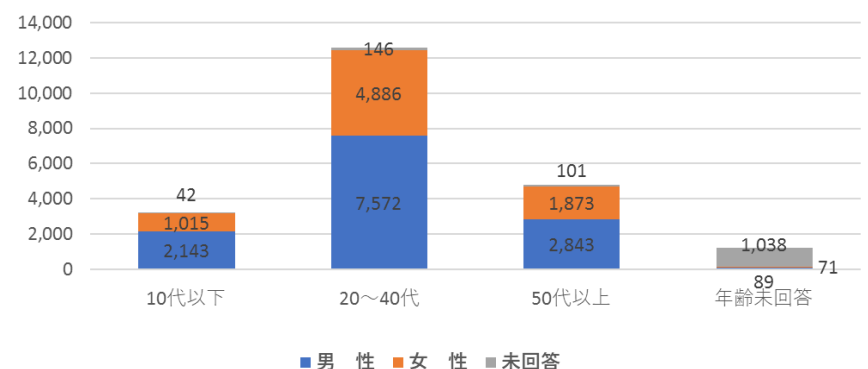
(表2) 回答者の性別・年齢区分

総 数	性 別			
	男 性	女 性	未回答	
総 数	21,819 (100.0%)	12,647 (58.0%)	7,845 (36.0%)	1,327 (6.1%)
10代以下	3,200 (100.0%)	2,143 (67.0%)	1,015 (31.7%)	42 (1.3%)
20～40代	12,604 (100.0%)	7,572 (60.1%)	4,886 (38.8%)	146 (1.2%)
50代以上	4,817 (100.0%)	2,843 (59.0%)	1,873 (38.9%)	101 (2.1%)
年齢未回答	1,198 (100.0%)	89 (7.4%)	71 (5.9%)	1,038 (86.6%)



(人)

(図2-1) 年齢区分別の性別



○障害の種別（重複あり）

表3に障害の種別を示す。知的障害者が58.2%と最も多く、身体障害者は22.9%、精神障害者は19.5%、発達障害は9.1%、難病等は0.9%であった。（図3）

年齢区分別にみると、10代以下は精神障害者が少なく、発達障害と難病等が多かった。また、50代以上では発達障害が少なく、精神障害者と身体障害者が多かった。（図3-1）

男女別では、発達障害で男性が多かった。（図3-2～3-6）

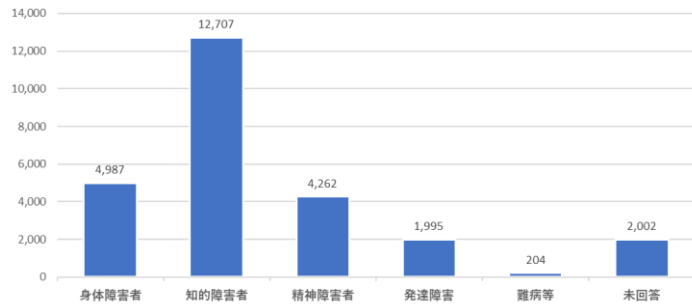
（表3）障害の種別（重複あり）

	総 数(n=21,819)	年齢区分			性 別	
		10代以下	20～40代	50代以上	男 性	女 性
身体障害者	4,987 (22.9%)	703 (14.1%)	2,770 (55.5%)	1,461 (29.3%)	2,743 (55.0%)	2,155 (43.2%)
知的障害者	12,707 (58.2%)	1,532 (12.1%)	8,841 (69.6%)	2,177 (17.1%)	7,527 (59.2%)	4,959 (39.0%)
精神障害者	4,262 (19.5%)	48 (1.1%)	2,567 (60.2%)	1,619 (38.0%)	2,545 (59.7%)	1,643 (38.5%)
発達障害	1,995 (9.1%)	1,176 (58.9%)	711 (35.6%)	92 (4.6%)	1,437 (72.0%)	534 (26.8%)
難病等	204 (0.9%)	77 (37.7%)	102 (50.0%)	22 (10.8%)	107 (52.5%)	95 (46.6%)
未回答	2,002 (9.2%)	446 (22.3%)	373 (18.6%)	187 (9.3%)	654 (32.7%)	347 (17.3%)

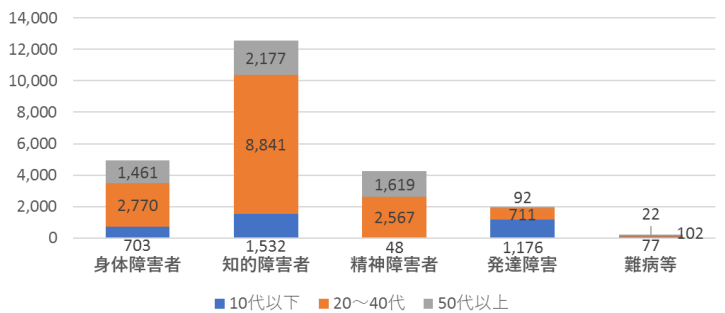
○障害の等級（参考）

身体障害者(n=4,987)		知的障害者(n=12,707)		精神障害者(n=4,262)	
1 級	2,335 (46.8%)	1 度	550 (4.3%)	1 級	104 (2.4%)
2 級	1,115 (22.4%)	2 度	4,579 (36.0%)	2 級	1,901 (44.6%)
3 級	463 (9.3%)	3 度	3,204 (25.2%)	3 級	854 (20.0%)
4 級	268 (5.4%)	4 度	2,536 (20.0%)	未回答	1,403 (32.9%)
5 級	166 (3.3%)	未回答	1,838 (14.5%)		
6 級	124 (2.5%)				
7 級	2 (0.0%)				
未回答	514 (10.3%)				

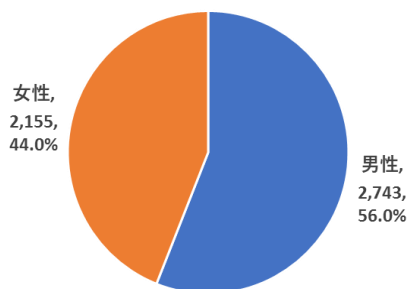
（図3）障害の種別（重複あり）



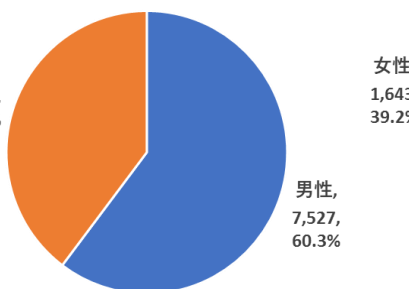
（図3-1）障害の種別（年齢区分別）



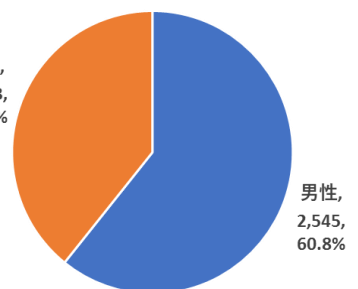
（図3-2）身体障害者（性別）



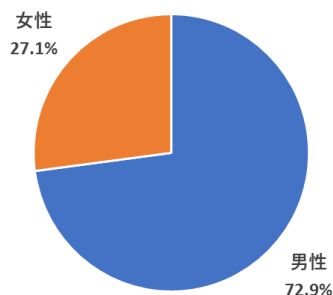
（図3-3）知的障害者（性別）



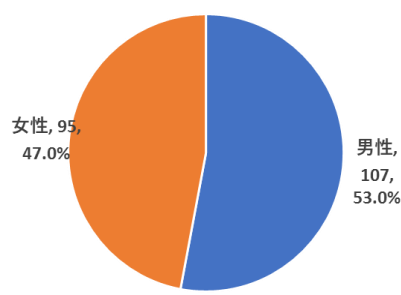
（図3-4）精神障害者（性別）



（図3-5）発達障害（性別）



（図3-6）難病等（性別）



○所属されている事業所種別（重複あり）

表4-1に所属されている事業所種別を示す。

福祉型障害児入所施設、医療型障害児入所施設、施設入所支援の3施設を入所施設、それ以外を通所施設として集計を行った。なお、入所施設と通所施設との重複があったため、通所施設の集計にはこの重複を含まず集計を行った。入所施設が8.1%、通所施設のみが83.9%、いずれも利用していないが0.5%であった。

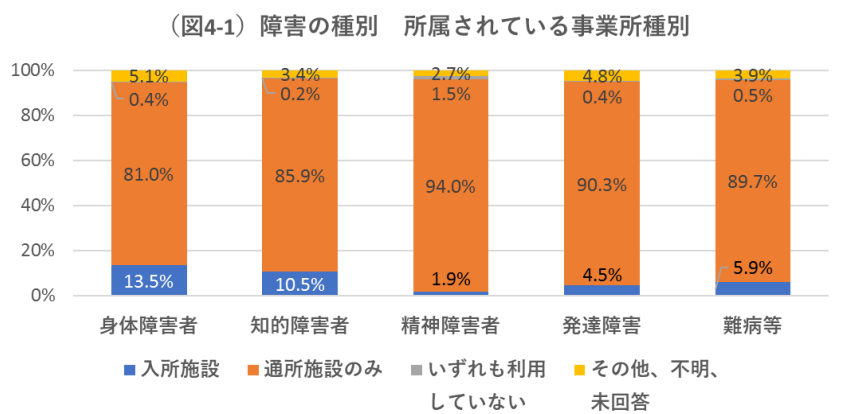
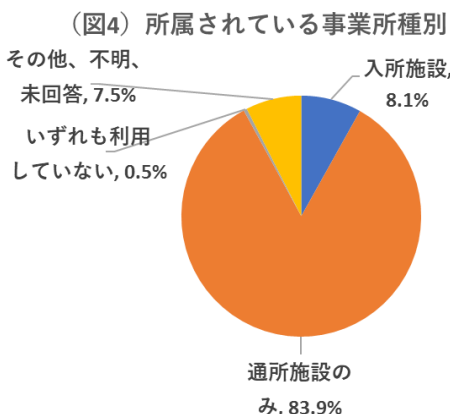
表4-2に障害の種別の所属されている事業所種別を示す。障害の種別でみると、入所施設の所属は身体障害者で多く、精神障害者で少なかった。（図4-1）

(表4-1) 所属されている事業所種別（重複あり）

	総数 (n=21,819)	性別		年齢区分		
		男性	女性	10代以下	20~40代	50代以上
福祉型障害児入所施設	134 (0.6%)	80 (59.7%)	54 (40.3%)	104 (77.6%)	18 (13.4%)	10 (7.5%)
医療型障害児入所施設	48 (0.2%)	23 (47.9%)	25 (52.1%)	18 (37.5%)	18 (37.5%)	12 (25.0%)
施設入所支援	1,599 (7.3%)	977 (61.1%)	591 (37.0%)	21 (1.3%)	792 (49.5%)	775 (48.5%)
入所施設計	1,776 (8.1%)	1,078 (60.7%)	667 (37.6%)	142 (8.0%)	824 (46.4%)	797 (44.9%)
児童発達支援事業所	2,026 (9.3%)	1,325 (65.4%)	630 (31.1%)	1,920 (94.8%)	49 (2.4%)	7 (0.3%)
福祉型児童発達支援センター	239 (1.1%)	163 (68.2%)	65 (27.2%)	216 (90.4%)	16 (6.7%)	3 (1.3%)
医療型児童発達支援センター	102 (0.5%)	47 (46.1%)	53 (52.0%)	97 (95.1%)	3 (2.9%)	0 (0.0%)
居宅訪問型児童発達支援事業所	15 (0.1%)	5 (33.3%)	10 (66.7%)	14 (93.3%)	1 (6.7%)	0 (0.0%)
生活介護	5,915 (27.1%)	3,457 (58.4%)	2,320 (39.2%)	164 (2.8%)	4,460 (75.4%)	1,190 (20.1%)
自立訓練（機能訓練）	159 (0.7%)	102 (64.2%)	54 (34.0%)	6 (3.8%)	70 (44.0%)	80 (50.3%)
自立訓練（生活訓練）	413 (1.9%)	258 (62.5%)	144 (34.9%)	7 (1.7%)	273 (66.1%)	131 (31.7%)
宿泊型自立訓練	192 (0.9%)	143 (74.5%)	47 (24.5%)	36 (18.8%)	136 (70.8%)	20 (10.4%)
就労継続支援A型	603 (2.8%)	403 (66.8%)	191 (31.7%)	8 (1.3%)	425 (70.5%)	163 (27.0%)
就労継続支援B型	7,776 (35.6%)	4,603 (59.2%)	2,971 (38.2%)	151 (1.9%)	5,196 (66.8%)	2,280 (29.3%)
就労移行支援	1,126 (5.2%)	732 (65.0%)	377 (33.5%)	69 (6.1%)	912 (81.0%)	136 (12.1%)
地域活動支援センター	848 (3.9%)	461 (54.4%)	372 (43.9%)	8 (0.9%)	467 (55.1%)	367 (43.3%)
グループホーム	1,671 (7.7%)	989 (59.2%)	653 (39.1%)	6 (0.4%)	1,062 (63.6%)	593 (35.5%)
その他通所	350 (1.6%)	210 (60.0%)	136 (38.9%)	320 (91.4%)	21 (6.0%)	3 (0.9%)
通所施設のみ計	18,304 (83.9%)	11,036 (60.3%)	6,813 (37.2%)	2,961 (16.2%)	11,101 (60.6%)	3,771 (20.6%)
いずれも利用していない	100 (0.5%)	54 (54.0%)	45 (45.0%)	14 (14.0%)	54 (54.0%)	31 (31.0%)
その他、不明、未回答	1,639 (7.5%)	479 (29.2%)	320 (19.5%)	183 (11.2%)	401 (24.5%)	196 (12.0%)

(表4-2) 所属されている事業所種別（重複あり）

	障害の種別				
	身体障害者 (n=4,987)	知的障害者 (n=12,707)	精神障害者 (n=4,262)	発達障害 (n=1,995)	難病等 (n=204)
福祉型障害児入所施設	21 (0.4%)	118 (0.9%)	6 (0.1%)	22 (1.1%)	3 (1.5%)
医療型障害児入所施設	42 (0.8%)	30 (0.2%)	3 (0.1%)	4 (0.2%)	1 (0.5%)
施設入所支援	613 (12.3%)	1,189 (9.4%)	72 (1.7%)	64 (3.2%)	10 (4.9%)
入所施設計	672 (13.5%)	1,333 (10.5%)	80 (1.9%)	89 (4.5%)	12 (5.9%)
児童発達支援事業所	400 (8.0%)	706 (5.6%)	19 (0.4%)	902 (45.2%)	59 (28.9%)
福祉型児童発達支援センター	49 (1.0%)	124 (1.0%)	5 (0.1%)	73 (3.7%)	7 (3.4%)
医療型児童発達支援センター	88 (1.8%)	54 (0.4%)	1 (0.0%)	11 (0.6%)	11 (5.4%)
居宅訪問型児童発達支援事業所	13 (0.3%)	8 (0.1%)	0 (0.0%)	3 (0.2%)	2 (1.0%)
生活介護	2,349 (47.1%)	4,969 (39.1%)	210 (4.9%)	200 (10.0%)	51 (25.0%)
自立訓練（機能訓練）	127 (2.5%)	27 (0.2%)	24 (0.6%)	3 (0.2%)	8 (3.9%)
自立訓練（生活訓練）	94 (1.9%)	95 (0.7%)	243 (5.7%)	22 (1.1%)	5 (2.5%)
宿泊型自立訓練	10 (0.2%)	148 (1.2%)	47 (1.1%)	6 (0.3%)	2 (1.0%)
就労継続支援A型	108 (2.2%)	224 (1.8%)	264 (6.2%)	31 (1.6%)	3 (1.5%)
就労継続支援B型	955 (19.1%)	4,743 (37.3%)	2,457 (57.6%)	235 (11.8%)	36 (17.6%)
就労移行支援	107 (2.1%)	332 (2.6%)	515 (12.1%)	233 (11.7%)	15 (7.4%)
地域活動支援センター	228 (4.6%)	185 (1.5%)	458 (10.7%)	46 (2.3%)	12 (5.9%)
グループホーム	311 (6.2%)	1,398 (11.0%)	268 (6.3%)	65 (3.3%)	9 (4.4%)
その他通所	97 (1.9%)	190 (1.5%)	7 (0.2%)	144 (7.2%)	8 (3.9%)
通所施設のみ計	4,040 (81.0%)	10,919 (85.9%)	4,006 (94.0%)	1,802 (90.3%)	183 (89.7%)
いずれも利用していない	20 (0.4%)	20 (0.2%)	62 (1.5%)	8 (0.4%)	1 (0.5%)
その他、不明、未回答	255 (5.1%)	435 (3.4%)	114 (2.7%)	96 (4.8%)	8 (3.9%)



○現在、一般就労しているか

表5に一般就労の状況を示す。働いている者は3.2%、働いていない者は85.1%であった。(図5)性別での差は認められなかった。年齢区分では、年齢が上がるとう働いている率も高くなったが、20~40代では働いていないも増加した。

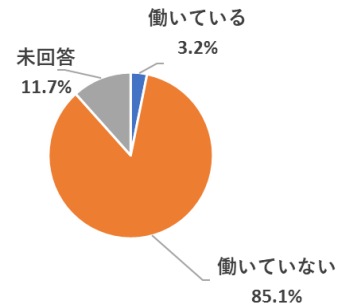
所属事業所の種別では、事業所を利用していない者で働いている率が高かった。(図5-1)

一般就労の状況は、自立の一つの指標と考えられるため、以下の設問で検討していく。

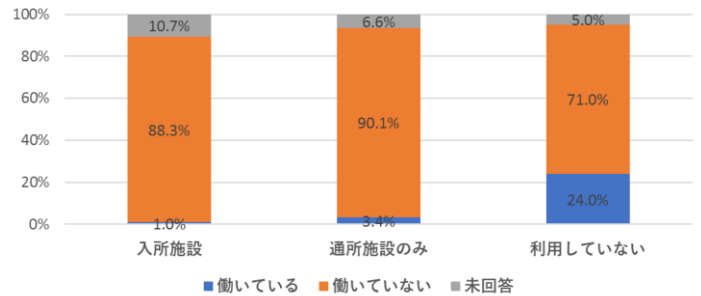
(表5) 現在、一般就労しているか

		働いている	働いていない	未回答
総数	(n=21,819)	699 (3.2%)	18,574 (85.1%)	2,546 (11.7%)
性別	男性 (n=12,647)	441 (3.5%)	11,218 (88.7%)	988 (7.8%)
	女性 (n=7,845)	248 (3.2%)	6,957 (88.7%)	640 (8.2%)
年齢区分	10代以下 (n=3,200)	71 (2.2%)	2,839 (88.7%)	290 (9.1%)
	20~40代 (n=12,604)	402 (3.2%)	11,262 (89.4%)	940 (7.5%)
	50代以上 (n=4,817)	221 (4.6%)	4,210 (87.4%)	386 (8.0%)
障害の種類	身体障害者 (n=4,987)	102 (2.0%)	4,518 (90.6%)	367 (7.4%)
	知的障害者 (n=12,707)	383 (3.0%)	11,338 (89.2%)	986 (7.8%)
	精神障害者 (n=4,262)	207 (4.9%)	3,784 (88.8%)	271 (6.4%)
	発達障害 (n=1,995)	60 (3.0%)	1,782 (89.3%)	153 (7.7%)
	難病等 (n=204)	9 (4.4%)	181 (88.7%)	14 (6.9%)
所属事業所	入所施設 (n=1,776)	17 (1.0%)	1,569 (88.3%)	190 (10.7%)
	通所施設のみ (n=18,304)	614 (3.4%)	16,490 (90.1%)	1,200 (6.6%)
	利用していない (n=100)	24 (24.0%)	71 (71.0%)	5 (5.0%)

(図5) 一般就労状況



(図5-1) 一般就労状況 (所属事業所の種別)



1 (1) 1人で回答しているか

表6に1人で回答しているかを示す。1人で回答しているのは31.7%、施設職員や家族等に手伝ってもらって回答しているのは61.5%であった。(図6)

男女別では傾向に差を認めなかった。(図6-1)

年齢区分別では、年代が上がるにつれ1人で回答している割合が高くなった。(図6-2) 障害の種類では、精神障害者で1人で回答している割合が高く、知的障害者が最も施設職員や家族等に手伝ってもらって回答している割合が高かった。(図6-3)

所属事業所の種別では、1人で回答している割合は利用していないで55.0%、以下、通所施設のみ、入所施設の順に少なくなった。(図6-4)

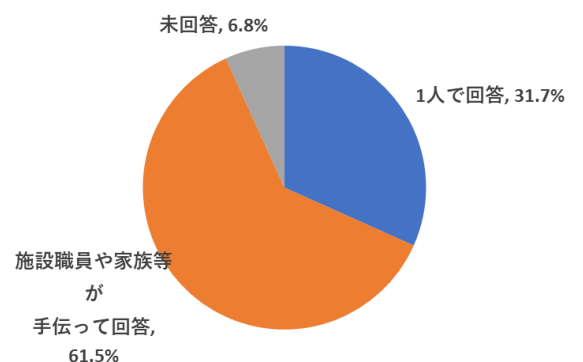
一般就労の有無では、働いている者の1人で回答している割合が57.1%と半数を超え、働いていない者よりも高い割合を占めた。(図6-5)

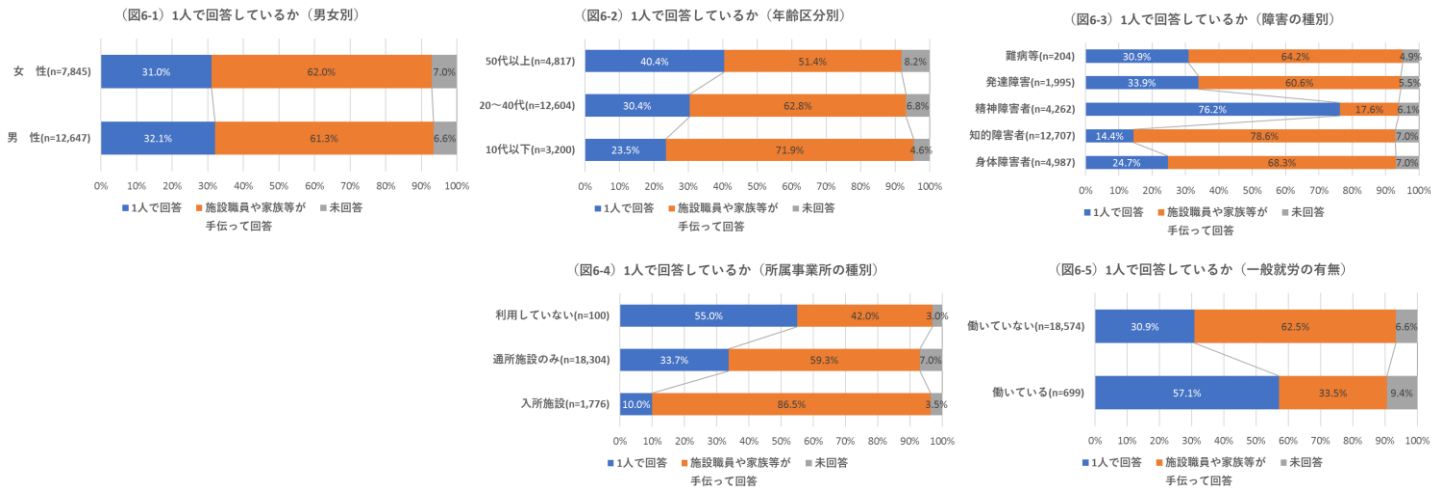
所属事業所の状況、一般就労の有無と1人で回答しているかを比較すると、概ね自立の度合いで一致しているものと考えられる。

(表6) 1人で回答しているか

		1人で回答	施設職員や家族等が手伝って回答	未回答
総数	(n=21,819)	6,914 (31.7%)	13,421 (61.5%)	1,484 (6.8%)
性別	男性 (n=12,647)	4,056 (32.1%)	7,756 (61.3%)	835 (6.6%)
	女性 (n=7,845)	2,431 (31.0%)	4,861 (62.0%)	553 (7.0%)
年齢区分	10代以下 (n=3,200)	752 (23.5%)	2,301 (71.9%)	147 (4.6%)
	20~40代 (n=12,604)	3,826 (30.4%)	7,919 (62.8%)	859 (6.8%)
	50代以上 (n=4,817)	1,946 (40.4%)	2,477 (51.4%)	394 (8.2%)
障害の種類	身体障害者 (n=4,987)	1,234 (24.7%)	3,406 (68.3%)	347 (7.0%)
	知的障害者 (n=12,707)	1,830 (14.4%)	9,983 (78.6%)	894 (7.0%)
	精神障害者 (n=4,262)	3,249 (76.2%)	751 (17.6%)	262 (6.1%)
	発達障害 (n=1,995)	676 (33.9%)	1,209 (60.6%)	110 (5.5%)
	難病等 (n=204)	63 (30.9%)	131 (64.2%)	10 (4.9%)
所属事業所	入所施設 (n=1,776)	177 (10.0%)	1,536 (86.5%)	63 (3.5%)
	通所施設のみ (n=18,304)	6,165 (33.7%)	10,857 (59.3%)	1,282 (7.0%)
	利用していない (n=100)	55 (55.0%)	42 (42.0%)	3 (3.0%)
一般就労しているか	働いている (n=699)	399 (57.1%)	234 (33.5%)	66 (9.4%)
	働いていない (n=18,574)	5,742 (30.9%)	11,606 (62.5%)	1,226 (6.6%)

(図6) 1人で回答しているか





1 (2) 歯や口に関して困っていること

表7に歯や口に関して困っていることを示す。特にないが42.5%で最も多かった。歯並び、口臭、噛み合わせと続き、その次に歯周病（歯肉のはれ、歯肉からの出血）がそれぞれ10%弱にみられた。歯が痛いは4.2%であった。

(図7)

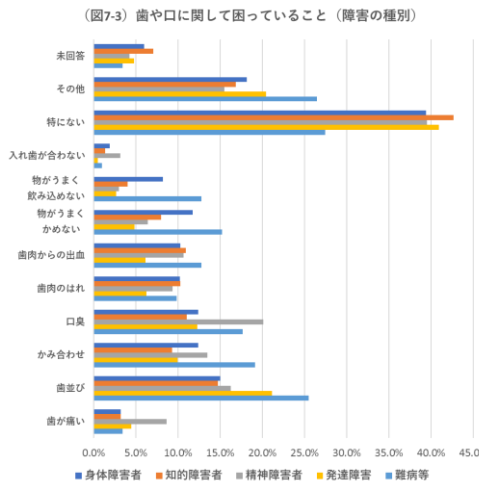
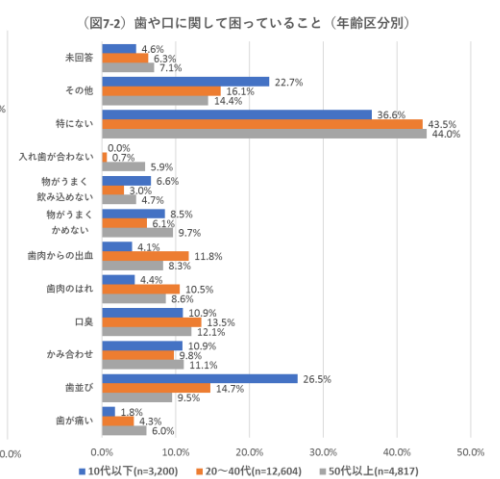
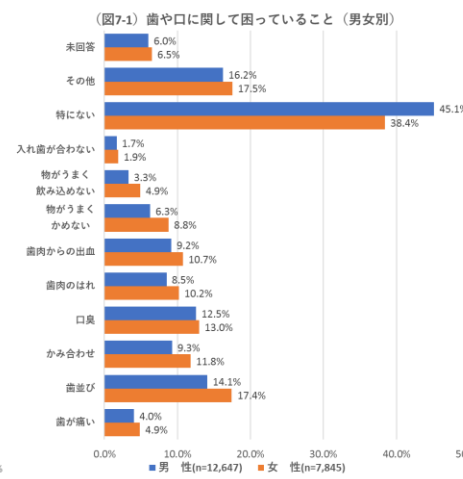
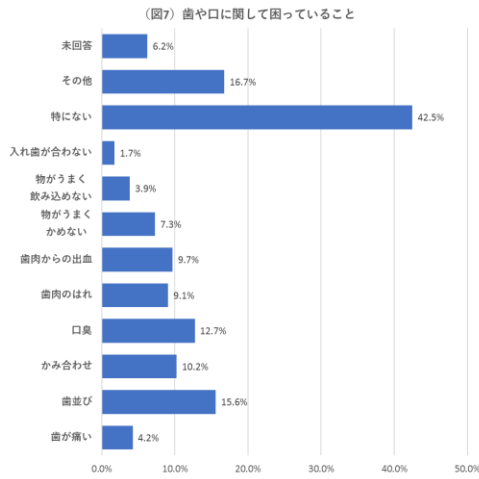
男女別では、特にないを除くすべての項目で女性の方が男性より多かった。(図7-1)

年齢区分別では、10代以下で歯並びが多く、口臭、歯肉のはれ、歯肉からの出血は20~40代に多かった。(図7-2)

障害の種別では、難病等で歯並び、物がうまくかめない、うまく飲み込めないが多く、精神障害者で口臭が多かった。(図7-3)

(表7) 歯や口に関して困っていること (重複回答)

項目	人数	歯が痛い		歯並び		かみ合わせ		口臭		歯肉のはれ		歯肉からの出血	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
総数	21,819	925	4.2%	3,403	15.6%	2,235	10.2%	2,779	12.7%	1,980	9.1%	2,112	9.7%
性別	男性	511	4.0%	1,778	14.1%	1,173	9.3%	1,585	12.5%	1,076	8.5%	1,159	9.2%
	女性	381	4.9%	1,368	17.4%	924	11.8%	1,019	13.0%	799	10.2%	843	10.7%
年齢区分	10代以下	57	1.8%	849	26.5%	348	10.9%	350	10.9%	142	4.4%	130	4.1%
	20~40代	548	4.3%	1,852	14.7%	1,230	9.8%	1,696	13.5%	1,325	10.5%	1,483	11.8%
	50代以上	290	6.0%	9.5%	533	11.1%	583	12.1%	416	8.6%	398	8.3%	
障害の種別	身体障害者	160	3.2%	747	15.0%	617	12.4%	617	12.4%	508	10.2%	512	10.3%
	知的障害者	408	3.2%	1,869	14.7%	1,183	9.3%	1,401	11.0%	1,307	10.3%	1,386	10.9%
	精神障害者	369	8.7%	692	16.2%	574	13.5%	856	20.1%	399	9.4%	454	10.7%
	発達障害	89	4.5%	422	21.2%	198	9.9%	245	12.3%	125	6.3%	122	6.1%
	難病等	7	3.4%	52	25.5%	39	19.1%	36	17.6%	20	9.8%	26	12.7%
所属事業所	入所施設	102	5.7%	169	9.5%	137	7.7%	183	10.3%	201	11.3%	237	13.3%
	通所施設のみ	764	4.2%	2,907	15.9%	1,934	10.6%	2,369	12.9%	1,632	8.9%	1,739	9.5%
	利用していない	8	8.0%	18	18.0%	13	13.0%	24	24.0%	11	11.0%	9	9.0%
一般就労しているか	働いている	43	6.2%	117	16.7%	92	13.2%	109	15.6%	50	7.2%	60	8.6%
	働いていない	787	4.2%	2,860	15.4%	1,911	10.3%	2,352	12.7%	1,737	9.4%	1,833	9.9%
総数	21,819	1,592	7.3%	842	3.9%	376	1.7%	9,263	42.5%	3,654	16.7%	1,360	6.2%
性別	男性	794	6.3%	419	3.3%	211	1.7%	5,707	45.1%	2,052	16.2%	759	6.0%
	女性	691	8.8%	386	4.9%	147	1.9%	3,012	38.4%	1,375	17.5%	512	6.5%
年齢区分	10代以下	273	8.5%	212	6.6%	1	0.0%	1,171	36.6%	725	22.7%	148	4.6%
	20~40代	768	6.1%	377	3.0%	85	0.7%	5,477	43.5%	2,029	16.1%	789	6.3%
	50代以上	465	9.7%	224	4.7%	282	5.9%	2,120	44.0%	694	14.4%	340	7.1%
障害の種別	身体障害者	584	11.7%	409	8.2%	94	1.9%	1,964	39.4%	906	18.2%	298	6.0%
	知的障害者	1,014	8.0%	513	4.0%	175	1.4%	5,417	42.6%	2,139	16.8%	898	7.1%
	精神障害者	273	6.4%	126	3.0%	133	3.1%	1,683	39.5%	660	15.5%	180	4.2%
	発達障害	96	4.8%	53	2.7%	10	0.5%	816	40.9%	407	20.4%	95	4.8%
	難病等	31	15.2%	26	12.7%	2	1.0%	56	27.5%	54	26.5%	7	3.4%
所属事業所	入所施設	169	9.5%	112	6.3%	43	2.4%	790	44.5%	236	13.3%	130	7.3%
	通所施設のみ	1,299	7.1%	680	3.7%	313	1.7%	7,740	42.3%	3,135	17.1%	1,107	6.0%
	利用していない	10	10.0%	3	3.0%	3	3.0%	33	33.0%	16	16.0%	2	2.0%
一般就労しているか	働いている	32	4.6%	11	1.6%	15	2.1%	305	43.6%	99	14.2%	43	6.2%
	働いていない	1,382	7.4%	752	4.0%	330	1.8%	7,852	42.3%	3,155	17.0%	1,118	6.0%



2 歯科診療所への通院状況

表8に歯科診療所などへの通院状況を示す。歯科診療所などへ通っているのは67.7%（訪問歯科診療を受けているとの重複を除くと62.5%）、訪問歯科診療を受けているのは10.6%（歯科診療所などへ通っているとの重複を除くと5.4%）、通っていないのは26.8%であった。（図8）

男女別では、男性の方が女性より通院が少なかった。（図8-1）

年齢区分別は、年代が上がるとう通院が減少し、訪問歯科診療と通っていないが増加した。（図8-2）

障害の種別では、精神障害者で通院が少なかった。（図8-3）

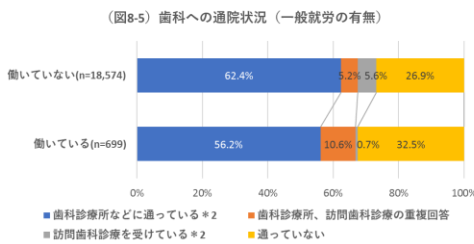
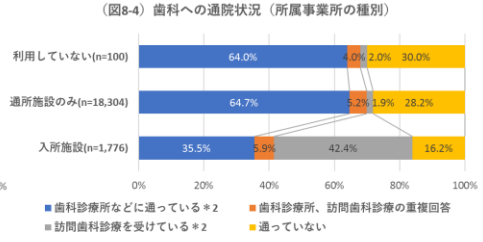
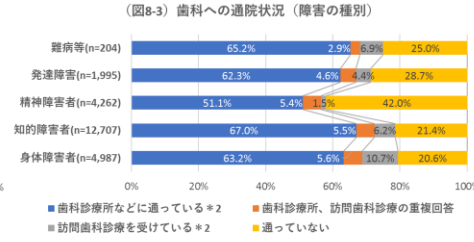
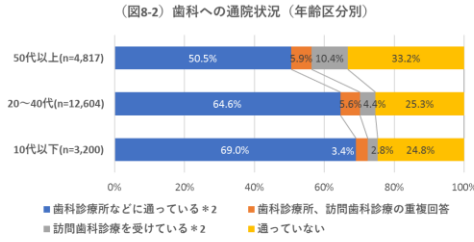
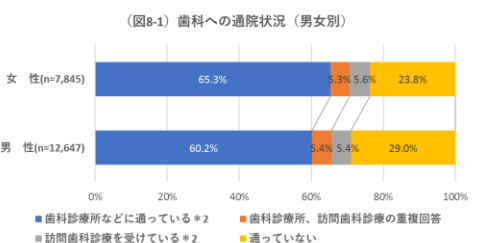
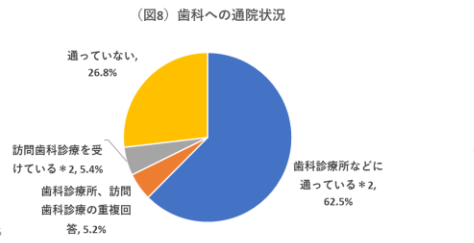
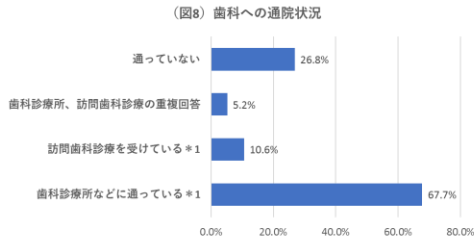
所属事業所の種別では、入所施設で訪問診療が多かった。（図8-4）

一般就労の有無では、働いている者で通っていないが多かった。（図8-5）一般就労している場合、時間的理由により通院が難しいことも要因の一つと考えられる。

(表8) 歯科診療所などへの通院状況

総数	(n=21,819)	歯科診療所などに通っている*1		訪問歯科診療を受けている*1		重複回答		通っていない	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
性別									
男性	(n=12,647)	8,298	(65.6%)	1,366	(10.8%)	687	(5.4%)	3,670	(29.0%)
女性	(n=7,845)	5,536	(70.6%)	859	(10.9%)	416	(5.3%)	1,866	(23.8%)
年齢区分									
10代以下	(n=3,200)	2,317	(72.4%)	199	(6.2%)	109	(3.4%)	793	(24.8%)
20~40代	(n=12,604)	8,858	(70.3%)	1,264	(10.0%)	710	(5.6%)	3,192	(25.3%)
50代以上	(n=4,817)	2,716	(56.4%)	784	(16.3%)	284	(5.9%)	1,601	(33.2%)
障害の種別									
身体障害者	(n=4,987)	3,429	(68.8%)	809	(16.2%)	277	(5.6%)	1,026	(20.6%)
知的障害者	(n=12,707)	9,207	(72.5%)	1,483	(11.7%)	697	(5.5%)	2,714	(21.4%)
精神障害者	(n=4,262)	2,409	(56.5%)	294	(6.9%)	230	(5.4%)	1,789	(42.0%)
発達障害	(n=1,995)	1,334	(66.9%)	179	(9.0%)	91	(4.6%)	573	(28.7%)
難病等	(n=204)	139	(68.1%)	20	(9.8%)	6	(2.9%)	51	(25.0%)
所属事業所									
入所施設	(n=1,776)	736	(41.4%)	858	(48.3%)	105	(5.9%)	287	(16.2%)
通所施設のみ	(n=18,304)	12,792	(69.9%)	1,306	(7.1%)	954	(5.2%)	5,160	(28.2%)
利用していない	(n=100)	68	(68.0%)	6	(6.0%)	4	(4.0%)	30	(30.0%)
一般就労しているか									
働いている	(n=699)	467	(66.8%)	79	(11.3%)	74	(10.6%)	227	(32.5%)
働いていない	(n=18,574)	12,548	(67.6%)	1,994	(10.7%)	959	(5.2%)	4,991	(26.9%)

*1：重複回答1,143件を含む



● 歯科診療所等に通っている場合

(ア) 通っている回数

表9に通っている回数を示す。年に1回以上が61.5%、月に1回以上も24.3%であった。

(表9) 通っている回数

	総数(n=14,782)	
数年に1回	1,439	(9.7%)
年に1回以上	9,088	(61.5%)
月に1回以上	3,596	(24.3%)

(イ) 通っている理由

表9-1に通っている理由を示す。歯の清掃が55.8%で最も多く、次いで定期的に52.9%、歯石を取ってもらう41.4%であった。(図9) 治療よりも予防処置の方が多く結果であった。

男女別では傾向に差を認めなかった。(図9-1)

年齢区分別では、10代以下で定期的にと歯みがき指導が多く、20~40代で歯石を取ってもらうとむし歯の治療が多かった。歯の清掃は50代以上で減少した。(図9-2)

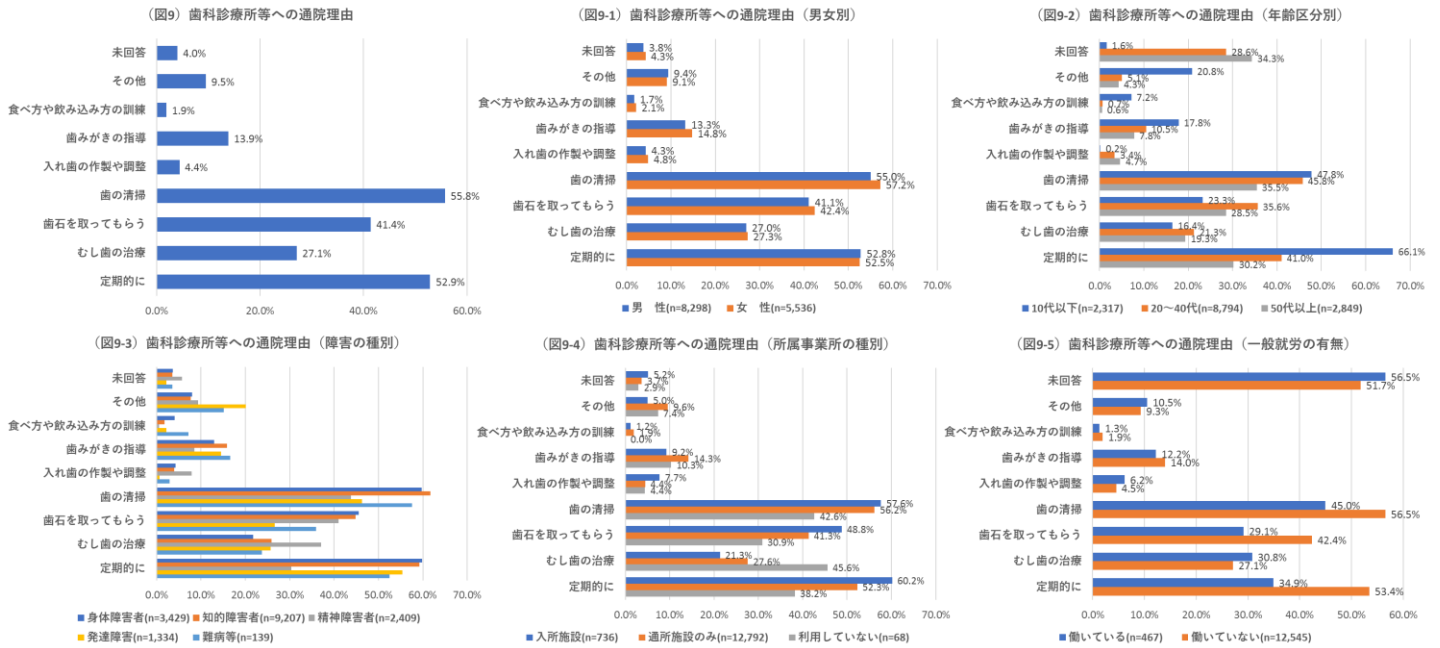
障害の種別では、精神障害者で定期的に、歯の清掃、歯みがき指導といった予防処置が少なく、むし歯の治療が多かった。(図9-3)

所属事業所の種別では、定期的に、歯石を取ってもらう、歯の清掃で、入所施設、通所施設のみ、利用していないの順に多く、むし歯の治療はその逆であった。(図9-4)

一般就労の有無では、働いていない者は定期的に、歯石を取ってもらう、歯の清掃が多く、むし歯の治療は働いている者で多かった。(図9-5)

(表9-1) 通っている理由

		定期的に	むし歯の治療	歯石	歯の清掃	入れ歯の作製や調整	歯みがきの指導	食べ方や飲み込み方の訓練	その他
総数	(n=14,782)	7,815 (52.9%)	4,004 (27.1%)	6,113 (41.4%)	8,241 (55.8%)	654 (4.4%)	2,052 (13.9%)	284 (1.9%)	1,403 (9.5%)
性別	男性 (n=8,298)	4,381 (52.8%)	2,237 (27.0%)	3,411 (41.1%)	4,565 (55.0%)	356 (4.3%)	1,101 (13.3%)	144 (1.7%)	781 (9.4%)
	女性 (n=5,536)	2,906 (52.5%)	1,509 (27.3%)	2,349 (42.4%)	3,166 (57.2%)	268 (4.8%)	818 (14.8%)	119 (2.1%)	505 (9.1%)
年齢区分	10代以下 (n=2,317)	1,532 (66.1%)	381 (16.4%)	540 (23.3%)	1,108 (47.8%)	5 (0.2%)	413 (17.8%)	166 (7.2%)	483 (20.8%)
	20~40代 (n=8,794)	3,608 (41.0%)	1,873 (21.3%)	3,133 (35.6%)	4,027 (45.8%)	302 (3.4%)	923 (10.5%)	65 (0.7%)	446 (5.1%)
	50代以上 (n=2,849)	860 (30.2%)	551 (19.3%)	812 (28.5%)	1,010 (35.5%)	133 (4.7%)	222 (7.8%)	16 (0.6%)	122 (4.3%)
障害の種別	身体障害者 (n=3,429)	2,051 (59.8%)	746 (21.8%)	1,562 (45.6%)	2,047 (59.7%)	146 (4.3%)	443 (12.9%)	140 (4.1%)	273 (8.0%)
	知的障害者 (n=9,207)	5,457 (59.3%)	2,380 (25.8%)	4,130 (44.9%)	5,683 (61.7%)	368 (4.0%)	1,458 (15.8%)	164 (1.8%)	708 (7.7%)
	精神障害者 (n=2,409)	731 (30.3%)	894 (37.1%)	987 (41.0%)	1,056 (43.8%)	191 (7.9%)	205 (8.5%)	13 (0.5%)	225 (9.3%)
	発達障害 (n=1,334)	739 (55.4%)	343 (25.7%)	355 (26.6%)	618 (46.3%)	9 (0.7%)	193 (14.5%)	29 (2.2%)	268 (20.1%)
	難病等 (n=139)	73 (52.5%)	33 (23.7%)	50 (36.0%)	80 (57.6%)	4 (2.9%)	23 (16.5%)	10 (7.2%)	21 (15.1%)
所属事業所	入所施設 (n=736)	443 (60.2%)	157 (21.3%)	359 (48.8%)	424 (57.6%)	57 (7.7%)	68 (9.2%)	9 (1.2%)	37 (5.0%)
	通所施設のみ (n=12,792)	6,693 (52.3%)	3,532 (27.6%)	5,287 (41.3%)	7,190 (56.2%)	569 (4.4%)	1,823 (14.3%)	245 (1.9%)	1,227 (9.6%)
	利用していない (n=68)	26 (38.2%)	31 (45.6%)	21 (30.9%)	29 (42.6%)	3 (4.4%)	7 (10.3%)	0 (0.0%)	5 (7.4%)
一般就労しているか	働いている (n=467)	163 (34.9%)	144 (30.8%)	136 (29.1%)	210 (45.0%)	29 (6.2%)	57 (12.2%)	6 (1.3%)	49 (10.5%)
	働いていない (n=12,545)	6,701 (53.4%)	3,395 (27.1%)	5,313 (42.4%)	7,093 (56.5%)	568 (4.5%)	1,756 (14.0%)	242 (1.9%)	1,162 (9.3%)



(ウ) どの歯科医療機関に通っているか

表9-2にどの歯科医療機関に通っているかを示す。歯科診療所などが60.1%で最も多く、このうち家の近くが49.6%であった。それ以外の歯科医療機関では、区や市の口腔保健センターが11.8%で最も多かった。(図10) 男女別では傾向に差を認めなかった。(図10-1)

年齢区分別では、10代で家の近くの歯科診療所が多く、20代以上では施設の近くの歯科診療所の割合が高くなった。それ以外の歯科医療機関は50代以上では40代以下よりも少なかった。(図10-2) 年代が上がるにつれ、通院に問題が生じることがうかがわれた。

障害の種別では、精神障害者と発達障害で家の近くの歯科診療所が多く、身体障害者、知的障害者、難病等ではそれ以外の歯科医療機関が多かった。(図10-3) 身体障害者、知的障害者、難病等は地域の一次医療機関での受入に課題があることがうかがわれた。

所属事業所の種別では、家の近くの歯科診療所が利用していない、通所施設のみ、入院施設の順に多く、それ以外の歯科医療機関はその逆であった。入所施設では施設の近く、施設内の歯科診療所との回答も多かった。(図10-4)

一般就労の有無では、働いている者で家または施設の近くの歯科診療所が多く、働いていない者でそれ以外の歯科医療機関が多かった。(図10-5) 一般就労していない障害者について地域の一次医療機関での受入に課題があることがうかがわれた。

(表9-2) どの歯科医療機関に通っているか

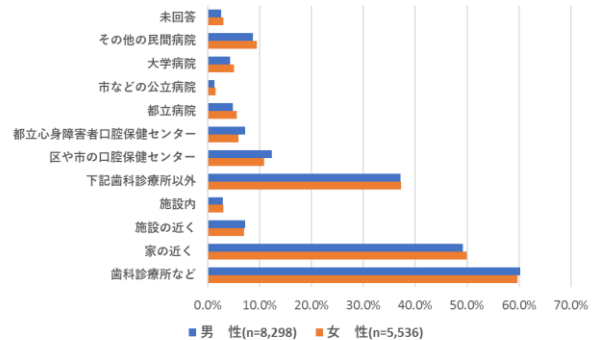
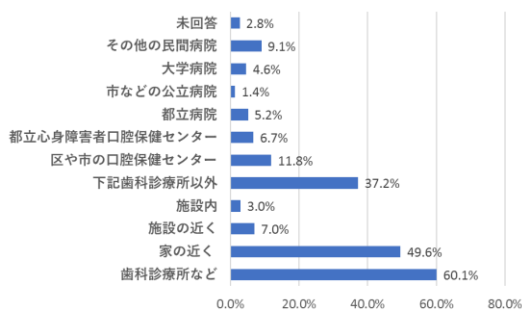
		歯科診療所	歯科診療所		
			家の近く	施設の近く	施設内
総数	(n=14,782)	8,877 (60.1%)	7,331 (49.6%)	1,040 (7.0%)	437 (3.0%)
性別	男性 (n=8,298)	4,997 (60.2%)	4,083 (49.2%)	604 (7.3%)	241 (2.9%)
	女性 (n=5,536)	3,303 (59.7%)	2,766 (50.0%)	386 (7.0%)	169 (3.1%)
年齢区分	10代以下 (n=2,317)	1,512 (65.3%)	1,263 (54.5%)	70 (3.0%)	137 (5.9%)
	20~40代 (n=8,794)	3,609 (41.0%)	2,938 (33.4%)	471 (5.4%)	169 (1.9%)
	50代以上 (n=2,849)	1,172 (41.1%)	979 (34.4%)	177 (6.2%)	47 (1.6%)
障害の種別	身体障害者 (n=3,429)	1,584 (46.2%)	1,206 (35.2%)	186 (5.4%)	237 (6.9%)
	知的障害者 (n=9,207)	4,874 (52.9%)	3,740 (40.6%)	729 (7.9%)	301 (3.3%)
	精神障害者 (n=2,409)	1,919 (79.7%)	1,749 (72.6%)	215 (8.9%)	19 (0.8%)
	発達障害 (n=1,334)	982 (73.6%)	884 (66.3%)	37 (2.8%)	31 (2.3%)
	難病等 (n=139)	73 (52.5%)	58 (41.7%)	3 (2.2%)	8 (5.8%)
所属事業所	入所施設 (n=736)	364 (49.5%)	77 (10.5%)	196 (26.6%)	149 (20.2%)
	通所施設のみ (n=12,792)	7,740 (60.5%)	6,621 (51.8%)	779 (6.1%)	226 (1.8%)
	利用していない (n=68)	52 (76.5%)	49 (72.1%)	2 (2.9%)	1 (1.5%)
一般就労しているか	働いている (n=467)	351 (75.2%)	279 (59.7%)	68 (14.6%)	5 (1.1%)
	働いていない (n=12,545)	7,427 (59.2%)	6,145 (49.0%)	872 (7.0%)	368 (2.9%)

		それ以外の歯科医療機関			区や市の口腔保健センター			都立口腔保健センター		都立病院	
総数		(n=14,782)	5,495	(37.2%)	1,748	(11.8%)	993	(6.7%)	766	(5.2%)	
性別	男性	(n=8,298)	3,083	(37.2%)	1,030	(12.4%)	602	(7.3%)	405	(4.9%)	
	女性	(n=5,536)	2,063	(37.3%)	602	(10.9%)	329	(5.9%)	312	(5.6%)	
年齢区分	10代以下	(n=2,317)	769	(33.2%)	225	(9.7%)	100	(4.3%)	119	(5.1%)	
	20~40代	(n=8,794)	2810	(32.0%)	942	(10.7%)	573	(6.5%)	427	(4.9%)	
	50代以上	(n=2,849)	595	(20.9%)	194	(6.8%)	106	(3.7%)	55	(1.9%)	
障害の種別	身体障害者	(n=3,429)	1,737	(50.7%)	486	(14.2%)	244	(7.1%)	387	(11.3%)	
	知的障害者	(n=9,207)	4,088	(44.4%)	1,437	(15.6%)	858	(9.3%)	591	(6.4%)	
	精神障害者	(n=2,409)	423	(17.6%)	25	(1.0%)	17	(0.7%)	27	(1.1%)	
	発達障害	(n=1,334)	322	(24.1%)	86	(6.4%)	38	(2.8%)	52	(3.9%)	
	難病等	(n=139)	63	(45.3%)	9	(6.5%)	3	(2.2%)	22	(15.8%)	
所属事業所	入所施設	(n=736)	333	(45.2%)	143	(19.4%)	62	(8.4%)	29	(3.9%)	
	通所施設のみ	(n=12,792)	4,726	(36.9%)	1,465	(11.5%)	856	(6.7%)	677	(5.3%)	
	利用していない	(n=68)	13	(19.1%)	0	(0.0%)	3	(4.4%)	1	(1.5%)	
一般就労しているか	働いている	(n=467)	90	(19.3%)	21	(4.5%)	10	(2.1%)	8	(1.7%)	
	働いていない	(n=12,545)	4,796	(38.2%)	1,524	(12.1%)	869	(6.9%)	685	(5.5%)	

		市などの公立病院		大学病院		その他の民間病院		未回答		
総数		(n=14,782)	206	(1.4%)	677	(4.6%)	1,342	(9.1%)	410	(2.8%)
性別	男性	(n=8,298)	107	(1.3%)	356	(4.3%)	723	(8.7%)	218	(2.6%)
	女性	(n=5,536)	85	(1.5%)	279	(5.0%)	524	(9.5%)	170	(3.1%)
年齢区分	10代以下	(n=2,317)	37	(1.6%)	198	(8.5%)	178	(7.7%)	36	(1.6%)
	20~40代	(n=8,794)	94	(1.1%)	264	(3.0%)	622	(7.1%)	2438	(27.7%)
	50代以上	(n=2,849)	19	(0.7%)	49	(1.7%)	158	(5.5%)	949	(33.3%)
障害の種別	身体障害者	(n=3,429)	86	(2.5%)	211	(6.2%)	367	(10.7%)	108	(3.1%)
	知的障害者	(n=9,207)	147	(1.6%)	455	(4.9%)	882	(9.6%)	245	(2.7%)
	精神障害者	(n=2,409)	15	(0.6%)	56	(2.3%)	208	(8.6%)	67	(2.8%)
	発達障害	(n=1,334)	13	(1.0%)	83	(6.2%)	89	(6.7%)	30	(2.2%)
	難病等	(n=139)	2	(1.4%)	19	(13.7%)	14	(10.1%)	3	(2.2%)
所属事業所	入所施設	(n=736)	10	(1.4%)	15	(2.0%)	36	(4.9%)	39	(5.3%)
	通所施設のみ	(n=12,792)	183	(1.4%)	606	(4.7%)	1,184	(9.3%)	326	(2.5%)
	利用していない	(n=68)	0	(0.0%)	3	(4.4%)	4	(5.9%)	3	(4.4%)
一般就労しているか	働いている	(n=467)	6	(1.3%)	12	(2.6%)	34	(7.3%)	258	(55.2%)
	働いていない	(n=12,545)	176	(1.4%)	590	(4.7%)	1,146	(9.1%)	6,348	(50.6%)

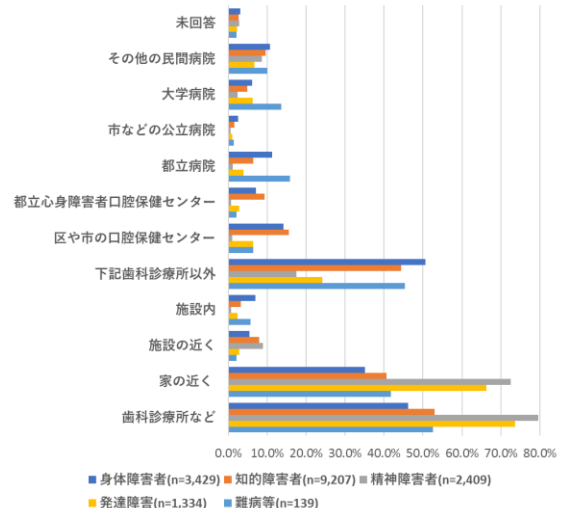
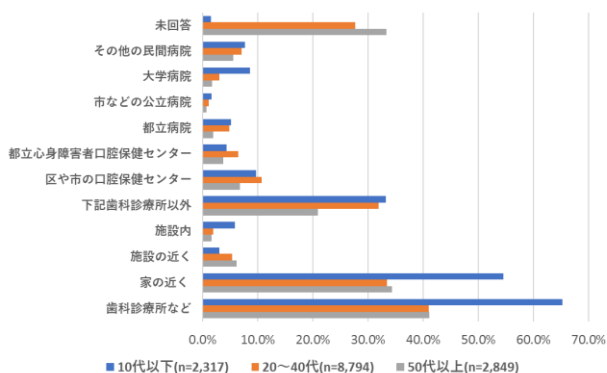
(図10) 通っている歯科医療機関

(図10-1) 通っている歯科医療機関 (男女別)

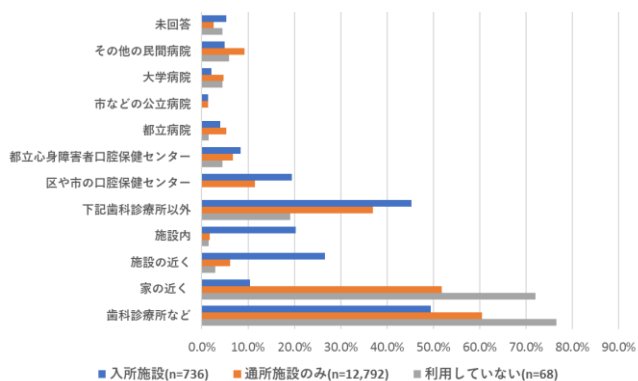


(図10-2) 通っている歯科医療機関 (年齢区分別)

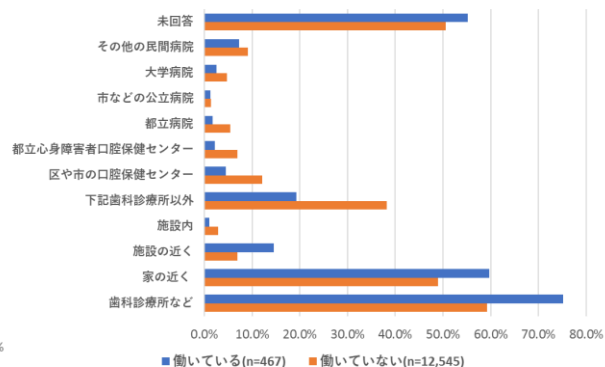
(図10-3) 通っている歯科医療機関 (障害の種別)



(図10-4) 通っている歯科医療機関（所属事業所の種別）



(図10-5) 通っている歯科医療機関（一般就労の有無）



(エ) その歯科医療機関に通っている理由

表9-3にその医療機関に通っている理由を示す。スタッフが優しく丁寧が63.5%と最も多かった。歯科医療機関については32.4%とスタッフについて65.2%の半数程度であった。バリアフリーは10.1%であった。(図11) バリアフリーは特定の障害等に求められる要件であることが想像される。

男女別では傾向に差を認めなかった。(図11-1)

年齢区分別では、多くの項目で50代以上より40代以下が高かったのに対し、家や施設から近いで50代以上が高かった。(図11-2) ここでも年代が上がると、通院に問題が生じることがうかがわれた。

障害の種別では、身体障害者と難病等で歯科医療機関について、特にバリアフリーを理由として挙げていた。スタッフについて、優しく丁寧は障害の種別にかかわらず最も多い理由として挙げられていた。(図11-3)

所属事業所の種別では、スタッフについて、優しく丁寧は障害の種別にかかわらず最も多い理由として挙げられていたのは変わらないものの、入所施設ではその割合が少なかった。入所施設のみが多かったのは、バリアフリーと施設職員からの紹介であった。(図11-4)

一般就労の有無では、働いていない者の方がスタッフについて、歯科医療機関についての割合が高く、働いている者の方が家族が通っている、施設職員からの紹介、家や施設から近いの割合が高かった。(図11-5)

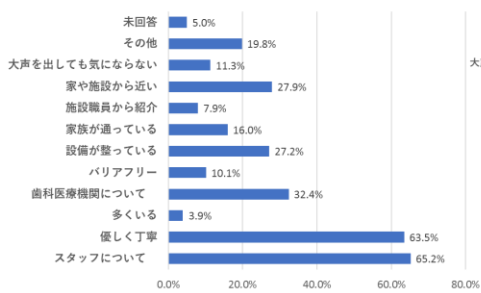
通院先別にみると、歯科診療所などではスタッフについて、歯科医療機関についての割合が低く、家や施設から近い、家族が通っているが多かった。それ以外の歯科医療機関では、設備が整っているが多かった。(図11-6)

(表9-3) その歯科医療機関に通っている理由

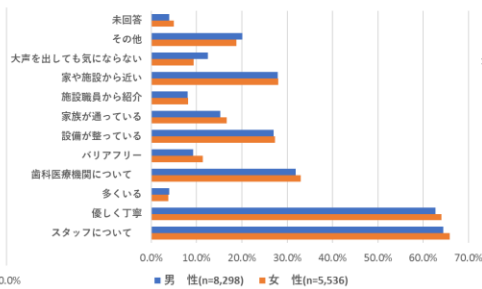
総数	スタッフについて (n=14,782)	優しく丁寧		多くいる		歯科医療機関について		バリアフリー		設備が整っている	
		9,639 (65.2%)	9,384 (63.5%)	576 (3.9%)	4,791 (32.4%)	1,496 (10.1%)	4,018 (27.2%)				
性別	男性 (n=8,298)	5,342 (64.4%)	5,204 (62.7%)	326 (3.9%)	2,647 (31.9%)	767 (9.2%)	2,239 (27.0%)				
	女性 (n=5,536)	3,644 (65.8%)	3,547 (64.1%)	207 (3.7%)	1,825 (33.0%)	628 (11.3%)	1,510 (23.3%)				
年齢区分	10代以下 (n=2,317)	1,480 (63.9%)	1,455 (62.8%)	74 (3.2%)	740 (31.9%)	225 (9.7%)	627 (27.1%)				
	20~40代 (n=8,794)	6,018 (68.4%)	5,862 (66.7%)	388 (4.4%)	3,029 (34.4%)	970 (11.0%)	2,544 (28.9%)				
	50代以上 (n=2,849)	1,528 (53.6%)	1,469 (51.6%)	81 (2.8%)	714 (25.1%)	203 (7.1%)	590 (20.7%)				
障害の種別	身体障害者 (n=3,429)	2,220 (64.7%)	2,164 (63.1%)	150 (4.4%)	1,586 (46.3%)	980 (28.6%)	1,071 (31.2%)				
	知的障害者 (n=9,207)	6,217 (67.5%)	6,067 (65.9%)	402 (4.4%)	3,085 (33.5%)	995 (10.8%)	2,603 (28.3%)				
	精神障害者 (n=2,409)	1,448 (60.1%)	1,387 (57.6%)	85 (3.5%)	673 (27.9%)	55 (2.3%)	631 (26.2%)				
	発達障害 (n=1,334)	866 (64.9%)	848 (63.6%)	33 (2.5%)	366 (27.4%)	56 (4.2%)	336 (25.2%)				
	難病等 (n=139)	83 (59.7%)	81 (58.3%)	7 (5.0%)	60 (43.2%)	28 (20.1%)	46 (33.1%)				
所属事業所	入所施設 (n=736)	321 (43.6%)	309 (42.0%)	34 (4.6%)	220 (29.9%)	104 (14.1%)	200 (27.2%)				
	通所施設のみ (n=12,792)	8,489 (66.4%)	8,262 (64.6%)	500 (3.9%)	4,175 (32.6%)	1,262 (9.9%)	3,491 (27.3%)				
	利用していない (n=68)	40 (58.8%)	40 (58.8%)	0 (0.0%)	15 (22.1%)	3 (4.4%)	12 (17.6%)				
一般就労しているか	働いている (n=467)	268 (57.4%)	256 (54.8%)	11 (2.4%)	103 (22.1%)	20 (4.3%)	86 (18.4%)				
	働いていない (n=12,545)	8,216 (65.5%)	7,999 (63.8%)	498 (4.0%)	4,143 (33.0%)	1,311 (10.5%)	3,469 (27.7%)				
どこに通っているか	歯科診療所 (n=8,877)	5,617 (63.3%)	5,468 (61.6%)	234 (2.6%)	2,147 (24.2%)	462 (5.2%)	1,839 (20.7%)				
	歯科診療所以外 (n=5,495)	3,901 (71.0%)	3,801 (69.2%)	334 (6.1%)	2,591 (47.2%)	1,013 (18.4%)	2,134 (38.8%)				

		家族が通っている	施設職員から紹介	家や施設から近い	大声を出しても 気にならない	その他	未回答
総数	(n=14,782)	2,359 (16.0%)	1,172 (7.9%)	4,125 (27.9%)	1,675 (11.3%)	2,924 (19.8%)	737 (5.0%)
性別	男性 (n=8,298)	1,262 (15.2%)	668 (8.1%)	2,315 (27.9%)	1,038 (12.5%)	1,669 (20.1%)	414 (4.0%)
	女性 (n=5,536)	920 (16.6%)	448 (8.1%)	1,549 (28.0%)	520 (9.4%)	1,041 (18.8%)	277 (5.0%)
年齢区分	10代以下 (n=2,317)	449 (19.4%)	254 (11.0%)	667 (28.8%)	370 (16.0%)	592 (25.6%)	52 (2.2%)
	20~40代 (n=8,794)	1,466 (16.7%)	591 (6.7%)	2,328 (26.5%)	1,119 (12.7%)	1,784 (20.3%)	397 (4.5%)
	50代以上 (n=2,849)	273 (9.6%)	276 (9.7%)	885 (31.1%)	68 (2.4%)	338 (11.9%)	250 (8.8%)
障害の種別	身体障害者 (n=3,429)	349 (10.2%)	298 (8.7%)	741 (21.6%)	420 (12.2%)	794 (23.2%)	196 (5.7%)
	知的障害者 (n=9,207)	1,508 (16.4%)	834 (9.1%)	2,233 (24.3%)	1,368 (14.9%)	1,958 (21.3%)	429 (4.7%)
	精神障害者 (n=2,409)	314 (13.0%)	143 (5.9%)	925 (38.4%)	31 (1.3%)	329 (13.7%)	140 (5.8%)
	発達障害 (n=1,334)	274 (20.5%)	86 (6.4%)	464 (34.8%)	171 (12.8%)	302 (22.6%)	29 (2.2%)
	難病等 (n=139)	24 (17.3%)	15 (10.8%)	35 (25.2%)	16 (11.5%)	37 (26.6%)	3 (2.2%)
所属事業所	入所施設 (n=736)	22 (3.0%)	147 (20.0%)	207 (28.1%)	79 (10.7%)	120 (16.3%)	91 (12.4%)
	通所施設のみ (n=12,792)	2,125 (16.6%)	936 (7.3%)	3,591 (28.1%)	1,433 (11.2%)	2,565 (20.1%)	553 (4.3%)
	利用していない (n=68)	14 (20.6%)	4 (5.9%)	22 (32.4%)	4 (5.9%)	8 (11.8%)	5 (7.4%)
一般就労しているか	働いている (n=467)	79 (16.9%)	47 (10.1%)	146 (31.3%)	12 (2.6%)	65 (13.9%)	269 (57.6%)
	働いていない (n=12,545)	1,971 (15.7%)	1,006 (8.0%)	3,503 (27.9%)	1,440 (11.5%)	2,494 (19.9%)	6,613 (52.7%)
どこに通っているか	歯科診療所 (n=8,877)	2,044 (23.0%)	649 (7.3%)	3,470 (39.1%)	416 (4.7%)	1,369 (15.4%)	333 (3.8%)
	それ以外の 歯科医療機関 (n=5,495)	302 (5.5%)	506 (9.2%)	637 (11.6%)	1,234 (22.5%)	1,515 (27.6%)	170 (3.1%)

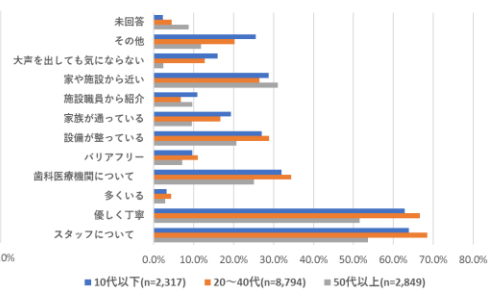
(図11) その歯科医療機関に通っている理由



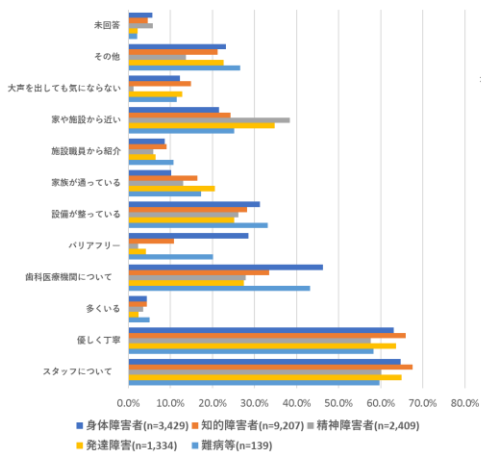
(図11-1) その歯科医療機関に通っている理由 (男女別)



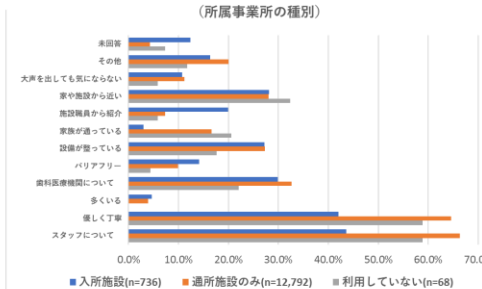
(図11-2) その歯科医療機関に通っている理由 (年齢区分別)



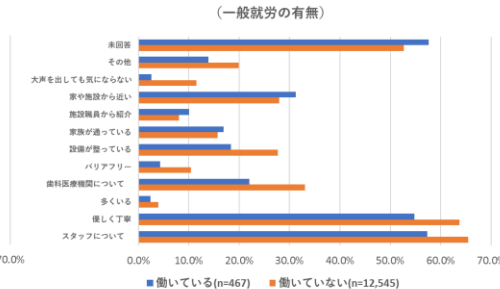
(図11-3) その歯科医療機関に通っている理由 (障害の種別)



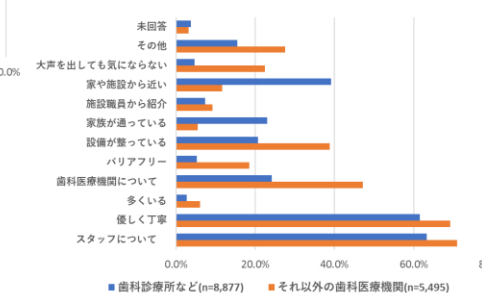
(図11-4) その歯科医療機関に通っている理由 (所属事業所の種別)



(図11-5) その歯科医療機関に通っている理由 (一般就労の有無)



(図11-6) その歯科医療機関に通っている理由 (通院先別)



(オ) 付き添いの人はいるか

表9-4に付き添いの人がいるかを示す。1人で通っているのは29.0%で、家族が付き添っているのが最も多く61.6%であった。(図12)

男女別では傾向に差を認めなかったものの、男性の方が家族の付き添いが多く、女性の方が1人で通っているが多かった。(図12-1)

年齢区分別では、年代が若いほど家族の付き添いが多く、年代が上がるにつれ1人で通っていると施設職員の付き添いが増加した。(図12-2)

障害の種別では、精神障害者で付き添いが少なく、1人で通っているが多かった。(図12-3)

所属事業所の種別では、入所施設で施設職員の付き添いが多く、通所施設では家族の付き添いが多く、利用していない者は1人で通っているが多かった。(図12-4)

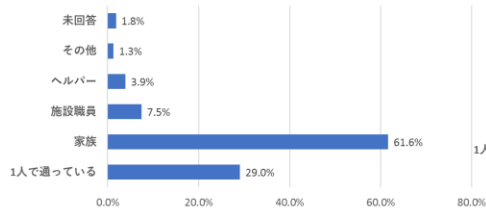
一般就労の有無では、働いている者は1人で通っているが多く、働いていない者は家族をはじめ、付き添いが多かった。(図12-5)

通院先別では、歯科診療所、それ以外の歯科医療機関ともに家族の付き添いが最も多く、次いで1人で通っているであった。ただし、それ以外の歯科医療機関では家族の付き添いの割合が高かった。(図12-6)

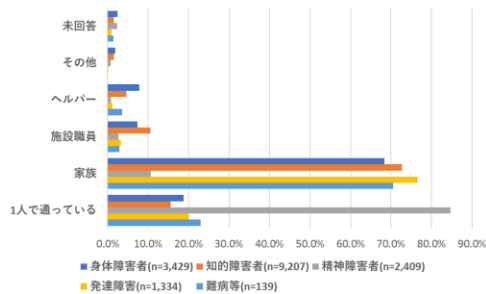
(表9-4) 付き添いの人はいるか

		1人で通っている		家族		施設職員		ヘルパー		その他		未回答	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
総数		4,289	(29.0%)	9,102	(61.6%)	1,106	(7.5%)	575	(3.9%)	193	(1.3%)	273	(1.8%)
性別	男性	2,369	(28.5%)	5,113	(61.6%)	656	(7.9%)	315	(3.8%)	100	(1.2%)	153	(1.8%)
	女性	1,706	(30.8%)	3,288	(59.4%)	428	(7.7%)	229	(4.1%)	84	(1.5%)	109	(2.0%)
年齢区分	10代以下	74	(3.2%)	2,132	(92.0%)	102	(4.4%)	22	(0.9%)	9	(0.4%)	24	(1.0%)
	20~40代	2,480	(28.2%)	5,685	(64.6%)	573	(6.5%)	394	(4.5%)	100	(1.1%)	149	(1.7%)
	50代以上	1,549	(54.4%)	614	(21.6%)	408	(14.3%)	127	(4.5%)	73	(2.6%)	92	(3.2%)
障害の種別	身体障害者	644	(18.8%)	2,344	(68.4%)	253	(7.4%)	270	(7.9%)	66	(1.9%)	85	(2.5%)
	知的障害者	1,431	(15.5%)	6,691	(72.7%)	975	(10.6%)	422	(4.6%)	138	(1.5%)	139	(1.5%)
	精神障害者	2,040	(84.7%)	258	(10.7%)	66	(2.7%)	21	(0.9%)	19	(0.8%)	57	(2.4%)
	発達障害	267	(20.0%)	1,021	(76.5%)	43	(3.2%)	16	(1.2%)	3	(0.2%)	12	(0.9%)
	難病等	32	(23.0%)	98	(70.5%)	4	(2.9%)	5	(3.6%)	0	(0.0%)	2	(1.4%)
所属事業所	入所施設	24	(3.3%)	184	(25.0%)	505	(68.6%)	13	(1.8%)	16	(2.2%)	35	(4.8%)
	通所施設のみ	3,950	(30.9%)	8,065	(63.0%)	544	(4.3%)	525	(4.1%)	167	(1.3%)	205	(1.6%)
	利用していない	42	(61.8%)	22	(32.4%)	1	(1.5%)	1	(1.5%)	0	(0.0%)	2	(2.9%)
一般就労しているか	働いている	290	(62.1%)	145	(31.0%)	25	(5.4%)	3	(0.6%)	10	(2.1%)	243	(52.0%)
	働いていない	3,548	(28.3%)	7,751	(61.8%)	987	(7.9%)	511	(4.1%)	168	(1.3%)	6,263	(49.9%)
どこに通っているか	歯科診療所	3,519	(39.6%)	4,652	(52.4%)	655	(7.4%)	213	(2.4%)	124	(1.4%)	109	(1.2%)
	それ以外の歯科医療機関	672	(12.2%)	4,277	(77.8%)	422	(7.7%)	354	(6.4%)	58	(1.1%)	55	(1.0%)

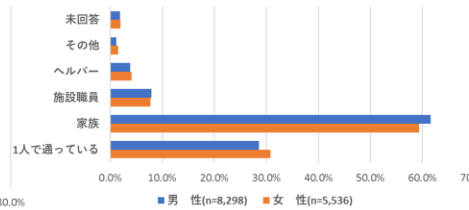
(図12) 付き添い



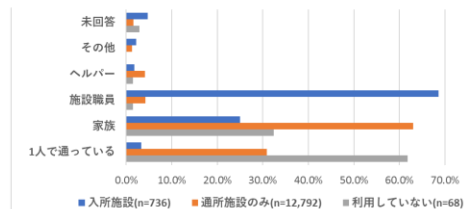
(図12-3) 付き添い (障害の種別)



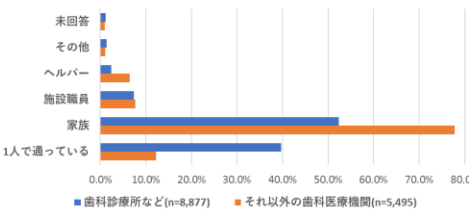
(図12-1) 付き添い (男女別)



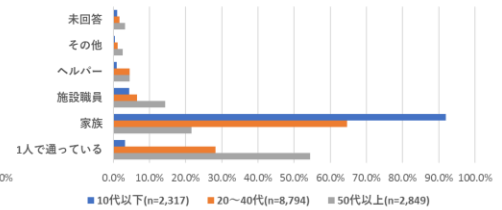
(図12-4) 付き添い (所属事業所の種別)



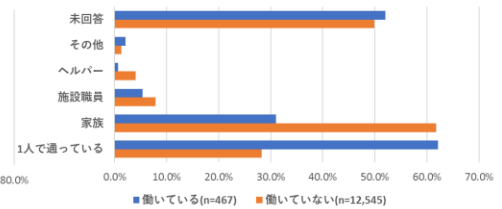
(図12-6) 付き添い (通院先別)



(図12-2) 付き添い (年齢区分別)



(図12-5) 付き添い (一般就労の有無)



(カ) 通う手段

表9-5に通う手段を示す。歩きが40.5%で最も多く、次いで車が31.2%であった。電車15.2%、バス12.1%、タクシー6.9%と公共交通機関の利用は多くなかった。(図13)

男女別では、男性で自転車の割合が女性より高かったものの、傾向に大きな違いを認めなかった。(図13-1)

年齢区分別では、年代が上がるにつれ歩きの割合が高くなった。また、40代以下で車が多く、10代以下では自転車が多く、20~40代では電車、タクシーが多く、20代以上でバスが多い傾向であった。(図13-2) 日常生活圏の広さとそれに伴う日常に使う交通機関の違いが現れたものと考えられる。

障害の種別では、精神障害者で歩きが多く、車が少なかった。自転車は発達障害と精神障害者で多かった。タクシーは身体障害者と知的障害者で多かった。(図13-3)

所属事業所の種別では、歩きは利用していない、通所施設のみ、入所施設の順に多く、車はその逆であった。入所施設では自転車、電車が少なかった。(図13-4)

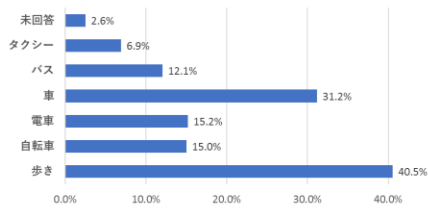
一般就労の有無では、働いている者は歩き、自転車が多く、働いていない者は車が多かった。(図13-5)

通院先別では、歯科診療所などは歩きや自転車が、それ以外の歯科医療機関では車、電車、バス、タクシーが多かった。(図13-6) 通う手段の選択は、家や施設から医療機関までの距離に依存するため、当然の結果と言えよう。

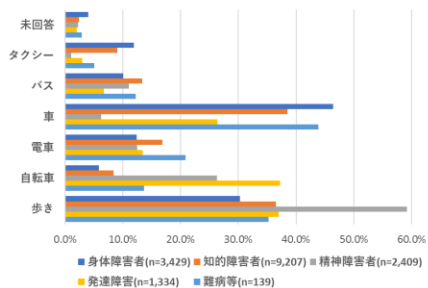
(表9-5) 通う手段

総数		歩き	自転車	電車	車	バス	タクシー	未回答
(n=14,782)		5,990 (40.5%)	2,219 (15.0%)	2,244 (15.2%)	4,606 (31.2%)	1,784 (12.1%)	1,021 (6.9%)	377 (2.6%)
性別	男性 (n=8,298)	3,309 (39.9%)	1,386 (16.7%)	1,276 (15.4%)	2,535 (30.5%)	953 (11.5%)	555 (6.7%)	225 (2.7%)
	女性 (n=5,536)	2,316 (41.8%)	660 (11.9%)	828 (15.0%)	1,760 (31.8%)	720 (13.0%)	400 (7.2%)	140 (2.5%)
年齢区分	10代以下 (n=2,317)	669 (28.9%)	782 (33.8%)	301 (13.0%)	871 (37.6%)	158 (6.8%)	80 (3.5%)	34 (1.5%)
	20~40代 (n=8,794)	3,528 (40.1%)	941 (10.7%)	1,504 (17.1%)	3,011 (34.2%)	1,126 (12.8%)	711 (8.1%)	216 (2.5%)
	50代以上 (n=2,849)	1,444 (50.7%)	337 (11.8%)	314 (11.0%)	431 (15.1%)	398 (14.0%)	166 (5.8%)	114 (4.0%)
障害の種別	身体障害者 (n=3,429)	1,039 (30.3%)	202 (5.9%)	425 (12.4%)	1,591 (46.4%)	347 (10.1%)	408 (11.9%)	138 (4.0%)
	知的障害者 (n=9,207)	3,360 (36.5%)	775 (8.4%)	1,554 (16.9%)	3,545 (38.5%)	1,232 (13.4%)	832 (9.0%)	224 (2.4%)
	精神障害者 (n=2,409)	1,426 (59.2%)	633 (26.3%)	301 (12.5%)	150 (6.2%)	266 (11.0%)	25 (1.0%)	54 (2.2%)
	発達障害 (n=1,334)	494 (37.0%)	497 (37.3%)	179 (13.4%)	352 (26.4%)	90 (6.7%)	40 (3.0%)	27 (2.0%)
	難病等 (n=139)	49 (35.3%)	19 (13.7%)	29 (20.9%)	61 (43.9%)	17 (12.2%)	7 (5.0%)	4 (2.9%)
所属事業所	入所施設 (n=736)	226 (30.7%)	4 (0.5%)	41 (5.6%)	366 (49.7%)	52 (7.1%)	49 (6.7%)	91 (12.4%)
	通所施設のみ (n=12,792)	5,253 (41.1%)	2,014 (15.7%)	2,023 (15.8%)	3,850 (30.1%)	1,604 (12.5%)	894 (7.0%)	247 (1.9%)
	利用していない (n=68)	46 (67.6%)	10 (14.7%)	10 (14.7%)	7 (10.3%)	3 (4.4%)	0 (0.0%)	2 (2.9%)
一般就労しているか	働いている (n=467)	257 (55.0%)	92 (19.7%)	70 (15.0%)	63 (13.5%)	60 (12.8%)	8 (1.7%)	244 (52.2%)
	働いていない (n=12,545)	5,057 (40.3%)	1,814 (14.5%)	1,919 (15.3%)	3,975 (31.7%)	1,530 (12.2%)	899 (7.2%)	6,345 (50.6%)
どこに通っているか	歯科診療所 (n=8,877)	4,900 (55.2%)	1,852 (20.9%)	741 (8.3%)	1,805 (20.3%)	854 (9.6%)	245 (2.8%)	177 (2.0%)
	それ以外の歯科医療機関 (n=5,495)	992 (18.1%)	335 (6.1%)	1,463 (26.6%)	2,711 (49.3%)	873 (15.9%)	745 (13.6%)	85 (1.5%)

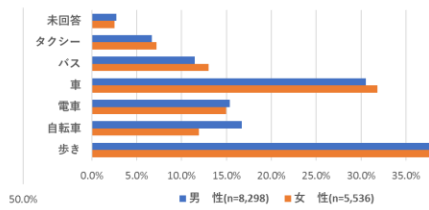
(図13) 通う手段



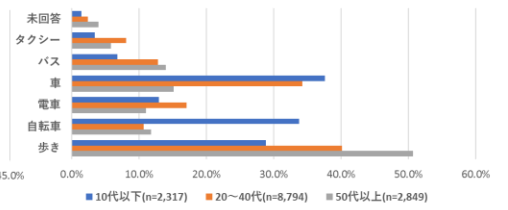
(図13-3) 通う手段 (障害の種別)



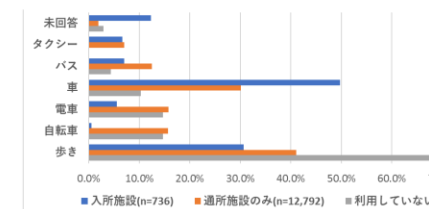
(図13-1) 通う手段 (男女別)



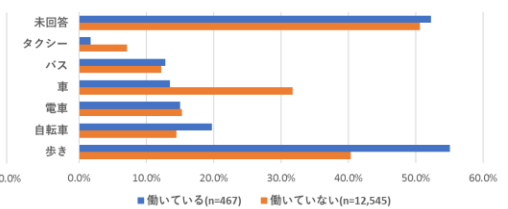
(図13-2) 通う手段 (年齢区分別)



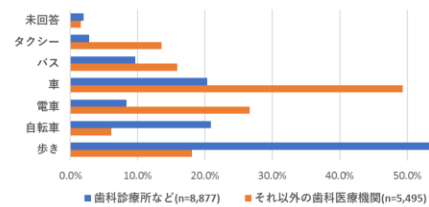
(図13-4) 通う手段 (所属事業所の種別)



(図13-5) 通う手段 (一般就労の有無)



(図13-6) 通う手段 (通院先別)



●施設か自宅に歯科医師が来てくれる場合

(キ) 訪問歯科診療に来てくれる歯科医師をどのように知ったか

表10に訪問歯科診療に来てくれる歯科医師をどのように知ったかを示す。施設に来ているため48.2%、次いで自分や家族が探した29.6%であった。(図14) 半数近くは自ら主体的に訪問歯科医師を選んでいないことが明らかとなった。

男女別では、傾向に大きな違いを認めなかったものの、男性で女性より施設から紹介が多く、施設に来ているが少なかった。(図14-1)

年齢区分別では、年代が上がるにつれ施設に来ているが多くなった。50代以上では自分や家族が探したが少なかった。(図14-2)

障害の種別では、精神障害者で施設に来ているが少なく、自分や家族が探したが多かった。発達障害では施設からの紹介が少なく、自分や家族が探したが多かった。(図14-3)

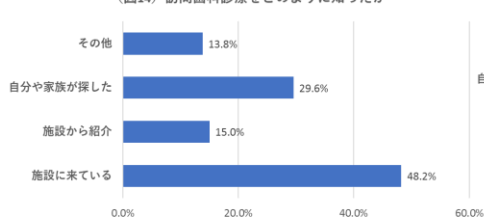
所属事業所の種別では、入所施設で施設に来ているが89.7%を占め、自分や家族が探したは2.0%であった。(図14-4)

一般就労の有無では、働いていない者は施設に来ているが多く、働いている者は自分や家族が探した、施設から紹介が多かった。(図14-5)

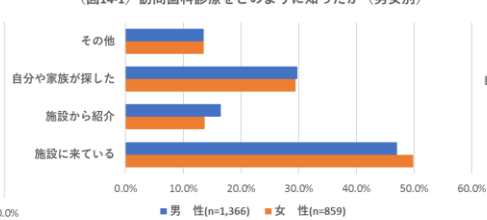
(表10) 訪問歯科診療に来てくれる歯科医師をどのように知ったか (重複回答)

		施設に来ている	施設から紹介	自分や家族が探した	その他
総数	(n=2,322)	1,120 (48.2%)	349 (15.0%)	687 (29.6%)	321 (13.8%)
性別	男性 (n=1,366)	642 (47.0%)	225 (16.5%)	407 (29.8%)	185 (13.5%)
	女性 (n=859)	428 (49.8%)	118 (13.7%)	253 (29.5%)	116 (13.5%)
年齢区分	10代以下 (n=199)	65 (32.7%)	31 (15.6%)	68 (34.2%)	39 (19.6%)
	20~40代 (n=1,303)	547 (42.0%)	170 (13.0%)	440 (33.8%)	182 (14.0%)
	50代以上 (n=684)	476 (69.6%)	139 (20.3%)	156 (22.8%)	84 (12.3%)
障害の種別	身体障害者 (n=809)	480 (59.3%)	93 (11.5%)	148 (18.3%)	129 (15.9%)
	知的障害者 (n=1,483)	784 (52.9%)	231 (15.6%)	400 (27.0%)	193 (13.0%)
	精神障害者 (n=294)	66 (22.4%)	38 (12.9%)	156 (53.1%)	51 (17.3%)
	発達障害 (n=179)	85 (47.5%)	8 (4.5%)	69 (38.5%)	34 (19.0%)
	難病等 (n=20)	9 (45.0%)	4 (20.0%)	4 (20.0%)	4 (20.0%)
所属事業所	入所施設 (n=858)	770 (89.7%)	132 (15.4%)	17 (2.0%)	35 (4.1%)
	通所施設のみ (n=1,306)	280 (17.5%)	200 (12.5%)	621 (38.8%)	256 (16.0%)
	利用していない (n=6)	0 (0.0%)	1 (20.0%)	3 (60.0%)	2 (40.0%)
一般就労しているか	働いている (n=79)	13 (16.5%)	22 (27.8%)	34 (43.0%)	12 (15.2%)
	働いていない (n=1994)	974 (48.8%)	301 (15.1%)	581 (29.1%)	282 (14.1%)

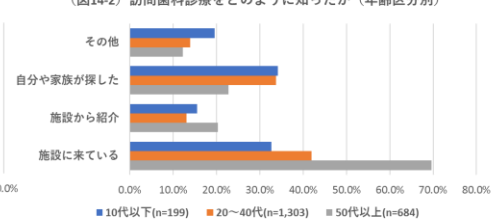
(図14) 訪問歯科診療をどのように知ったか



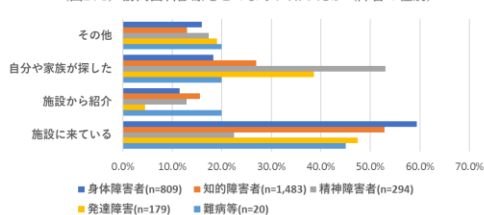
(図14-1) 訪問歯科診療をどのように知ったか (男女別)



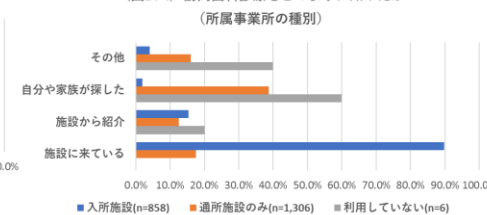
(図14-2) 訪問歯科診療をどのように知ったか (年齢区分別)



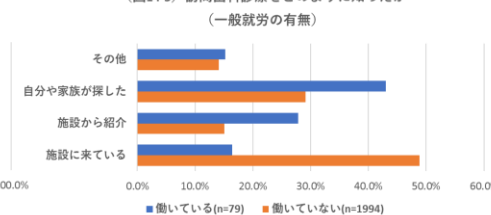
(図14-3) 訪問歯科診療をどのように知ったか (障害の種別)



(図14-4) 訪問歯科診療をどのように知ったか (所属事業所の種別)



(図14-5) 訪問歯科診療をどのように知ったか (一般就労の有無)



●通っていない場合

(ク) 通っていない理由

表11に通っていない理由を示す。最も多かったのは必要ないからで45.2%であった。(図15)

男女別では、傾向に大きな違いを認めなかったものの、男性で女性より必要ないから、めんどうだからが多く、1人で行けないからが少なかった。(図15-1)

年齢区分別では、年代が上がるにつれ必要ないからが増え、めんどうだからは20~40代が多かった。年代が低いほど、その他の理由が多かった。(図15-2)

10代以下でその他に挙げられていた主な理由は以下の通りであった。

- ・暴れてしまいそう
- ・過去に暴れて行きづらくなった
- ・嫌がる、怖い
- ・口を開けることができない
- ・行くのが大変(時間、予約、通院等)
- ・治療が終了した
- ・幼いためまだ行っていない
- ・むし歯がないため
- ・歯科健診を受けているため
- ・これから受診予定
- ・どこに行っても良いか分からない(転居によるものを含む)

過去に暴れたのではなく、暴れてしまいそうだからという理由は、通院前の阻害要因として一考を要すると考える。また、転居によりかかりつけ歯科医が変わらざるを得なくなったケースもあり、診診連携・病診連携の強化が重要であろう。この他に少数ではあるが、雑な扱いを受けた、あまり受け入れたくないような言葉をかけられた、定期的に通っていたが混んでいるため断られたといった意見もみられた。多分にコミュニケーションのエラーによるものと思われるが、歯科診療の選択肢が絞られる障害者に対しては、必要十分以上の配慮を要する。

20代以上ではこれらに加え、金銭的な問題を理由にあげた者が散見された。

障害の種別では、精神障害者で必要ないから、めんどうだからが多く、1人で行けないからが少なかった。難病等では必要ないからが少なく、身体障害者、知的障害者ではめんどうだからが少なかった。(図15-3)

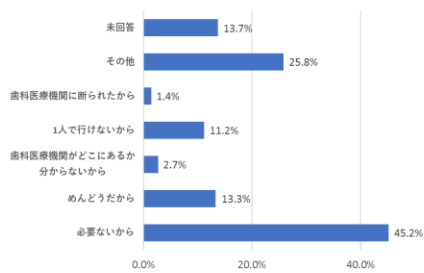
所属事業所の種別では、入所施設で必要ないからが多く、めんどうだから、歯科医療機関がどこにあるかわからないからが少なかった。(図15-4)

一般就労の有無では、働いている者は働いていない者に比べ、必要ないから、めんどうだからが多く、1人で行けないからが少なかった。(図15-5)

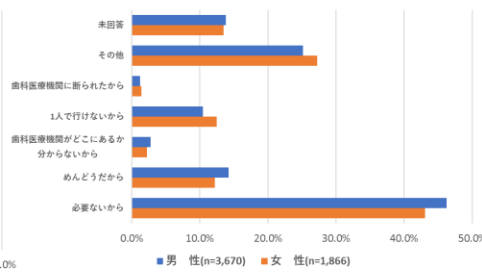
(表11) 通っていない理由

総数	(n=5,858)	必要ないから 2,647 (45.2%)	めんどうだから 781 (13.3%)	歯科医療機関が 158 (2.7%)	1人で行けないから 657 (11.2%)	歯科医療機関に 84 (1.4%)	その他 1,513 (25.8%)	未回答 802 (13.7%)
性別								
男性	(n=3,670)	1697 (46.2%)	521 (14.2%)	100 (2.7%)	383 (10.4%)	44 (1.2%)	922 (25.1%)	508 (13.8%)
女性	(n=1,866)	804 (43.1%)	228 (12.2%)	41 (2.2%)	233 (12.5%)	26 (1.4%)	508 (27.2%)	251 (13.5%)
年齢区分								
10代以下	(n=793)	323 (40.7%)	55 (6.9%)	29 (3.7%)	94 (11.9%)	11 (1.4%)	285 (35.9%)	107 (13.5%)
20~40代	(n=3,192)	1,425 (44.6%)	481 (15.1%)	91 (2.9%)	385 (12.1%)	45 (1.4%)	833 (26.1%)	409 (12.8%)
50代以上	(n=1,601)	785 (49.0%)	220 (13.7%)	23 (1.4%)	143 (8.9%)	16 (1.0%)	321 (20.0%)	245 (15.3%)
障害の種別								
身体障害者	(n=1,026)	447 (43.6%)	96 (9.4%)	26 (2.5%)	144 (14.0%)	16 (1.6%)	245 (23.9%)	179 (17.4%)
知的障害者	(n=2,714)	1,100 (40.5%)	208 (7.7%)	80 (2.9%)	486 (17.9%)	53 (2.0%)	770 (28.4%)	422 (15.5%)
精神障害者	(n=1,789)	909 (50.8%)	430 (24.0%)	39 (2.2%)	48 (2.7%)	12 (0.7%)	393 (22.0%)	188 (10.5%)
発達障害	(n=573)	241 (42.1%)	75 (13.1%)	17 (3.0%)	55 (9.6%)	6 (1.0%)	188 (32.8%)	66 (11.5%)
難病等	(n=51)	15 (29.4%)	8 (15.7%)	2 (3.9%)	9 (17.6%)	1 (2.0%)	12 (23.5%)	12 (23.5%)
所属事業所								
入所施設	(n=287)	142 (49.5%)	6 (2.1%)	1 (0.3%)	31 (10.8%)	1 (0.3%)	57 (19.9%)	71 (24.7%)
通所施設のみ	(n=5,160)	2,320 (45.0%)	735 (14.2%)	142 (2.8%)	586 (11.4%)	73 (1.4%)	1,360 (26.4%)	651 (12.6%)
利用していない	(n=30)	13 (43.3%)	4 (13.3%)	0 (0.0%)	3 (10.0%)	0 (0.0%)	6 (20.0%)	7 (23.3%)
一般就労して働いている	(n=227)	127 (55.9%)	35 (15.4%)	4 (1.8%)	11 (4.8%)	0 (0.0%)	44 (19.4%)	29 (12.8%)
働いていない	(n=4,991)	2,222 (44.5%)	666 (13.3%)	137 (2.7%)	576 (11.5%)	70 (1.4%)	1,322 (26.5%)	673 (13.5%)

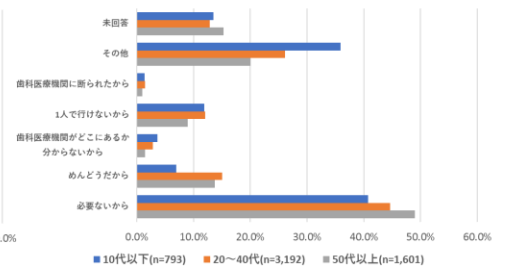
(図15) 通っていない理由



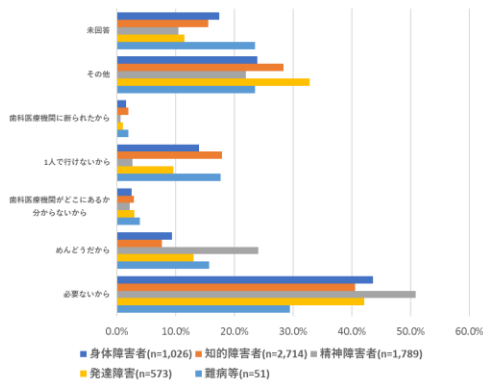
(図15-1) 通っていない理由 (男女別)



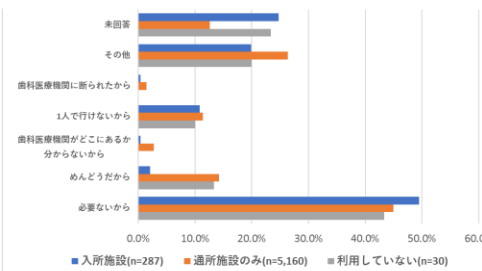
(図15-2) 通っていない理由 (年齢区分別)



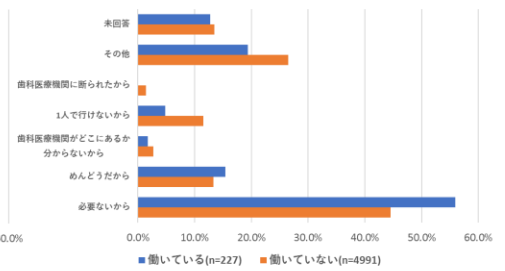
(図15-3) 通っていない理由 (障害の種別)



(図15-4) 通っていない理由 (所属事業所の種別)



(図15-5) 通っていない理由 (一般就労の有無)



3 歯科健診の受診状況

表12に歯科健診の受診状況を示す。歯科健診を受診しているのは60.9%、受診していないのは26.3%であった。(図16)

男女別では歯科健診の受診状況に傾向の差を認めなかった。(図16-1)

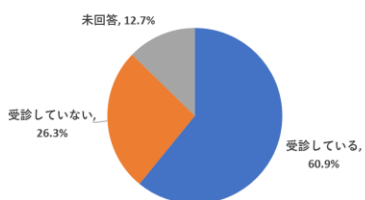
年齢区分別では、年代が若いほど歯科健診の受診率が高かった。(図16-2)

障害の種別では、精神障害者で歯科健診の受診率が低かった。(図16-3)

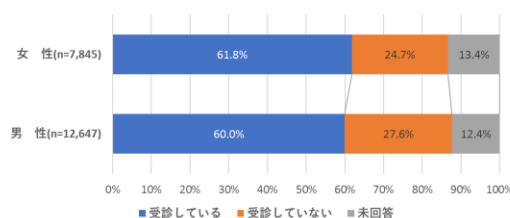
所属事業所の種別では、入院施設で受診率が高く、通所施設のみ、利用していないの順で低くなった。(図16-4)

一般就労の有無では、働いている者の方が働いていない者よりも健診の受診率が低かった。(図16-5) 歯科診療所への通院と同じく、一般就労している場合、時間的理由により健診受診が難しいことが要因の一つと考えられる。

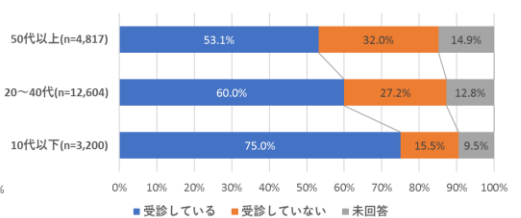
(図16) 歯科健診の受診状況



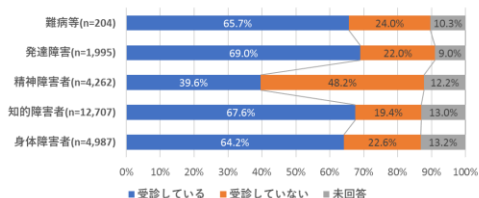
(図16-1) 歯科健診の受診状況 (男女別)



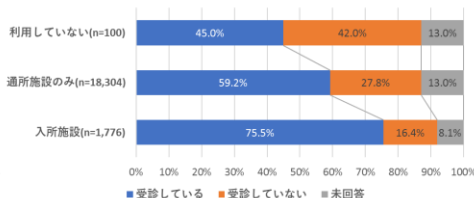
(図16-2) 歯科健診の受診状況 (年齢区分別)



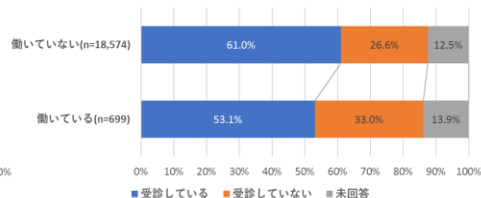
(図16-3) 歯科健診の受診状況(障害の種別)



(図16-4) 歯科健診の受診状況(所属事業所の種別)



(図16-5) 歯科健診の受診状況(一般就労の有無)



(表12) 歯科健診の受診状況

		総数	受診している	受診していない	未回答
総数		(n=21,819)	13,290 (60.9%)	5,749 (26.3%)	2,780 (12.7%)
性別	男性	(n=12,647)	7,587 (60.0%)	3,494 (27.6%)	1,566 (12.4%)
	女性	(n=7,845)	4,852 (61.8%)	1,941 (24.7%)	1,052 (13.4%)
年齢区分	10代以下	(n=3,200)	2,401 (75.0%)	496 (15.5%)	303 (9.5%)
	20~40代	(n=12,604)	7,561 (60.0%)	3,432 (27.2%)	1,611 (12.8%)
	50代以上	(n=4,817)	2,559 (53.1%)	1,541 (32.0%)	717 (14.9%)
障害の種別	身体障害者	(n=4,987)	3,201 (64.2%)	1,129 (22.6%)	657 (13.2%)
	知的障害者	(n=12,707)	8,586 (67.6%)	2,467 (19.4%)	1,654 (13.0%)
	精神障害者	(n=4,262)	1,686 (39.6%)	2,055 (48.2%)	521 (12.2%)
	発達障害	(n=1,995)	1,377 (69.0%)	439 (22.0%)	179 (9.0%)
	難病等	(n=204)	134 (65.7%)	49 (24.0%)	21 (10.3%)
所属事業所	入所施設	(n=1,776)	1,341 (75.5%)	291 (16.4%)	144 (8.1%)
	通所施設のみ	(n=18,304)	10,841 (59.2%)	5,082 (27.8%)	2,381 (13.0%)
	利用していない	(n=100)	45 (45.0%)	42 (42.0%)	13 (13.0%)
一般就労しているか	働いている	(n=699)	371 (53.1%)	231 (33.0%)	97 (13.9%)
	働いていない	(n=18,574)	11,322 (61.0%)	4,932 (26.6%)	2,317 (12.5%)
歯科診療所への通院状況	歯科診療所などに通っている*1	(n=14,782)	10,823 (73.2%)	2,156 (14.6%)	1,803 (12.2%)
	訪問歯科診療を受けている*1	(n=2,322)	1,793 (77.2%)	310 (13.4%)	219 (9.4%)
	重複回答	(n=1,143)	865 (75.7%)	134 (11.7%)	144 (12.6%)
	通っていない	(n=5,858)	1,539 (26.3%)	3,417 (58.3%)	902 (15.4%)

*1: 重複回答1,143件を含む

● 受診している場合

(ケ) 受診している回数

表12-1に受診している回数を示す。年に1回以上が71.5%を占め、次いで月に1回以上が16.0%、数年に1回は7.5%であった。

(表12-1) 受診している回数

総数(n=13,290)	
数年に1回	994 (7.5%)
年に1回以上	9,496 (71.5%)
月に1回以上	2,126 (16.0%)

(コ) なぜ受診しているのか

表13になぜ歯科健診を受診しているのかを示す。個人的に受診しているが最も多く、次いで利用している施設で実施が39.3%であった。区市町村からの案内で歯科健診を受診しているのは6.3%であった。(図17)

男女別では、傾向に大きな違いを認めなかったものの、男性で女性より利用している施設で実施が多く、個人的に受診が少なかった。(図17-1)

年齢区分別では、20~40代で個人的に受診が多かった。10代以下ではそれ以外の年齢区分より区市町村からの案内が多かった。(図17-2)

障害の種別では、精神障害者で利用施設で実施が少なく、個人的に受診が多かった。身体障害者と知的障害者では区市町村からの紹介が少なかった。(図17-3)

所属事業所の種別では、入所施設で利用している施設で実施が多く、通所施設のみ、利用していないでは個人的に受診が多かった。(図17-4)

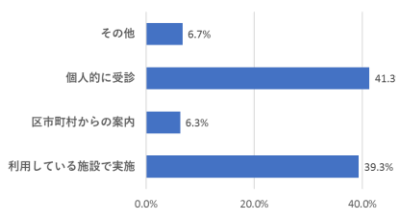
一般就労の有無では、働いていない者では個人的に受診と利用している施設で実施が同程度であったが、働いている者では個人的に受診が多かった。(図17-5)

(表13) なぜ受診しているのか

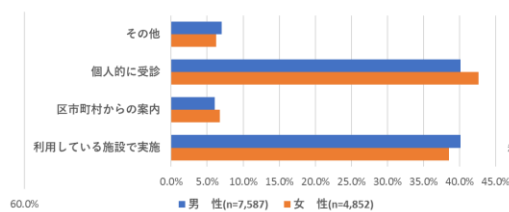
		利用している施設で実施	区市町村からの案内	個人的に	その他
総数	(n=13,290)	5,228 (39.3%)	840 (6.3%)	5,486 (41.3%)	896 (6.7%)
性別	男性 (n=7,587)	3,041 (40.1%)	459 (6.0%)	3,044 (40.1%)	531 (7.0%)
	女性 (n=4,852)	1,869 (38.5%)	328 (6.8%)	2,068 (42.6%)	303 (6.2%)
年齢区分	10代以下 (n=2,401)	864 (36.0%)	284 (11.8%)	873 (36.4%)	291 (12.1%)
	20～40代 (n=7,561)	3,059 (40.5%)	315 (4.2%)	3,367 (44.5%)	405 (5.4%)
	50代以上 (n=2,559)	1,041 (40.7%)	188 (7.3%)	893 (34.9%)	138 (5.4%)
障害の種別	身体障害者 (n=3,201)	1,381 (43.1%)	145 (4.5%)	1,280 (40.0%)	176 (5.5%)
	知的障害者 (n=8,586)	3,846 (44.8%)	293 (3.4%)	3,428 (39.9%)	510 (5.9%)
	精神障害者 (n=1,686)	350 (20.8%)	195 (11.6%)	860 (51.0%)	129 (7.7%)
	発達障害 (n=1,377)	467 (33.9%)	176 (12.8%)	520 (37.8%)	158 (11.5%)
	難病等 (n=134)	59 (44.0%)	12 (9.0%)	47 (35.1%)	7 (5.2%)
所属事業所	入所施設 (n=1,341)	997 (74.3%)	25 (1.9%)	99 (7.4%)	121 (9.0%)
	通所施設のみ (n=10,841)	3,832 (35.3%)	749 (6.9%)	4,932 (45.5%)	685 (6.3%)
	利用していない (n=45)	8 (17.8%)	2 (4.4%)	24 (53.3%)	4 (8.9%)
一般就労しているか	働いている (n=371)	108 (29.1%)	34 (9.2%)	142 (38.3%)	23 (6.2%)
	働いていない (n=11,322)	4,525 (40.0%)	702 (6.2%)	4,682 (41.4%)	757 (6.7%)
歯科診療所への通院状況	歯科診療所などに通っている*2 (n=10,823)	3,624 (33.5%)	624 (5.8%)	5,216 (48.2%)	758 (7.0%)
	訪問歯科診療を受けている*2 (n=1,793)	1,037 (57.8%)	68 (3.8%)	430 (24.0%)	75 (4.2%)
	重複回答 (n=865)	311 (36.0%)	65 (7.5%)	354 (40.9%)	51 (5.9%)
	通っていない (n=1,539)	878 (57.1%)	213 (13.8%)	194 (12.6%)	114 (7.4%)

*2：重複回答865件を含む

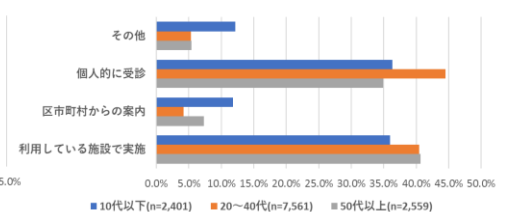
(図17) 歯科健診をなぜ受けているのか



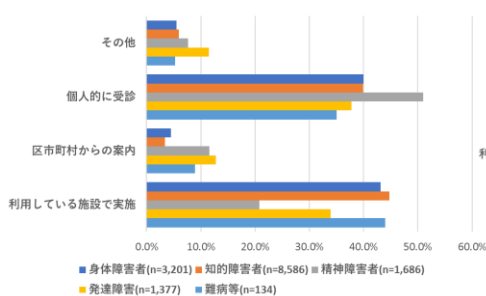
(図17-1) 歯科健診をなぜ受けているのか (男女別)



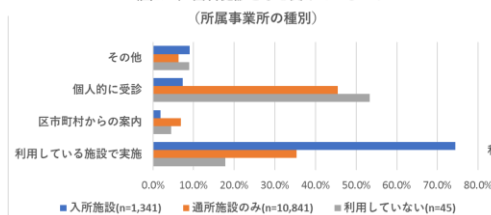
(図17-2) 歯科健診をなぜ受けているのか (年齢区分別)



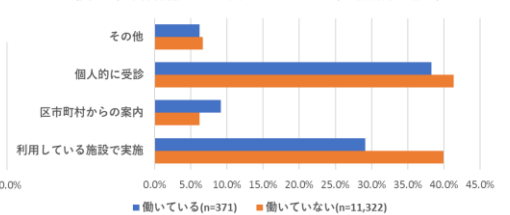
(図17-3) 歯科健診をなぜ受けているのか (障害の種別)



(図17-4) 歯科健診をなぜ受けているのか (所属事業所の種別)



(図17-5) 歯科健診をなぜ受けているのか (一般就労の有無)



● 受診していない場合

(サ) なぜ受診していないのか

表14に歯科健診を受けていない者がなぜ受診していないかを示す。必要ないからが43.1%で最も多かった。(図18)

男女別では、必要ないから、めんどうだからが、女性より男性が多く、1人で行けないから、施設で実施していないからは女性が多かった。(図18-1)

年代が上がるにつれ必要ないからが増え、めんどうだからは20～40代が多かった。年代が低いほど、その他の理由が多かった。(図18-2)

障害の種別では、精神障害者で必要ないから、めんどうだからが多く、1人で行けないからが少なかった。難病等では必要ないからが少なく、身体障害者、知的障害者、難病等ではめんどうだからが少なかった。(図18-3)

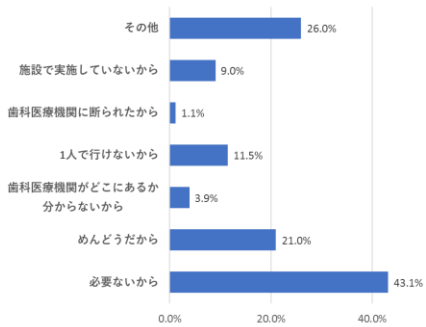
所属事業所の種別では、利用していない者で必要ないから、めんどうだからが多く、入所施設ではめんどうだから、歯科医療機関がどこにあるかわからないからが少なかった。(図18-4) 必要ないからについては、歯科診療所へ通っていない理由と傾向を異にした。事業所での歯科健診の実施が影響している可能性が考えられる。

一般就労の有無では、働いている者は働いていない者に比べ、必要ないから、めんどうだからが多く、1人で行けないからが少なかった。(図18-5) 概ね歯科診療所へ通っていない理由と同様の傾向を示した。

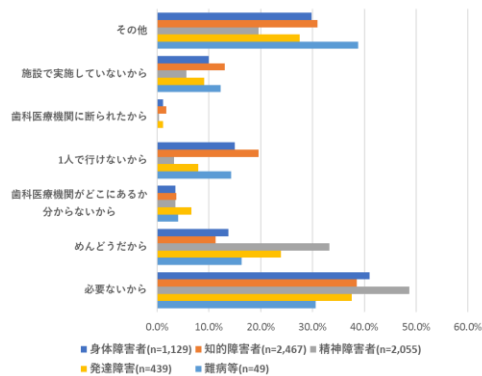
(表14) なぜ受診してないのか

総数	(n=5,749)	必要ないから 2,479 (43.1%)	めんどうだから 1,207 (21.0%)	歯科医療機関が 223 (3.9%)	1人で行けないから 659 (11.5%)	歯科医療機関に 66 (1.1%)	施設で実施して 520 (9.0%)	その他 1,493 (26.0%)
性別	男性 (n=3,494)	1,612 (46.1%)	769 (22.0%)	134 (3.8%)	372 (10.6%)	31 (0.9%)	294 (8.4%)	835 (23.9%)
	女性 (n=1,941)	749 (38.6%)	388 (20.0%)	70 (3.6%)	245 (12.6%)	23 (1.2%)	192 (9.9%)	566 (29.2%)
年齢区分	10代以下 (n=496)	170 (34.3%)	54 (10.9%)	22 (4.4%)	55 (11.1%)	7 (1.4%)	26 (5.2%)	208 (41.9%)
	20~40代 (n=3,432)	1,433 (41.8%)	784 (22.8%)	135 (3.9%)	422 (12.3%)	36 (1.0%)	322 (9.4%)	877 (25.6%)
	50代以上 (n=1,541)	776 (50.4%)	324 (21.0%)	46 (3.0%)	145 (9.4%)	12 (0.8%)	140 (9.1%)	322 (20.9%)
障害の種別	身体障害者 (n=1,129)	463 (41.0%)	156 (13.8%)	40 (3.5%)	169 (15.0%)	13 (1.2%)	113 (10.0%)	337 (29.8%)
	知的障害者 (n=2,467)	950 (38.5%)	279 (11.3%)	92 (3.7%)	483 (19.6%)	44 (1.8%)	323 (13.1%)	763 (30.9%)
	精神障害者 (n=2,055)	1,001 (48.7%)	684 (33.3%)	73 (3.6%)	67 (3.3%)	7 (0.3%)	116 (5.6%)	402 (19.6%)
	発達障害 (n=439)	165 (37.6%)	105 (23.9%)	29 (6.6%)	35 (8.0%)	5 (1.1%)	40 (9.1%)	121 (27.6%)
	難病等 (n=49)	15 (30.6%)	8 (16.3%)	2 (4.1%)	7 (14.3%)	0 (0.0%)	6 (12.2%)	19 (38.8%)
所属事業所	入所施設 (n=291)	130 (44.7%)	4 (1.4%)	1 (0.3%)	45 (15.5%)	1 (0.3%)	107 (36.8%)	74 (25.4%)
	通所施設のみ (n=5,82)	2,196 (43.2%)	1,128 (22.2%)	202 (4.0%)	565 (11.1%)	55 (1.1%)	382 (7.5%)	1,317 (25.9%)
	利用していない (n=42)	20 (47.6%)	16 (38.1%)	2 (4.8%)	5 (11.9%)	0 (0.0%)	3 (7.1%)	3 (7.1%)
一般就労しているか	働いている (n=231)	125 (54.1%)	67 (29.0%)	9 (3.9%)	12 (5.2%)	0 (0.0%)	13 (5.6%)	43 (18.6%)
	働いていない (n=4,932)	2,102 (42.6%)	1,025 (20.8%)	190 (3.9%)	582 (11.8%)	54 (1.1%)	451 (9.1%)	1,294 (26.2%)

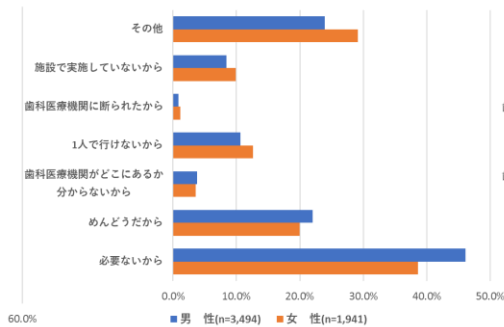
(図18) 歯科健診を受けない理由



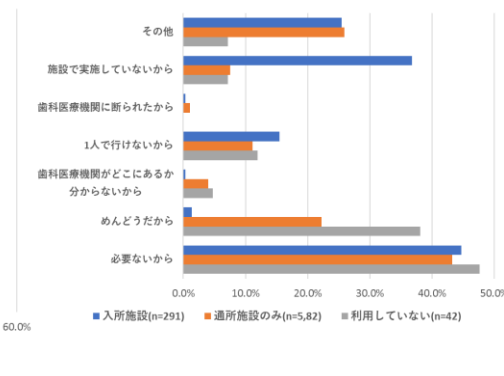
(図18-3) 歯科健診を受けない理由 (障害の種別)



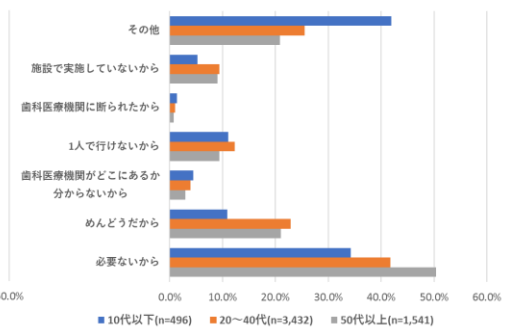
(図18-1) 歯科健診を受けない理由 (男女別)



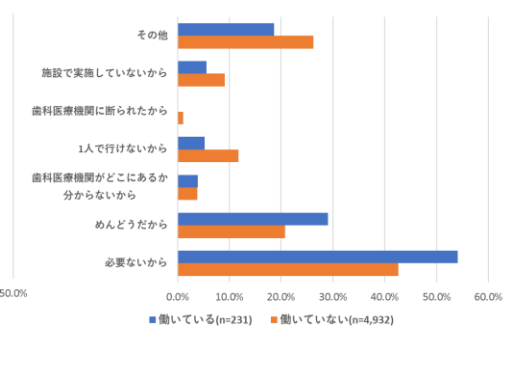
(図18-4) 歯科健診を受けない理由 (所属事業所の種別)



(図18-2) 歯科健診を受けない理由 (年齢区分別)



(図18-5) 歯科健診を受けない理由 (一般就労の有無)



4 かかりつけの歯科医を決めているか

表15にかかりつけ歯科医を決めているかを示す。決めているが75.5%、決めていないが16.3%であった。(図19)

男女別では、男性の方がかかりつけ歯科医を決めている割合が低かった。(図19-1)

年齢区分別では、50代以上でかかりつけ歯科医を決めている割合が低かった。(図19-2)

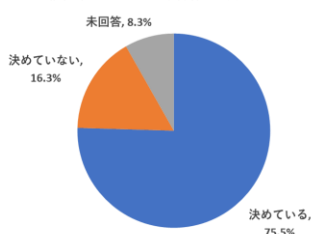
障害の種別では、知的障害者が78.7%かかりつけ歯科医を決めている割合が最も高く、最も低い精神障害者でも70.6%と7割以上を占めた。(図19-3)

所属事業所の種別では、通所施設でかかりつけ歯科医を決めている割合が高かった。利用していない者で決めている割合が高かった。(図19-4)

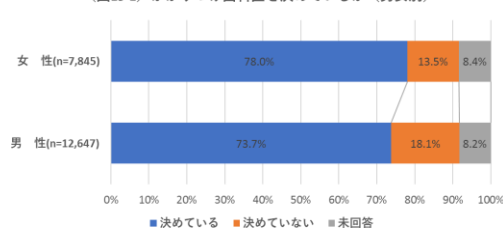
一般就労の有無では、働いているものの方がかかりつけ歯科医を決めている割合が低かった。(図19-5)

歯科診療所などへの通院の状況と比較すると、通院している者はかかりつけ歯科医を決めている者が9割程度であるが、訪問歯科診療のみでは74.8%とやや減少し、通っていない者では36.9%と低い結果であった。(図19-6)

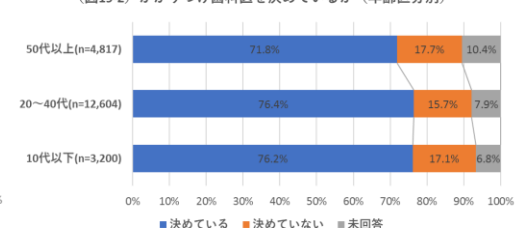
(図19) かかりつけ歯科医を決めているか



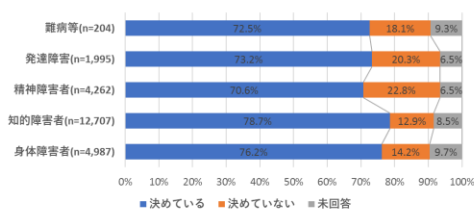
(図19-1) かかりつけ歯科医を決めているか (男女別)



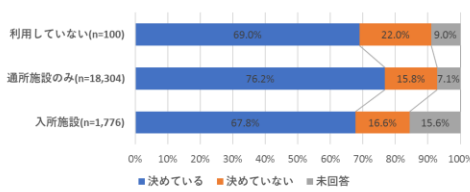
(図19-2) かかりつけ歯科医を決めているか (年齢区分別)



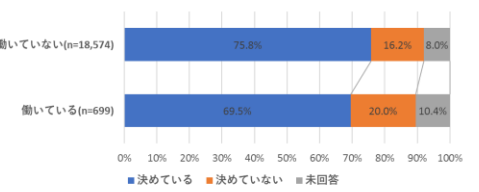
(図19-3) かかりつけ歯科医を決めているか (障害の種別)



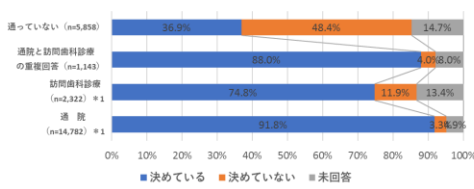
(図19-4) かかりつけ歯科医を決めているか (所属事業所の種別)



(図19-5) かかりつけ歯科医を決めているか (一般就労の有無)



(図19-6) かかりつけ歯科医を決めているか (通院の状況別)



(表15) かかりつけ歯科医を決めているか

			決めている	決めている	決めている	決めている
			(n=21,819)	(75.5%)	(16.3%)	(8.3%)
総数			16,466	3,549	1,804	
性別	男性	(n=12,647)	9,324 (73.7%)	2,283 (18.1%)	1,040 (8.2%)	
	女性	(n=7,845)	6,123 (78.0%)	1,060 (13.5%)	662 (8.4%)	
年齢区分	10代以下	(n=3,200)	2,437 (76.2%)	546 (17.1%)	217 (6.8%)	
	20~40代	(n=12,604)	9,628 (76.4%)	1,983 (15.7%)	993 (7.9%)	
	50代以上	(n=4,817)	3,461 (71.8%)	853 (17.7%)	503 (10.4%)	
障害の種別	身体障害者	(n=4,987)	3,798 (76.2%)	707 (14.2%)	482 (9.7%)	
	知的障害者	(n=12,707)	9,997 (78.7%)	1,636 (12.9%)	1,074 (8.5%)	
	精神障害者	(n=4,262)	3,011 (70.6%)	972 (22.8%)	279 (6.5%)	
	発達障害	(n=1,995)	1,461 (73.2%)	405 (20.3%)	129 (6.5%)	
	難病等	(n=204)	148 (72.5%)	37 (18.1%)	19 (9.3%)	
所属事業所	入所施設	(n=1,776)	1,204 (67.8%)	295 (16.6%)	277 (15.6%)	
	通所施設のみ	(n=18,304)	13,939 (76.2%)	3,009 (15.8%)	1,356 (7.1%)	
	利用していない	(n=100)	69 (69.0%)	22 (22.0%)	9 (9.0%)	
一般就労しているか	働いている	(n=699)	486 (69.5%)	140 (20.0%)	73 (10.4%)	
	働いていない	(n=18,574)	14,083 (75.8%)	3,003 (16.2%)	1,485 (8.0%)	
歯科診療所への通院状況	歯科診療所などに通っている*1	(n=14,782)	13,576 (91.8%)	484 (3.3%)	722 (4.9%)	
	訪問歯科診療を受けている*1	(n=2,322)	1,736 (74.8%)	276 (11.9%)	310 (13.4%)	
	重複回答	(n=1,143)	1,006 (88.0%)	46 (4.0%)	91 (8.0%)	
	通っていない	(n=5,858)	2,160 (36.9%)	2,835 (48.4%)	863 (14.7%)	

*1: 重複回答865件を含む

表16にかかりつけの歯科医を決めているのに、受診・訪問歯科診療も健診も受けていない者を示す。かかりつけの歯科医を決めているのに、受診・訪問歯科診療も健診も受けていないのは7.5%であった。

男女別では、ほとんど差は認められなかった。(図20-1)

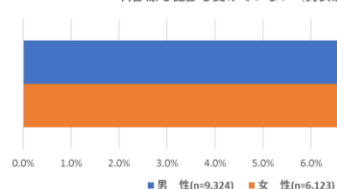
年齢区分別では、年代が上がるにつれ割合が高くなった。(図20-2)

障害の種別では、精神障害者でかかりつけの歯科医を決めているのに、受診・訪問歯科診療も健診も受けていない割合が高かった。(図20-3)

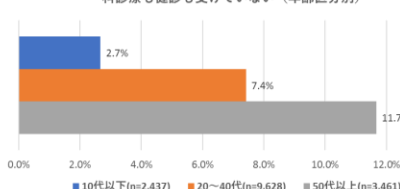
所属事業所の種別では、入院施設ではかかりつけの歯科医を決めているのに、受診・訪問歯科診療も健診も受けていない割合が低かった。(図20-4)

一般就労の有無では、働いている者の方が働いていない者よりもかかりつけの歯科医を決めているのに、受診・訪問歯科診療も健診も受けていない割合が高かった。(図20-5)

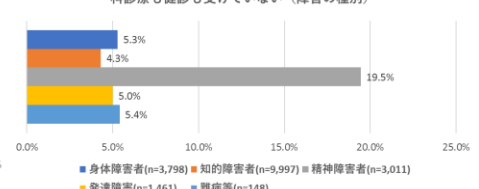
(図20-1) かかりつけ歯科医を決めているのに、通院・訪問歯科診療も健診も受けていない (男女別)



(図20-2) かかりつけ歯科医を決めているのに、通院・訪問歯科診療も健診も受けていない (年齢区分別)



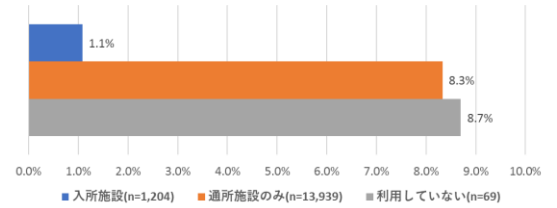
(図20-3) かかりつけ歯科医を決めているのに、通院・訪問歯科診療も健診も受けていない (障害の種別)



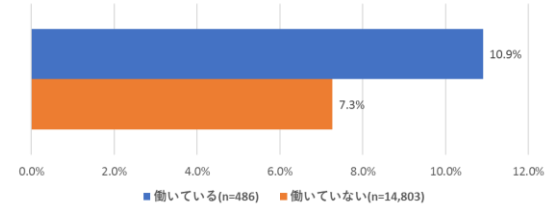
(表16) かかりつけ歯科医を決めているのに、通院・訪問歯科診療も健診も受けていない

総数	(n=16,466)	1,234	(7.5%)
性別	男性	(n=9,324)	747 (8.0%)
	女性	(n=6,123)	430 (7.0%)
年齢区分	10代以下	(n=2,437)	65 (2.7%)
	20～40代	(n=9,628)	714 (7.4%)
	50代以上	(n=3,461)	404 (11.7%)
障害の種別	身体障害者	(n=3,798)	201 (5.3%)
	知的障害者	(n=9,997)	431 (4.3%)
	精神障害者	(n=3,011)	586 (19.5%)
	発達障害	(n=1,461)	73 (5.0%)
	難病等(n=148)	8 (5.4%)
	所属事業所	入所施設	(n=1,204)
	通所施設のみ	(n=13,939)	1,161 (8.3%)
	利用していない	(n=69)	6 (8.7%)
一般就労しているか	働いている	(n=486)	53 (10.9%)
	働いていない	(n=14,803)	1,076 (7.3%)

(図20-4) かかりつけ歯科医を決めているのに、通院・訪問歯科診療も健診も受けていない (所属事業所の種別)



(図20-5) かかりつけ歯科医を決めているのに、通院・訪問歯科診療も健診も受けていない (一般就労の有無)



● かかりつけ歯科医を決めている場合

(シ) どの歯科医療機関に通っていますか (複数回答可)

表17にかかりつけ歯科医を決めている場合、どの歯科医療機関に通っているかを示す。

家の近くの歯科診療所が52.0%で最も多かった。(図21)

男女別では、男女別では傾向に差を認めなかった。(図21-1)

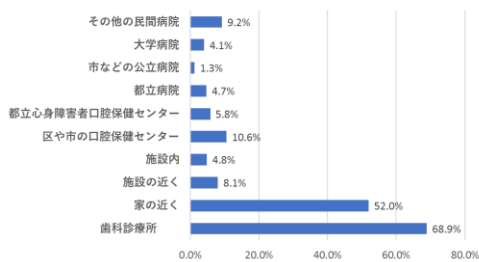
年齢区分別では、20～40代で家の近くの歯科診療所の割合が減少し、区や市の口腔保健センターと都立心身障害者口腔保健センターの割合が増加した。50代以上では施設の近くの診療所の割合が増加した。(図21-2)

障害の種別では、精神障害者と発達障害で家の近くの歯科診療所の割合が高く、身体障害者と知的障害者で区や市の口腔保健センター、都立心身障害者口腔保健センター、都立病院の割合が増加した。難病等では都立病院と大学病院の割合が高かった。(図21-3) 障害種別によって専門医療機関の受診に違いがある状況が示唆された。

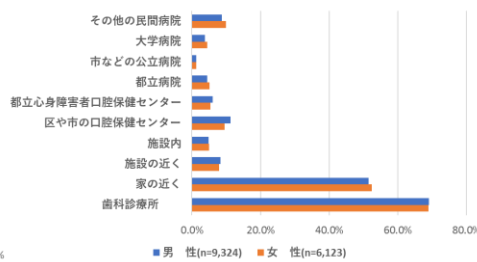
所属事業所の種別では、通所施設のみと利用していない者で家の近くの歯科診療所が多く、入所施設では施設内、施設の近くの歯科診療所が多かった。(図21-4)

一般就労の有無では、働いている者で家の近く、施設の近くの歯科診療所の割合が高かった。(図21-5)

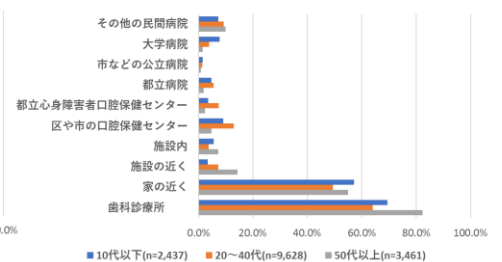
(図21) かかりつけ歯科医の歯科医療機関



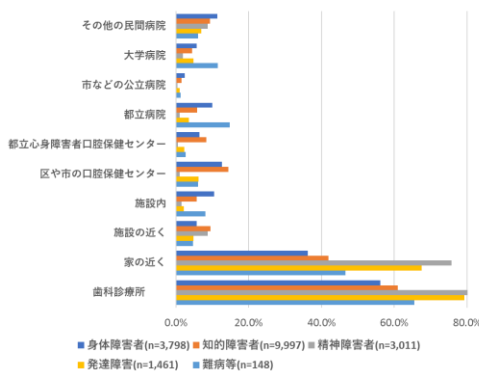
(図21-1) かかりつけ歯科医の歯科医療機関 (男女別)



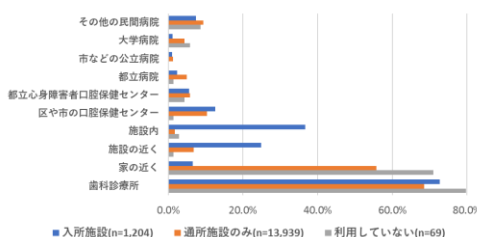
(図21-2) かかりつけ歯科医の歯科医療機関 (年齢区分別)



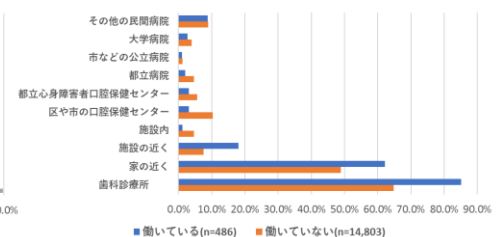
(図21-3) かかりつけ歯科医の歯科医療機関 (障害の種別)



(図21-4) かかりつけ歯科医の歯科医療機関 (所属事業所の種別)



(図21-5) かかりつけ歯科医の歯科医療機関 (一般就労の有無)



(表17) どの歯科医療機関に通っていますか (複数回答可)

		歯科診療所					
		家の近く		施設の近く		施設内	
総数	(n=16,466)	11,338 (68.9%)	8,559 (52.0%)	1,331 (8.1%)	790 (4.8%)		
性別	男性 (n=9,324)	6,433 (69.0%)	4,801 (51.5%)	780 (8.4%)	452 (4.8%)		
	女性 (n=6,123)	4,222 (69.0%)	3,211 (52.4%)	485 (7.9%)	305 (5.0%)		
年齢区分	10代以下 (n=2,437)	1,693 (69.5%)	1,395 (57.2%)	85 (3.5%)	137 (5.6%)		
	20~40代 (n=9,628)	6,174 (64.1%)	4,759 (49.4%)	697 (7.2%)	365 (3.8%)		
	50代以上 (n=3,461)	2,854 (82.5%)	1,904 (55.0%)	499 (14.4%)	254 (7.3%)		
障害の種別	身体障害者 (n=3,798)	2,136 (56.2%)	1,377 (36.3%)	220 (5.8%)	402 (10.6%)		
	知的障害者 (n=9,997)	6,093 (60.9%)	4,187 (41.9%)	947 (9.5%)	572 (5.7%)		
	精神障害者 (n=3,011)	2,711 (90.0%)	2,279 (75.7%)	263 (8.7%)	48 (1.6%)		
	発達障害 (n=1,461)	1,158 (79.3%)	986 (67.5%)	71 (4.9%)	33 (2.3%)		
	難病等 (n=148)	97 (65.5%)	69 (46.6%)	7 (4.7%)	12 (8.1%)		
所属事業所	入所施設 (n=1,204)	875 (72.7%)	79 (6.6%)	300 (24.9%)	441 (36.6%)		
	通所施設のみ (n=13,939)	9,549 (68.5%)	7,774 (55.8%)	958 (6.9%)	254 (1.8%)		
	利用していない (n=69)	55 (79.7%)	49 (71.0%)	1 (1.4%)	2 (2.9%)		
一般就労しているか	働いている (n=486)	414 (85.2%)	302 (62.1%)	88 (18.1%)	6 (1.2%)		
	働いていない (n=14,803)	9,589 (64.8%)	7,235 (48.9%)	1,113 (7.5%)	684 (4.6%)		

		上記歯科診療所以外						
		区や市の口腔保健センター	都立口腔保健センター	都立病院	市などの公立病院	大学病院	その他の民間病院	
総数	(n=16,466)	5,873 (35.7%)	1,740 (10.6%)	961 (5.8%)	771 (4.7%)	212 (1.3%)	667 (4.1%)	1,522 (9.2%)
性別	男性 (n=9,324)	3,308 (35.5%)	1,047 (11.2%)	562 (6.0%)	414 (4.4%)	121 (1.3%)	350 (3.8%)	814 (8.7%)
	女性 (n=6,123)	2,187 (35.7%)	586 (9.6%)	333 (5.4%)	312 (5.1%)	76 (1.2%)	274 (4.5%)	606 (9.9%)
年齢区分	10代以下 (n=2,437)	837 (34.3%)	224 (9.2%)	89 (3.7%)	116 (4.8%)	40 (1.6%)	189 (7.8%)	179 (7.3%)
	20~40代 (n=9,628)	3,923 (40.7%)	1,252 (13.0%)	722 (7.5%)	544 (5.7%)	130 (1.4%)	378 (3.9%)	897 (9.3%)
	50代以上 (n=3,461)	750 (21.7%)	163 (4.7%)	85 (2.5%)	68 (2.0%)	29 (0.8%)	57 (1.6%)	348 (10.1%)
障害の種別	身体障害者 (n=3,798)	1,851 (48.7%)	480 (12.6%)	246 (6.5%)	382 (10.1%)	93 (2.4%)	217 (5.7%)	433 (11.4%)
	知的障害者 (n=9,997)	4,401 (44.0%)	1,442 (14.4%)	833 (8.3%)	590 (5.9%)	152 (1.5%)	447 (4.5%)	937 (9.4%)
	精神障害者 (n=3,011)	416 (13.8%)	33 (1.1%)	17 (0.6%)	33 (1.1%)	12 (0.4%)	57 (1.9%)	264 (8.8%)
	発達障害 (n=1,461)	366 (25.1%)	91 (6.2%)	34 (2.3%)	53 (3.6%)	15 (1.0%)	70 (4.8%)	103 (7.0%)
	難病等 (n=148)	63 (42.6%)	9 (6.1%)	4 (2.7%)	22 (14.9%)	2 (1.4%)	17 (11.5%)	9 (6.1%)
所属事業所	入所施設 (n=1,204)	365 (30.3%)	152 (12.6%)	68 (5.6%)	29 (2.4%)	13 (1.1%)	14 (1.2%)	89 (7.4%)
	通所施設のみ (n=13,939)	5,046 (36.2%)	1,450 (10.4%)	821 (5.9%)	686 (4.9%)	184 (1.3%)	600 (4.3%)	1,305 (9.4%)
	利用していない (n=69)	15 (21.7%)	1 (1.4%)	3 (4.3%)	1 (1.4%)	0 (0.0%)	4 (5.8%)	6 (8.7%)
一般就労しているか	働いている (n=486)	101 (20.8%)	15 (3.1%)	15 (3.1%)	10 (2.1%)	5 (1.0%)	13 (2.7%)	43 (8.8%)
	働いていない (n=14,803)	5,128 (34.6%)	1,521 (10.3%)	838 (5.7%)	690 (4.7%)	183 (1.2%)	583 (3.9%)	1,313 (8.9%)

(ス) なぜ、そこに決めているのか (複数回答可)

表18にかかりつけ歯科医を決めている場合、なぜ、そこに決めているのかを示す。スタッフが優しく丁寧が62.2%と最も多かった。医療機関については29.1%で、バリアフリーは9.1%であった。(図22)

男女別では、男女別では、傾向に大きな違いを認めなかった。(図22-1)

年齢区分別では、50代以上でスタッフについて、歯科医療機関についてが他の年齢区分より低く、家や施設から近いが高かった。(図22-2) 年齢が高くなると、様々な事情から近所での通院を重要視していることがうかがわれた。

障害の種別では、通院している歯科医療機関と同じく、身体障害者や難病等でバリアフリーが多かった。(図22-3)

所属事業所の種別では、利用していない者で家族が通っている、家や施設から近いが多く、通所施設のみでスタッフが優しく丁寧、歯科医療機関の設備が整っているが多かった。(図22-4)

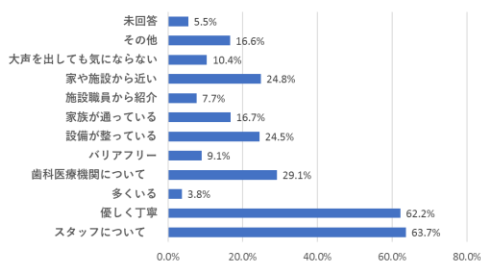
一般就労の有無では、働いていない者でスタッフについて、歯科医療機関についてが多く、働いている者は家族が通っている、施設職員から紹介、家や施設から近いが多かった。(図22-5)

(表18) なぜ、そこに決めているのか (複数回答可)

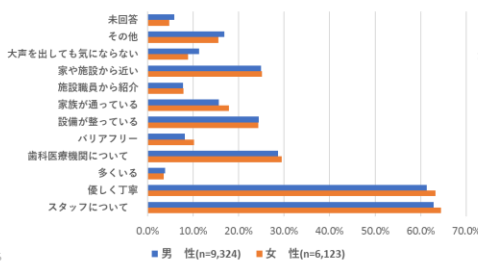
		スタッフについて				歯科医療機関について			
		優しく丁寧		多くいる		バリアフリー		設備が整っている	
総数	(n=16,466)	10,481 (63.7%)	10,247 (62.2%)	620 (3.8%)	4,798 (29.1%)	1,492 (9.1%)	4,035 (24.5%)		
性別	男性 (n=9,324)	5,857 (62.8%)	5,716 (61.3%)	365 (3.9%)	2,674 (28.7%)	762 (8.2%)	2,277 (24.4%)		
	女性 (n=6,123)	3,949 (64.5%)	3,870 (63.2%)	220 (3.6%)	1,806 (29.5%)	626 (10.2%)	1,491 (24.4%)		
年齢区分	10代以下 (n=2,437)	1,541 (63.2%)	1,525 (62.6%)	75 (3.1%)	722 (29.6%)	233 (9.6%)	606 (24.9%)		
	20~40代 (n=9,628)	6,359 (66.0%)	6,205 (64.4%)	419 (4.4%)	2,998 (31.1%)	950 (9.9%)	2,529 (26.3%)		
	50代以上 (n=3,461)	1,948 (56.3%)	1,891 (54.6%)	102 (2.9%)	777 (22.5%)	208 (6.0%)	651 (18.8%)		
障害の種別	身体障害者 (n=3,798)	2,332 (61.4%)	2,280 (60.0%)	157 (4.1%)	1,554 (40.9%)	959 (25.3%)	1,053 (27.7%)		
	知的障害者 (n=9,997)	6,530 (65.3%)	6,385 (63.9%)	447 (4.5%)	3,022 (30.2%)	993 (9.9%)	2,558 (25.6%)		
	精神障害者 (n=3,011)	1,852 (61.5%)	1,796 (59.6%)	97 (3.2%)	746 (24.8%)	55 (1.8%)	706 (23.4%)		
	発達障害 (n=1,461)	927 (63.4%)	917 (62.8%)	26 (1.8%)	329 (22.5%)	57 (3.9%)	298 (20.4%)		
	難病等 (n=148)	84 (56.8%)	83 (56.1%)	7 (4.7%)	55 (37.2%)	24 (16.2%)	43 (29.1%)		
所属事業所	入所施設 (n=1,204)	529 (43.9%)	495 (41.1%)	63 (5.2%)	263 (21.8%)	111 (9.2%)	235 (19.5%)		
	通所施設のみ (n=13,939)	9,097 (65.3%)	8,907 (63.9%)	521 (3.7%)	4,135 (29.7%)	1,252 (9.0%)	3,465 (24.9%)		
	利用していない (n=69)	37 (53.6%)	37 (53.6%)	1 (1.4%)	18 (26.1%)	3 (4.3%)	16 (23.2%)		
一般就労しているか	働いている (n=486)	275 (56.6%)	264 (54.3%)	14 (2.9%)	108 (22.2%)	19 (3.9%)	93 (19.1%)		
	働いていない (n=14,803)	8,973 (60.6%)	8,764 (59.2%)	554 (3.7%)	4,156 (28.1%)	1,312 (8.9%)	3,490 (23.6%)		

		家族が通っている	施設職員から紹介された	家や施設から近い	大声を出しても 気にならない	その他	未回答
総数	(n=16,466)	2,753 (16.7%)	1,270 (7.7%)	4,090 (24.8%)	1,714 (10.4%)	2,731 (16.6%)	902 (5.5%)
性別	男性 (n=9,324)	1,460 (15.7%)	723 (7.8%)	2,321 (24.9%)	1,055 (11.3%)	1,574 (16.9%)	553 (5.9%)
	女性 (n=6,123)	1,095 (17.9%)	481 (7.9%)	1,540 (25.2%)	545 (8.9%)	955 (15.6%)	295 (4.8%)
年齢区分	10代以下 (n=2,437)	512 (21.0%)	225 (9.2%)	635 (26.1%)	353 (14.5%)	475 (19.5%)	81 (3.3%)
	20~40代 (n=9,628)	1694 (17.6%)	591 (6.1%)	2,283 (23.7%)	1,149 (11.9%)	1,603 (16.6%)	499 (5.2%)
	50代以上 (n=3,461)	354 (10.2%)	401 (11.6%)	964 (27.9%)	94 (2.7%)	465 (13.4%)	274 (7.9%)
障害の種類	身体障害者 (n=3,798)	397 (10.5%)	344 (9.1%)	732 (19.3%)	421 (11.1%)	770 (20.3%)	257 (6.8%)
	知的障害者 (n=9,997)	1,687 (16.9%)	907 (9.1%)	2,144 (21.4%)	1,424 (14.2%)	1,753 (17.5%)	544 (5.4%)
	精神障害者 (n=3,011)	427 (14.2%)	166 (5.5%)	1,028 (34.1%)	40 (1.3%)	366 (12.2%)	152 (5.0%)
	発達障害 (n=1,461)	325 (22.2%)	90 (6.2%)	462 (31.6%)	174 (11.9%)	276 (18.9%)	50 (3.4%)
	難病等 (n=148)	23 (15.5%)	12 (8.1%)	33 (22.3%)	13 (8.8%)	34 (23.0%)	6 (4.1%)
所属事業所	入所施設 (n=1,204)	22 (1.8%)	242 (20.1%)	250 (20.8%)	134 (11.1%)	221 (18.4%)	150 (12.5%)
	通所施設のみ (n=13,939)	2,487 (17.8%)	941 (6.8%)	3,548 (25.5%)	1,412 (10.1%)	2,269 (16.3%)	663 (4.8%)
	利用していない (n=69)	19 (27.5%)	3 (4.3%)	24 (34.8%)	4 (5.8%)	6 (8.7%)	4 (5.8%)
一般就労しているか	働いている (n=486)	82 (16.9%)	52 (10.7%)	133 (27.4%)	21 (4.3%)	64 (13.2%)	34 (7.0%)
	働いていない (n=14,803)	2315 (15.6%)	1098 (7.4%)	3535 (23.9%)	1474 (10.0%)	2334 (15.8%)	753 (5.1%)

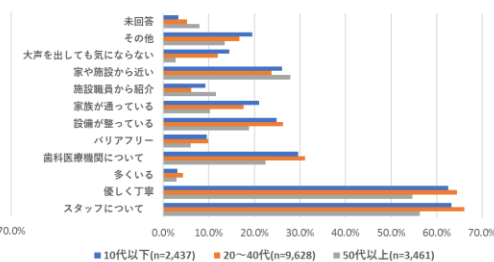
(図22) かかりつけ歯科医に決めた理由



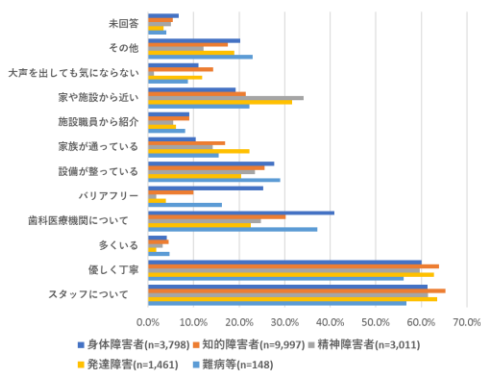
(図22-1) かかりつけ歯科医に決めた理由 (男女別)



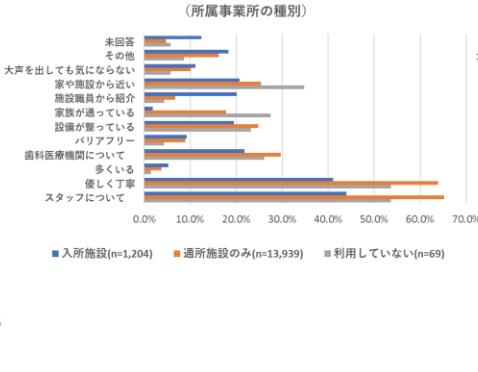
(図22-2) かかりつけ歯科医に決めた理由 (年齢区分別)



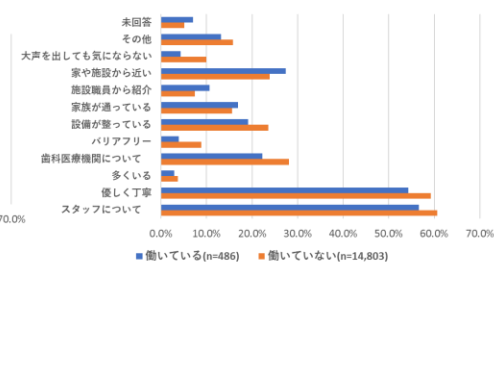
(図22-3) かかりつけ歯科医に決めた理由 (障害の種類別)



(図22-4) かかりつけ歯科医に決めた理由 (所属事業所の種別)



(図22-5) かかりつけ歯科医に決めた理由 (一般就労の有無)



● かかりつけ歯科医を決めていない場合

(セ) なぜ、決めていないのか (複数回答可)

表19にかかりつけ歯科医をなぜ、決めていないのかを示す。決める必要がないが44.6%と半数近くを占め、最も多かった。(図23)

男女別では、男性で決める必要ないが多く、女性では1人で行くことができないが多かった。(図23-1)

年齢区分別では、決める必要ないは年代が上がるにつれ多くなった。(図23-2)

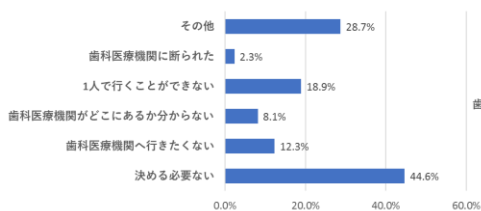
障害の種類別では、精神障害者で決める必要ないが多く、1人で行くことができないが少なかった。発達障害でも1人で行くことができないが少なかった。(図23-3)

所属事業所の種別では、決める必要ないと1人で行くことができないが、入所施設、通所施設のみ、利用していないの順に多かった。(図23-4)

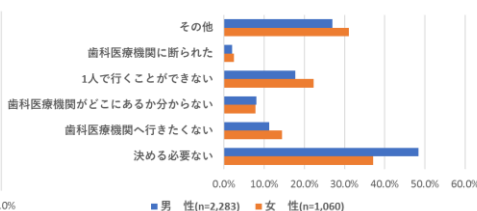
一般就労の有無では、働いている者は決める必要ないが多く、働いていない者では1人で行くことができないが多かった。(図23-5)

自由意見は概ね通院していない理由と同じであったが、それに加えてまだ決めていないという意見が多かった。

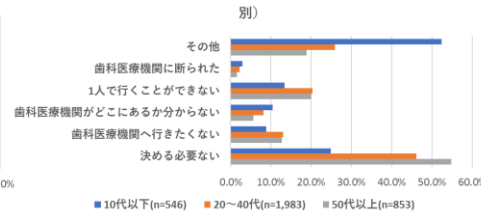
(図23) かかりつけ歯科医を決めていない理由



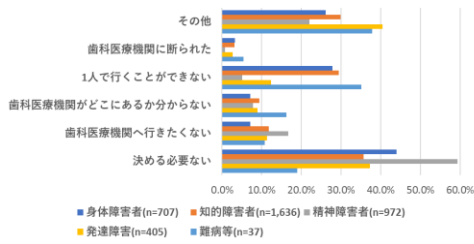
(図23-1) かかりつけ歯科医を決めていない理由 (男女別)



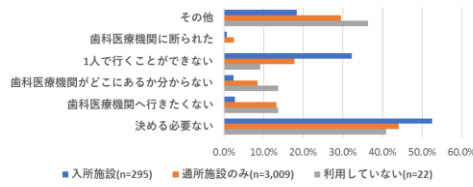
(図23-2) かかりつけ歯科医を決めていない理由 (年齢区分別)



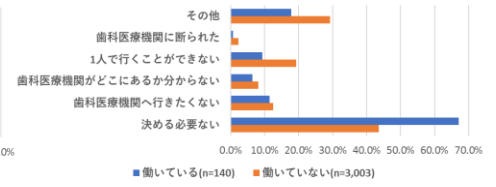
(図23-3) かかりつけ歯科医を決めていない理由
(障害の種別)



(図23-4) かかりつけ歯科医を決めていない理由
(所属事業所の種別)



(図23-5) かかりつけ歯科医を決めていない理由
(一般就労の有無)



(表19) なぜ、決めていないのか(複数回答可)

		決める必要ない		歯科医療機関へ 行きたくない		歯科医療機関がどこに あるか分からない		1人で行くことが できない		歯科医療機関に 断られた		その他	
		(n=3,549)											
総数	(n=3,549)	1,584	(44.6%)	436	(12.3%)	289	(8.1%)	671	(18.9%)	83	(2.3%)	1,017	(28.7%)
性別	男性 (n=2,283)	1,105	(48.4%)	258	(11.3%)	184	(8.1%)	405	(17.7%)	47	(2.1%)	616	(27.0%)
	女性 (n=1,060)	394	(37.2%)	153	(14.4%)	83	(7.8%)	237	(22.4%)	26	(2.5%)	330	(31.1%)
年齢区分	10代以下 (n=546)	136	(24.9%)	48	(8.8%)	57	(10.4%)	73	(13.4%)	16	(2.9%)	286	(52.4%)
	20~40代 (n=1,983)	916	(46.2%)	258	(13.0%)	162	(8.2%)	403	(20.3%)	45	(2.3%)	514	(25.9%)
	50代以上 (n=853)	468	(54.9%)	108	(12.7%)	48	(5.6%)	170	(19.9%)	13	(1.5%)	161	(18.9%)
障害の種別	身体障害者 (n=707)	311	(44.0%)	50	(7.1%)	50	(7.1%)	197	(27.9%)	23	(3.3%)	185	(26.2%)
	知的障害者 (n=1,636)	583	(35.6%)	192	(11.7%)	153	(9.4%)	481	(29.4%)	51	(3.1%)	488	(29.8%)
	精神障害者 (n=972)	577	(59.4%)	162	(16.7%)	76	(7.8%)	49	(5.0%)	7	(0.7%)	214	(22.0%)
	発達障害 (n=405)	151	(37.3%)	46	(11.4%)	36	(8.9%)	50	(12.3%)	11	(2.7%)	164	(40.5%)
	難病等 (n=37)	7	(18.9%)	4	(10.8%)	6	(16.2%)	13	(35.1%)	2	(5.4%)	14	(37.8%)
所属事業所	入所施設 (n=295)	155	(52.5%)	8	(2.7%)	7	(2.4%)	95	(32.2%)	2	(0.7%)	54	(18.3%)
	通所施設のみ (n=3,009)	1,328	(44.1%)	397	(13.2%)	254	(8.4%)	537	(17.8%)	75	(2.5%)	889	(29.5%)
	利用していない (n=22)	9	(40.9%)	3	(13.6%)	3	(13.6%)	2	(9.1%)	0	(0.0%)	8	(36.4%)
一般就労しているか	働いている (n=140)	94	(67.1%)	16	(11.4%)	9	(6.4%)	13	(9.3%)	1	(0.7%)	25	(17.9%)
	働いていない (n=3,003)	1,308	(43.6%)	375	(12.5%)	245	(8.2%)	578	(19.2%)	71	(2.4%)	878	(29.2%)

5 歯や口のことで困ったことがある場合の相談相手(複数回答可)

表20に歯や口のことで困ったことがある場合の相談相手を示す。歯科医療機関の歯科医師が58.6%で最も置く、次いで家族27.6%、施設職員17.5%であった。(図24)

男女別では、傾向に大きな違いを認めなかった。(図24-1)

年齢区分別では、歯科医療機関の歯科医師は年代が上がるにつれ減少し、20~40代で家族が多く、50代以上では施設職員が多かった。(図24-2)

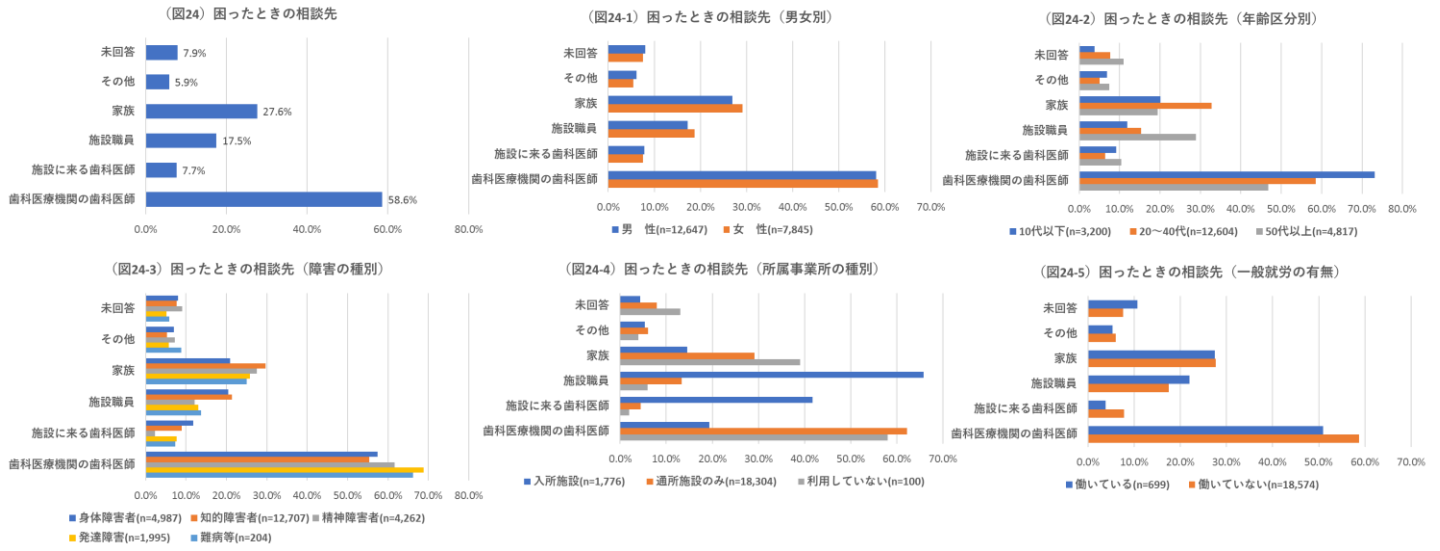
障害の種別では、概ね同様の傾向ではあったが、身体障害者と知的障害者で歯科医療機関の歯科医師が少なく、施設職員が多かった。(図24-3)

所属事業所の種別では、通所施設のみと利用していないで歯科医療機関の歯科医師が多く、入所施設では施設職員と施設に来る歯科医師が多かった。(図24-4)

一般就労の有無では、働いている者は施設職員が、働いていない者は歯科医療機関の歯科医師が多かった。(図24-5)

(表20) 歯や口のことで困ったことがある場合の相談相手(複数回答可)

		歯科医療機関の歯科医師		施設に来る歯科医師		施設職員		家族		その他		未回答	
		(n=21,819)											
総数	(n=21,819)	12,790	(58.6%)	1,677	(7.7%)	3,824	(17.5%)	6,026	(27.6%)	1,282	(5.9%)	1,720	(7.9%)
性別	男性 (n=12,647)	7,349	(58.1%)	993	(7.9%)	2,183	(17.3%)	3,405	(26.9%)	782	(6.2%)	1,015	(8.0%)
	女性 (n=7,845)	4,589	(58.5%)	591	(7.5%)	1,468	(18.7%)	2,286	(29.1%)	430	(5.5%)	589	(7.5%)
年齢区分	10代以下 (n=3,200)	2,342	(73.2%)	293	(9.2%)	379	(11.8%)	643	(20.1%)	219	(6.8%)	122	(3.8%)
	20~40代 (n=12,604)	7,385	(58.6%)	813	(6.5%)	1,928	(15.3%)	4,128	(32.8%)	639	(5.1%)	970	(7.7%)
	50代以上 (n=4,817)	2,252	(46.8%)	501	(10.4%)	1,390	(28.9%)	937	(19.5%)	359	(7.5%)	530	(11.0%)
障害の種別	身体障害者 (n=4,987)	2,863	(57.4%)	590	(11.8%)	1,017	(20.4%)	1,042	(20.9%)	349	(7.0%)	401	(8.0%)
	知的障害者 (n=12,707)	7,030	(55.3%)	1,141	(9.0%)	2,718	(21.4%)	3,777	(29.7%)	665	(5.2%)	968	(7.6%)
	精神障害者 (n=4,262)	2,624	(61.6%)	98	(2.3%)	515	(12.1%)	1,171	(27.5%)	309	(7.3%)	383	(9.0%)
	発達障害 (n=1,995)	1,373	(68.8%)	154	(7.7%)	260	(13.0%)	514	(25.8%)	114	(5.7%)	103	(5.2%)
	難病等 (n=204)	135	(66.2%)	15	(7.4%)	28	(13.7%)	51	(25.0%)	18	(8.8%)	12	(5.9%)
所属事業所	入所施設 (n=1,776)	344	(19.4%)	740	(41.7%)	1,168	(65.8%)	258	(14.5%)	96	(5.4%)	78	(4.4%)
	通所施設のみ (n=18,304)	11,382	(62.2%)	811	(4.4%)	2,442	(13.3%)	5,323	(29.1%)	1,108	(6.1%)	1,452	(7.9%)
	利用していない (n=100)	58	(58.0%)	2	(2.0%)	6	(6.0%)	39	(39.0%)	4	(4.0%)	13	(13.0%)
一般就労しているか	働いている (n=699)	356	(50.9%)	27	(3.9%)	154	(22.0%)	192	(27.5%)	37	(5.3%)	75	(10.7%)
	働いていない (n=18,574)	10,907	(58.7%)	1,455	(7.8%)	3,256	(17.5%)	5,148	(27.7%)	1,120	(6.0%)	1,421	(7.7%)



6 歯科医療機関に通う上で、大変だと感じること (複数回答可)

表21に歯科医療機関に通う上で、大変だと感じることを示す。1人で行くことができないが33.3%で最も多かった。バリアフリーでないのは1.9%であった。(図25)

男女別では、傾向に大きな違いを認めなかった。(図25-1)

年齢区分別では、40代以下で1人で行くことができない、遠くて時間がかかるが多く、20代以上で付き添いの手配が必要が多かった。(図25-2)

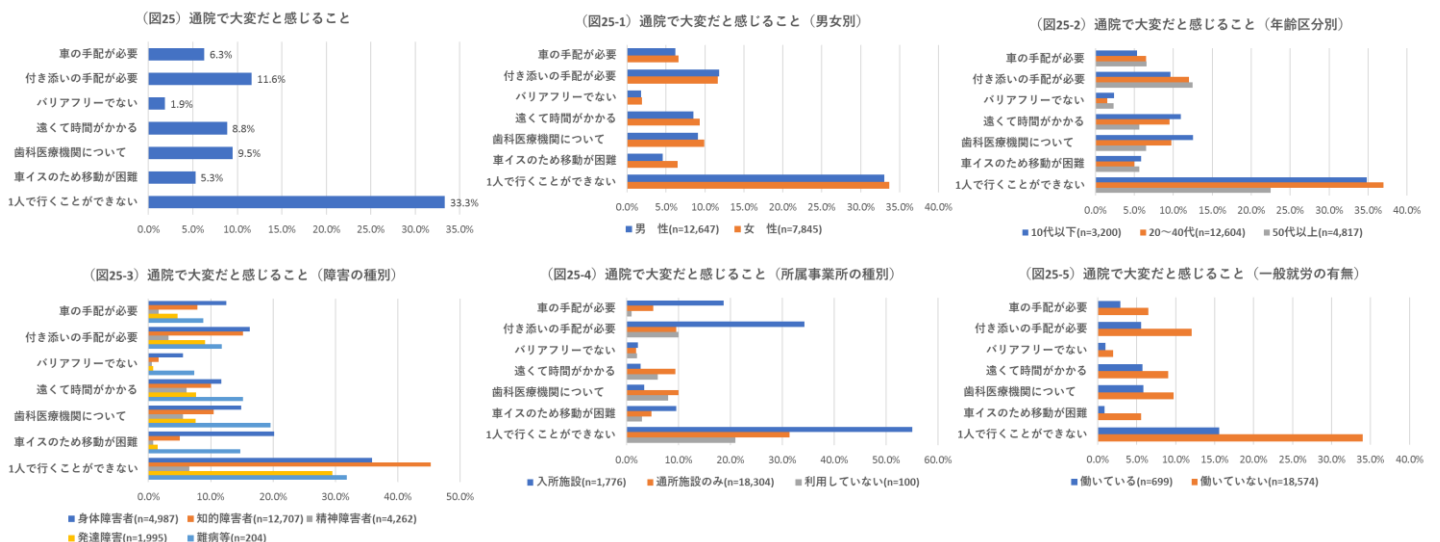
障害の種別では、知的障害者で1人で行くことができないが多かった。精神障害者ではすべての項目で他の障害と比して少なかった。身体障害者と難病等はすべての項目で多かった。(図25-3)

所属事業所の種別では、1人で行くことができないは入所施設、通所施設のみ、利用していないの順に多かった。入所施設では付き添い、車の手配が必要が多かった。(図25-4)

一般就労の有無では、すべての項目で働いていない者が多かった。(図25-5)

(表21) 歯科医療機関に通う上で、大変だと感じること (複数回答可)

	1人で行くことができない	車イスのために移動が困難	歯科医療機関について	遠くて時間がかかる	バリアフリーでない	付き添いの手配が必要	車の手配が必要	その他	未回答	
総数	(n=21,819)	7,264 (33.3%)	1,154 (5.3%)	2,066 (9.5%)	1,928 (8.8%)	406 (1.9%)	2,532 (11.6%)	1,369 (6.3%)	2,817 (12.9%)	10,290 (47.2%)
性別										
男性	(n=12,647)	4,180 (33.1%)	576 (4.6%)	1,149 (9.1%)	1,076 (8.5%)	228 (1.8%)	1,493 (11.8%)	781 (6.2%)	1,634 (12.9%)	5,998 (47.4%)
女性	(n=7,845)	2,644 (33.7%)	511 (6.5%)	779 (9.9%)	151 (1.9%)	914 (11.7%)	518 (6.6%)	1,005 (12.8%)	3,667 (46.7%)	
年齢区分										
10代以下	(n=3,200)	1,114 (34.8%)	187 (5.8%)	400 (12.5%)	350 (10.9%)	76 (2.4%)	308 (9.6%)	171 (5.3%)	459 (14.3%)	1,388 (43.4%)
20~40代	(n=12,604)	4,662 (37.0%)	632 (5.0%)	1,230 (9.8%)	1,201 (9.5%)	193 (1.5%)	1,514 (12.0%)	818 (6.5%)	1,650 (13.1%)	5,601 (44.4%)
50代以上	(n=4,817)	1,084 (22.5%)	270 (5.6%)	313 (6.5%)	272 (5.6%)	112 (2.3%)	601 (12.5%)	316 (6.6%)	542 (11.3%)	2,752 (57.1%)
障害の種別										
身体障害者	(n=4,987)	1,788 (35.9%)	1,005 (20.2%)	743 (14.9%)	582 (11.7%)	278 (5.6%)	812 (16.3%)	623 (12.5%)	569 (11.4%)	1,910 (38.3%)
知的障害者	(n=12,707)	5,752 (45.3%)	638 (5.0%)	1,328 (10.5%)	1,277 (10.0%)	211 (1.7%)	1,930 (15.2%)	997 (7.8%)	1,449 (11.4%)	4,861 (38.3%)
精神障害者	(n=4,262)	280 (6.6%)	33 (0.8%)	236 (5.5%)	261 (6.1%)	22 (0.5%)	138 (3.2%)	69 (1.6%)	720 (16.9%)	2,972 (69.7%)
発達障害	(n=1,995)	589 (29.5%)	30 (1.5%)	151 (7.6%)	152 (7.6%)	15 (0.8%)	181 (9.1%)	93 (4.7%)	347 (17.4%)	985 (49.4%)
難病等	(n=204)	65 (31.9%)	30 (14.7%)	40 (19.6%)	31 (15.2%)	15 (7.4%)	24 (11.8%)	18 (8.8%)	33 (16.2%)	84 (41.2%)
所属事業所										
入所施設	(n=1,776)	979 (55.1%)	170 (9.6%)	61 (3.4%)	48 (2.7%)	39 (2.2%)	609 (34.3%)	333 (18.8%)	82 (4.6%)	558 (31.4%)
通所施設のみ	(n=18,304)	5,760 (31.5%)	884 (4.8%)	1,830 (10.0%)	1,724 (9.4%)	336 (1.8%)	1,751 (9.6%)	939 (5.1%)	2,523 (13.8%)	8,850 (48.4%)
利用していない	(n=100)	21 (21.0%)	3 (3.0%)	8 (8.0%)	6 (6.0%)	2 (2.0%)	10 (10.0%)	1 (1.0%)	17 (17.0%)	56 (56.0%)
一般就労しているか										
働いている	(n=699)	109 (15.6%)	6 (0.9%)	41 (5.9%)	40 (5.7%)	7 (1.0%)	39 (5.6%)	20 (2.9%)	112 (16.0%)	440 (62.9%)
働いていない	(n=18,574)	6,314 (34.0%)	1,027 (5.5%)	1,802 (9.7%)	1,682 (9.1%)	362 (1.9%)	2,239 (12.1%)	1,200 (6.5%)	2,422 (13.0%)	8,582 (46.2%)



7 歯科治療を受ける上で、困っていること（複数回答可）

表22に歯科治療を受ける上で、困っていることを示す。最も多かった回答が、治療が怖いで20.1%、歯科医療機関で嫌な気分になったことがあるは2.8%と最も少なかった。（図26）

男女別では、傾向に大きな違いを認めなかった。（図26-1）

年齢区分別では、じっと座ってられない、口を開けることが困難、治療が怖いで10代以下が多かった。（図26-2）

障害の種別では、発達障害で治療が怖い、じっと座ってられないが多く、精神障害者では歯科医療機関で嫌な気分になったことがあるとその他が多かった。（図26-3）その他の意見としては痛い、口が開けられない、暴れる、大きな声を出す、大泣きする、嫌がる、お金がかかる、うがいができない、緊張する、コミュニケーションが取りづらいなどが挙げられた。これに加え、1回で終わらない、待ち時間が長いという意見が精神障害者にみられた。

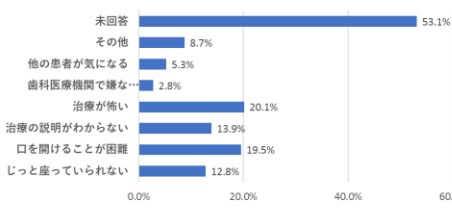
所属事業所の種別では、入所施設でほとんどの項目が多かった。（図26-4）

一般就労の有無では、働いていない者でほとんどの項目が多かった。（図26-5）

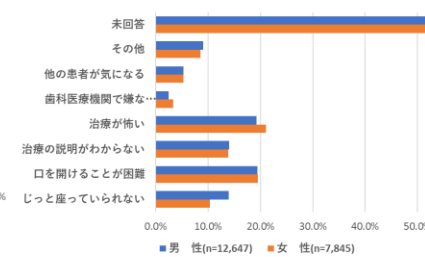
（表22）歯科治療を受ける上で、困っていること（複数回答可）

総数	じっと座ってられない	口を開けることが困難	治療の説明がわからない	治療が怖い	歯科医療機関で嫌な気分になる	他の患者が気になる	その他	未回答
(n=21,819)	2,783 (12.8%)	4,256 (19.5%)	3,033 (13.9%)	4,388 (20.1%)	607 (2.8%)	1,148 (5.3%)	1,904 (8.7%)	11,589 (53.1%)
性別								
男性 (n=12,647)	1,766 (14.0%)	2,458 (19.4%)	1,772 (14.0%)	2,435 (19.3%)	309 (2.4%)	674 (5.3%)	1,142 (9.0%)	6,754 (53.4%)
女性 (n=7,845)	809 (10.3%)	1,529 (19.5%)	1,088 (13.9%)	1,654 (21.1%)	258 (3.3%)	415 (5.3%)	669 (8.5%)	4,127 (52.6%)
年齢区分								
10代以下 (n=3,200)	1,073 (33.5%)	1,118 (34.9%)	535 (16.7%)	1,042 (32.6%)	85 (2.7%)	206 (6.4%)	264 (8.3%)	1,134 (35.4%)
20~40代 (n=12,604)	1,258 (10.0%)	2,313 (18.4%)	1,786 (14.2%)	2,460 (19.5%)	361 (2.9%)	726 (5.8%)	1,185 (9.4%)	6,713 (53.3%)
50代以上 (n=4,817)	255 (5.3%)	572 (11.9%)	560 (11.6%)	613 (12.7%)	126 (2.6%)	165 (3.4%)	374 (7.8%)	3,112 (64.6%)
障害の種別								
身体障害者 (n=4,987)	631 (12.7%)	1,260 (25.3%)	609 (12.2%)	701 (14.1%)	116 (2.3%)	178 (3.6%)	430 (8.6%)	2,680 (53.7%)
知的障害者 (n=12,707)	1,823 (14.3%)	2,828 (22.3%)	2,395 (18.8%)	2,619 (20.6%)	271 (2.1%)	819 (6.4%)	1,045 (8.2%)	6,474 (50.9%)
精神障害者 (n=4,262)	142 (3.3%)	396 (9.3%)	229 (5.4%)	752 (17.6%)	205 (4.8%)	168 (3.9%)	491 (11.5%)	2,543 (59.7%)
発達障害者 (n=1,995)	560 (28.1%)	553 (27.7%)	296 (14.8%)	667 (33.4%)	71 (3.6%)	148 (7.4%)	188 (9.4%)	777 (38.9%)
難病等 (n=204)	39 (19.1%)	61 (29.9%)	26 (12.7%)	38 (18.6%)	7 (3.4%)	13 (6.4%)	18 (8.8%)	89 (43.6%)
所属事業所								
入所施設 (n=1,776)	463 (26.1%)	553 (31.1%)	622 (35.0%)	429 (24.2%)	21 (1.2%)	198 (11.1%)	78 (4.4%)	683 (38.5%)
通所施設のみ (n=18,304)	2,063 (11.3%)	3,343 (18.3%)	2,208 (12.1%)	3,610 (19.7%)	539 (2.9%)	861 (4.7%)	1,705 (9.3%)	9,961 (54.4%)
利用していない (n=100)	9 (9.0%)	13 (13.0%)	6 (6.0%)	19 (19.0%)	4 (4.0%)	9 (9.0%)	4 (4.0%)	56 (56.0%)
一般就労しているか								
働いている (n=699)	46 (6.6%)	88 (12.6%)	50 (7.2%)	97 (13.9%)	19 (2.7%)	27 (3.9%)	68 (9.7%)	431 (61.7%)
働いていない (n=18,574)	2,358 (12.7%)	3,684 (19.8%)	2,645 (14.2%)	3,754 (20.2%)	519 (2.8%)	989 (5.3%)	1,650 (8.9%)	9,803 (52.8%)

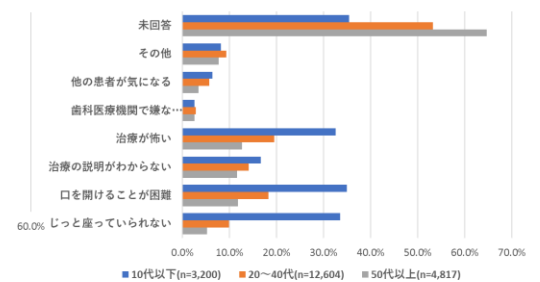
（図26）歯科治療を受ける上で困っていること



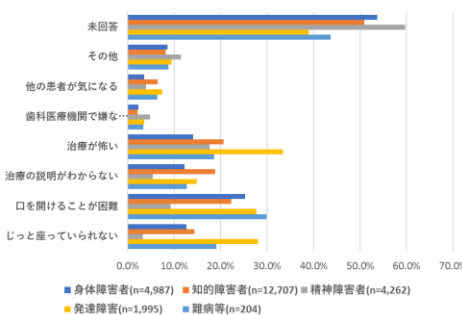
（図26-1）歯科治療を受ける上で困っていること（男女別）



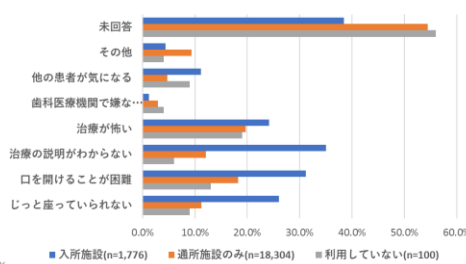
（図26-2）歯科治療を受ける上で困っていること（年齢区分別）



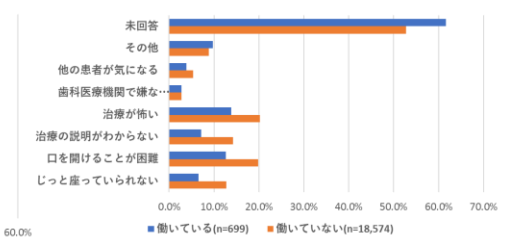
（図26-3）歯科治療を受ける上で困っていること（障害の種別）



（図26-4）歯科治療を受ける上で困っていること（所属事業所の種別）



（図26-5）歯科治療を受ける上で困っていること（一般就労の有無）



8 歯科医療機関に望むこと（複数回答可）

表23に歯科医療機関に望むことを示す。障害に配慮した丁寧な対応が27.4%で最も多かった。バリアフリーには5.7%、待合室を個室には5.4%で最も少なかった。（図27）

男女別では、傾向に大きな違いを認めなかった。（図27-1）

年齢区分別では、年代が若いほど望むことが多い傾向であった。（図27-2）

障害の種別では、発達障害で個室の要望が多く、精神障害者では望むことが少ない傾向であった。（図27-3）

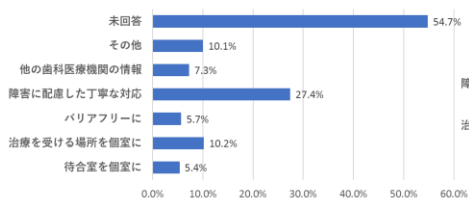
所属事業所の種別では、入所施設で望むことが多い傾向であったが、他の医療機関の情報については、利用していない、通所施設のみ、と入所施設の順に多かった。（図27-4）施設に頼ることができなければ、障害者が自ら情報を入手せざるを得ないことが示された。

一般就労の有無では、働いていない者で障害に配慮した丁寧な対応が多かった。（図27-5）

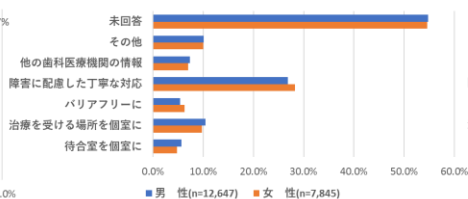
(表23) 歯科医療機関に望むこと (複数回答可)

		待合室を個室に	治療を受ける場所を個室に	バリアフリーに	障害に配慮した丁寧な対応	他の歯科医療機関の情報	その他	未回答
総数	(n=21,819)	1,179 (5.4%)	2,235 (10.2%)	1,247 (5.7%)	5,968 (27.4%)	1,590 (7.3%)	2,198 (10.1%)	11,944 (54.7%)
性別	男性 (n=12,647)	723 (5.7%)	1,327 (10.5%)	685 (5.4%)	3,396 (26.9%)	938 (7.4%)	1,282 (10.1%)	6,923 (54.7%)
	女性 (n=7,845)	380 (4.8%)	768 (9.8%)	493 (6.3%)	2,220 (28.3%)	551 (7.0%)	784 (10.0%)	4,282 (54.6%)
年齢区分	10代以下 (n=3,200)	270 (8.4%)	545 (17.0%)	264 (8.3%)	1,339 (41.8%)	336 (10.5%)	331 (10.3%)	1,274 (39.8%)
	20~40代 (n=12,604)	693 (5.5%)	1,266 (10.0%)	601 (4.8%)	3,292 (26.1%)	926 (7.3%)	1,379 (10.9%)	6,973 (55.3%)
	50代以上 (n=4,817)	152 (3.2%)	301 (6.2%)	321 (6.7%)	1,018 (21.1%)	237 (4.9%)	364 (7.6%)	3,026 (62.8%)
障害の種類	身体障害者 (n=4,987)	212 (4.3%)	455 (9.1%)	787 (15.8%)	1,312 (26.3%)	394 (7.9%)	549 (11.0%)	2,632 (52.8%)
	知的障害者 (n=12,707)	801 (6.3%)	1,381 (10.9%)	688 (5.4%)	3,891 (30.6%)	958 (7.5%)	1,259 (9.9%)	6,743 (53.1%)
	精神障害者 (n=4,262)	181 (4.2%)	346 (8.1%)	99 (2.3%)	786 (18.4%)	281 (6.6%)	455 (10.7%)	2,620 (61.5%)
	発達障害 (n=1,995)	201 (10.1%)	336 (16.8%)	68 (3.4%)	738 (37.0%)	184 (9.2%)	215 (10.8%)	860 (43.1%)
	難病等 (n=204)	9 (4.4%)	20 (9.8%)	31 (15.2%)	66 (32.4%)	26 (12.7%)	30 (14.7%)	85 (41.7%)
所属事業所	入所施設 (n=1,776)	193 (10.9%)	237 (13.3%)	197 (11.1%)	769 (43.3%)	58 (3.3%)	57 (3.2%)	785 (44.2%)
	通所施設のみ (n=18,304)	877 (4.8%)	1,821 (9.9%)	954 (5.2%)	4,742 (25.9%)	1,420 (7.8%)	1,981 (10.8%)	10,168 (55.6%)
	利用していない (n=100)	5 (5.0%)	8 (8.0%)	5 (5.0%)	32 (32.0%)	11 (11.0%)	7 (7.0%)	45 (45.0%)
一般就労しているか	働いている (n=699)	34 (4.9%)	60 (8.6%)	16 (2.3%)	122 (17.5%)	51 (7.3%)	69 (9.9%)	429 (61.4%)
	働いていない (n=18,574)	997 (5.4%)	1,900 (10.2%)	1,105 (5.9%)	5,145 (27.7%)	1,366 (7.4%)	1,901 (10.2%)	10,065 (54.2%)

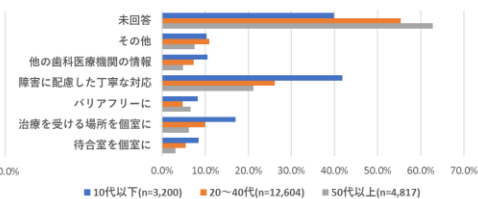
(図27) 歯科医療機関に望むこと



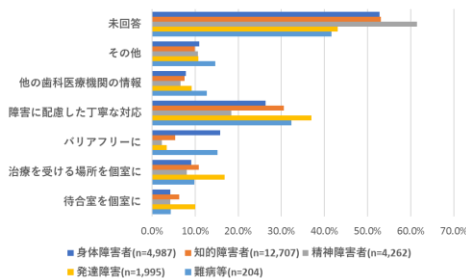
(図27-1) 歯科医療機関に望むこと (男女別)



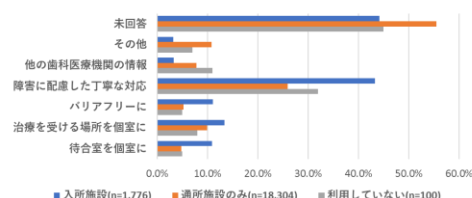
(図27-2) 歯科医療機関に望むこと (年齢区分別)



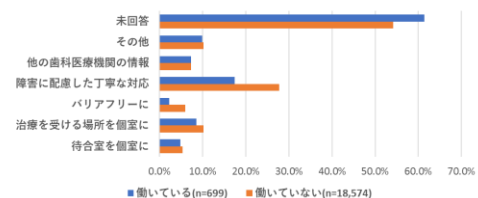
(図27-3) 歯科医療機関に望むこと (障害の種類別)



(図27-4) 歯科医療機関に望むこと (所属事業所の種類別)



(図27-5) 歯科医療機関に望むこと (一般就労の有無)



障害の種類や程度、利用している施設の違い、主に家族の付き添いの有無と思われる年代の違いによって、ニーズが異なることが示されたものの、歯科医療機関には障害に配慮した優しく丁寧な対応が求められていることは共通していた。地域の一次医療機関である歯科診療所と、遠方となる専門歯科医療機関での役割分担を進めることで、歯科医療へのアクセシビリティを高める必要もあると推察された。また、障害者への対応に関する歯科医療機関の情報提供についても、さらなる対応が必要であろう。特に、個別ニーズの違いを反映した情報提供が重要であると考えられる。